

茨城県教育財団文化財調査報告第442集

大堀東遺跡 2

小 貝 川 改 修 事 業 地 内
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書

下 卷

令 和 2 年 3 月

国土交通省関東地方整備局下館河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第442集

お お ほ り ひ が し
大堀東遺跡 2

小 貝 川 改 修 事 業 地 内
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書

下 卷

令 和 2 年 3 月

国土交通省関東地方整備局下館河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団

目 次

- 下 巻 -

第3章 調査の成果	
第3節 遺構と遺物	
2 平安時代の遺構と遺物	
(2) 井戸跡	271
(3) 火葬墓	291
(4) 墓 坑	292
(5) 溝 跡	292
(6) 土 坑	298
第550号土坑出土の埴塼片付着物自然科学分析	312
3 中世の遺構と遺物	325
(1) 掘立柱建物跡	325
(2) 火葬施設	326
(3) 地下式坑	338
(4) 井戸跡	341
(5) 溝 跡	345
(6) 土 坑	351
(7) ビット群	352
4 時期不明の遺構	354
(1) 掘立柱建物跡	354
(2) 井戸跡	358
(3) 柱穴列	361
(4) 溝 跡	368
(5) 土 坑	372
(6) ビット群	404
5 遺構外出土遺物	413
第4章 総 括	418
写真図版	PL 1～PL54
抄 録	
付 図	

(2) 井戸跡

第3号井戸跡 (第235図)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のR3d2区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.58m、短径1.48mの円形で、円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ80cmまで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

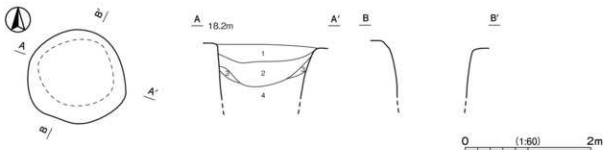
覆土 4層に分層できる。各層に粘土ブロックが含まれているものの、レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片9点(高台付椀6、甕類3)、灰軸陶器片2点(椀、瓶類)が、覆土中から出土している。遺物はいずれも細片のため、図示及び産地同定はできなかった。

所見 時期は、出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが、規模や周囲の遺構との関係から、9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。



第235図 第3号井戸跡実測図

第6号井戸跡 (第236図)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

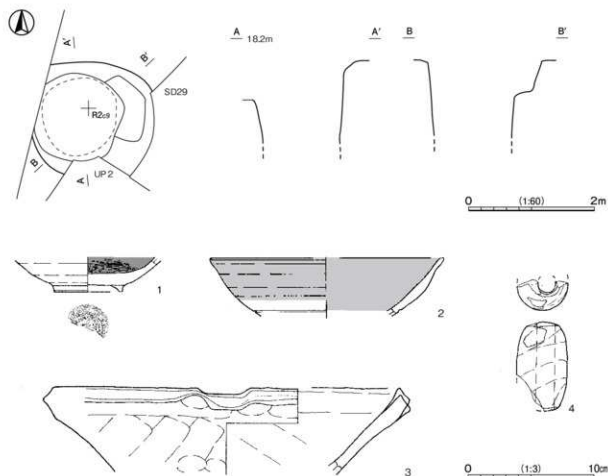
位置 調査Ⅲ区南部のR2c9区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第2号地下式坑、第29号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部が第2号地下式坑に掘り込まれ、西部が調査区域外に延びているため、東西径は1.95m、南北径は2.10mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定され、確認面から深さ50cmまでは漏斗状に、以下は円筒状に掘り込まれている。確認面から112cmまで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

遺物出土状況 土師器片26点(坏9、椀1、高台付坏1、高台付椀2、高台部分2、甕類11)、須恵器片2点(甕類)、陶器片3点(平碗1、片口鉢2)、土製品1点(管状土錘)が、覆土中から出土している。2・3は重複する第2号地下式坑に属するものと考えられ、埋没の際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第236図 第6号井戸跡・出土遺物実測図

第6号井戸跡出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	土陶器	高付付櫛	-	(27)	5.4	長石・石英・雲母・赤色鉄子	橙	普通	体部外面口クロナデ	内面へラ磨き、黒色処理	覆土中	10%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		釉薬	産地	出土位置	備考
2	陶器	平碗	[186]	(46)	-	観音 浅黄	体部外・内面口クロナデ	横け掛け	灰釉	瀬戸	覆土中	10%
3	陶器	片口鉢	[27.2]	(6.6)	-	観音 灰緑	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面ナデ	-	常滑	覆土中	5%
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考	
4	管状土鉢	7.1	4.2	1.6	(547)	長石・石英・細礫	にぶい橙	外面ナデ		覆土中	50%	

第7号井戸跡（第237図）

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3j2区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第116号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.66m、短径2.56mの円形で、漏斗状に掘り込まれている。確認面から深さ80cmまで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

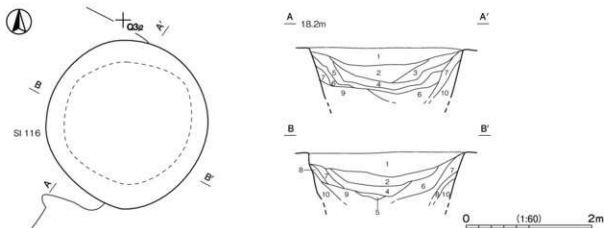
覆土 10層に分層できる。各層に粘土ブロックが含まれていることから、人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 粘土ブロック多量 |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック多量 | 7 黒褐色 粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 4 灰黄褐色 粘土ブロック多量（2より明） | 9 黒褐色 粘土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック少量 | 10 暗褐色 粘土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 18点（高台付碗8、甕類10）、須恵器片1点（甕類）、鉄滓1点が覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器と重複関係から、10世紀中葉以降と考えられる。



第237図 第7号井戸跡実測図

第8号井戸跡（第238図）

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のP3g2区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第127号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.35m、短径2.04mの楕円形で、長径方向はN-61°-Wである。漏斗状に掘り込まれ、確認面から深さ125cmまで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

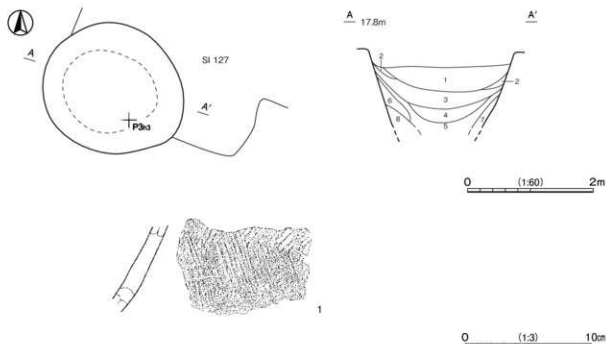
覆土 8層に分層できる。各層に粘土ブロックが含まれているものの、レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 8 灰黄褐色 粘土ブロック中量（6よりしまり強） |

遺物出土状況 土師器片8点（坏3、甕類5）、須恵器片1点（甕）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から、10世紀中葉以降と考えられる。



第 238 図 第 8 号井戸跡・出土遺物実測図

第 8 号井戸跡出土遺物観察表 (第 238 図)

番号	種別	器種	口径	器底	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須臾器	甕	-	(6.7)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部外面平行印と 内面ナデ	覆土中	新治産。

第 11 号井戸跡 (第 239 図)

調査年度 平成 25 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区南部の R 2 a0 区、標高 18 m の平坦部に位置している。

重複関係 第 220 号土坑を掘り込み、第 29 号溝に掘り込まれている。

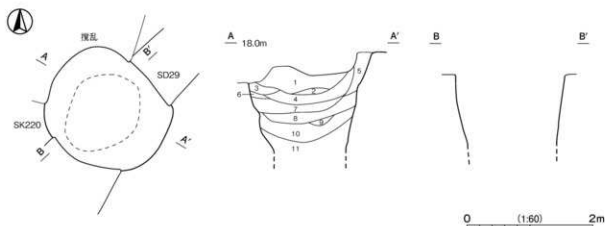
規模と形状 長径 2.02 m、短径 1.75 m の楕円形で、長径方向は N - 60° - W である。漏斗状に掘り込まれ、確認面から深さ 152 cm まで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

覆土 11 層に分層できる。各層とも粘土ブロック・炭化粒子が含まれているもの、レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|-----------|--------------------|
| 1 褐 灰 色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 褐 灰 色 | 黄褐色粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 灰 黄 褐色 | 黄褐色粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 8 褐 灰 色 | 粘土ブロック少量 |
| 3 暗 褐色 | 粘土ブロック少量 | 9 灰 黄 褐色 | 粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| 4 褐 灰 色 | 黄褐色粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 10 灰 黄 褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 5 黒 褐色 | 粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 11 褐 灰 色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 濃い黄褐色 | 黄褐色粘土ブロック中量 | | |

所見 時期は、出土土器がないため判断が困難であるが、時期を比定できた第 12 号井戸跡と類似した形状や、周囲の遺構との関係から、9 世紀後葉から 10 世紀中葉と考えられる。



第 239 図 第 11 号井戸跡実測図

第 12 号井戸跡 (第 240 図 PL28)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区南部の O 3e0 区、標高 18 m の平坦部に位置している。

重複関係 第 34 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.12 m、短径 1.78 m の楕円形で、長径方向は $N-68^{\circ}-E$ である。確認面から深さ 100cm までは漏斗状に、それ以下は円筒状に掘り込まれている。安全対策を行い、確認面から 198cm まで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

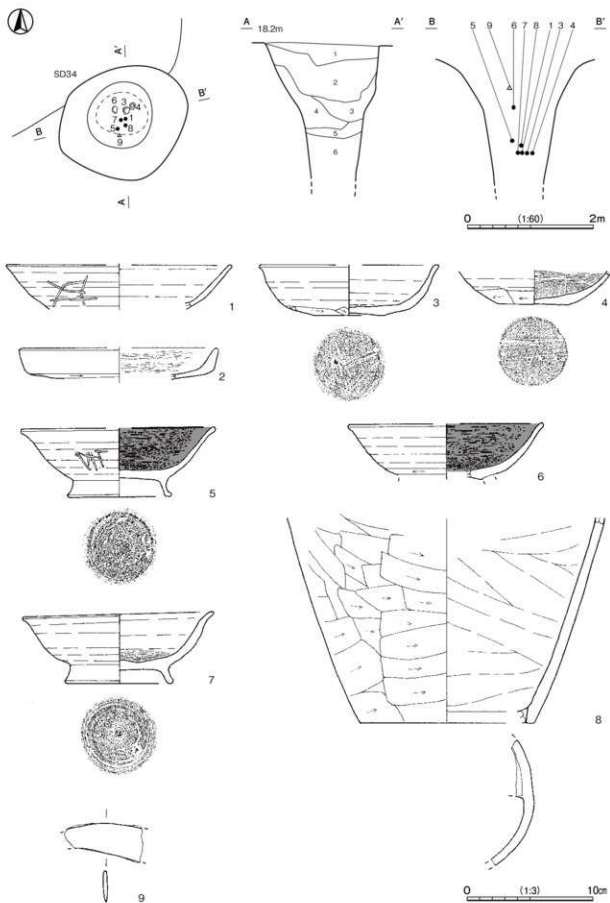
覆土 6 層に分層できる。第 1・2 層に焼土ブロックや炭化材・炭化物が含まれていること、中層以下に青灰色粘土ブロックが含まれている層が互層に堆積していることなどから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 白・黄褐色 焼土ブロック・炭化材・青灰色粘土ブロック少量 | 4 黒褐色 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 炭化物中量、焼土ブロック・青灰色粘土ブロック少量 | 5 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化物少量 | 6 黒褐色 青灰色粘土ブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 土師器片 153 点 (坏 48, 碗 14, 高台付坏 2, 高台付碗 5, 甕類 83, 甗 1), 須恵器片 21 点 (壺 1, 甕類 20), 灰軸陶器片 1 点 (碗), 金属製品 1 点 (鎌) が出土している。6・9 は第 2 層中から、1・3~5・7・8 は第 6 層の上層からまとまって出土している。これらとともに、一辺 20~40cm の被熱した雲母片岩が出土しており、本跡を埋め戻す際に、土器や竈構築部材の可能性のある礫を一括して投棄している可能性がある。7 は時期が遡ることから、埋め戻す際に混入したものと考えられる。灰軸陶器片は、細片のため図示及び産地の同定はできなかった。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。



第 240 图 第 12 号井戸跡・出土遺物実測図

第 12 号井戸跡出土遺物観察表 (第 240 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[18.0]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外・内面ロクロナデ	第6層	10% 体部外面 ヘラ磨き(表)
2	土師器	坏	[15.8]	(2.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面ヘラ磨り 内面ヘラ磨き	叢土中	20%
3	土師器	坏	[14.2]	4.0	5.6	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちヘラ磨り 底部多方向のヘラ磨り	第6層	60%
4	土師器	碗	-	(2.8)	5.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ロクロナデ 下縁手持ちヘラ磨り 内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ磨り	第6層	20%
5	土師器	高付付椀	[15.4]	5.4	8.3	長石・石英・雲母・細礫	にぶい褐	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き、黒色処理	第6層	60% PL29 体部外面 ヘラ磨き(裏)
6	土師器	高付付椀	[15.6]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ロクロナデ 下縁回転ヘラ磨り 内面ヘラ磨き、黒色処理 高付部細礫	第2層	20%
7	土師器	高付付椀	15.3	5.6	8.6	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	第6層	90% PL40 二次焼成
8	土師器	瓶	-	(16.3)	[13.8]	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	体部外面ヘラ磨り 内面ナデ	第6層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	鎌	(6.1)	(2.9)	0.3	(125.7)	鉄	刃部 先端部及び基部欠損	第2層	

第 13 号井戸跡 (第 241 図 PL28)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 2 次面

位置 調査Ⅲ区南部の R 3 j l 区、標高 18 m の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.07 m、短径 1.00 m の円形で、円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ 180 cm まで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

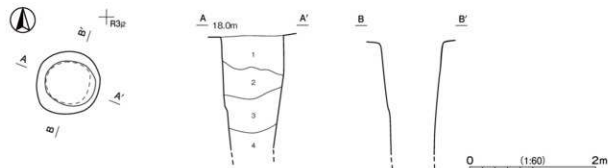
覆土 4 層に分層できる。第 1・4 層に青灰色粘土ブロックが多く含まれている層が堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、ロームブロック少量 3 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック・青灰色粘土ブロック少量 4 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量

遺物出土状況 緑釉陶器片 1 点 (皿) が覆土中層から出土しているが、細片のため図示及び産地の同定はできなかった。

所見 時期は、出土土器が少量でかつ細片であるため判断が困難であるが、周囲の遺構との関係から、9 世紀後葉から 10 世紀前葉と考えられる。しかし、径が 1 m 前後で、確認面から円筒状に掘り込まれている形状からは、時期が下がる可能性もある。



第 241 図 第 13 号井戸跡実測図

第14号井戸跡 (第242図 PL28)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3f2区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第29号溝に掘り込まれている。

規模と形状 上部を第29号溝に掘り込まれているため、確認できたのは、長径1.70m、短径1.68mの円形である。安全対策をして調査を行い、深さは270cmで、確認面から130cmまでは漏斗状に、以下は円筒状に掘り込まれている。底面は平坦である。

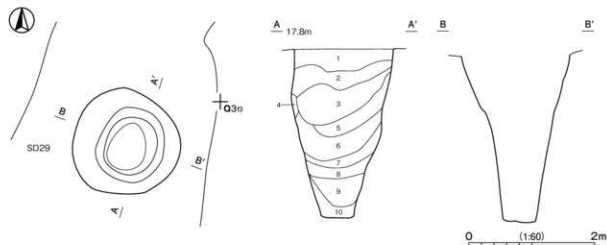
覆土 10層に分層できる。各層とも青灰色粘土ブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着微量 | 6 黒褐色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着微量 |
| 2 にい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着微量 | 7 黒褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着中量 |
| 3 黒褐色 青灰色粘土ブロック少量、炭化物・鉄分沈着微量 | 8 褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着少量 |
| 4 褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着微量 | 9 褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着中量 |
| 5 にい黄褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着微量 | 10 にい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片25点(高台付碗9、甕類16)、須恵器片3点(甕類)、銅滓1点が覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが、時期を比定できた第12号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から、9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。



第242図 第14号井戸跡実測図

第15号井戸跡 (第243図)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3h6区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第38号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため、長径1.62m、短径は0.64mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定される。安全対策をして調査を行い、深さは192cmで、確認面から120cmまでは漏斗状に、以下は円筒状に掘り込まれている。底面は平坦である。

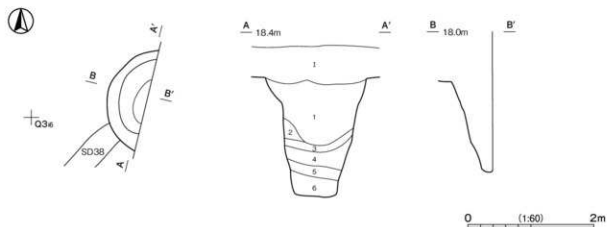
覆土 6層に分層できる。各層とも青灰色粘土ブロックが多く含まれていること、第2・5層に焼土ブロックが多く含まれていることなどから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック中量、炭化物少量(表土) | 4 灰黄褐色 | 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 |
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・青灰色粘土ブロック・炭化物少量 | 5 灰黄褐色 | 焼土ブロック多量、青灰色粘土ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・青灰色粘土ブロック・炭化物中量 | 6 灰黄褐色 | 青灰色粘土ブロック中量 |
| 3 黒色 | 炭化物多量、青灰色粘土ブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片7点(高台付坏1, 甕類6), 須恵器片1点(甕類), 軽石1点が覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが、時期を比定できた第12・30号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から、9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。



第243図 第15号井戸跡実測図

第16号井戸跡 (第244図 PL28)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のN3b0区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.63m、短径2.35mの楕円形で、長径方向はN-80°-Eである。確認面から深さ120cmまでは漏斗状に、以下は円筒状に掘り込まれている。安全対策を行い、確認面から276cmまで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

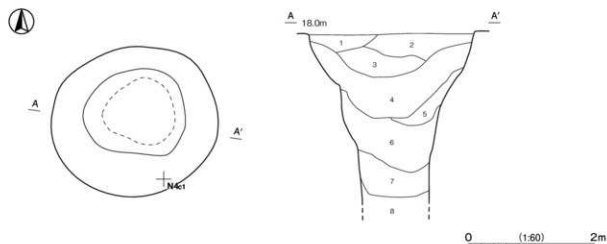
覆土 8層に分層できる。各層ともロームブロックや青灰色粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック少量、青灰色粘土ブロック・炭化物・鉄分沈着微量 | 5 灰黄褐色 | 青灰色粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・青灰色粘土ブロック・炭化物粒子・鉄分沈着微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化物粒子少量、青灰色粘土ブロック・鉄分沈着微量 |
| 3 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック少量、焼土ブロック・鉄分沈着微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量、青灰色粘土ブロック・炭化物粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック・青灰色粘土ブロック少量、炭化物微量 | 8 褐灰色 | 青灰色粘土ブロック多量、ロームブロック・鉄分沈着少量 |

遺物出土状況 土師器片10点(坏5, 高台付椀1, 甕類4), 陶器片5点(碗1, 甕類4)が, 覆土中から出土しているが, いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが, 時期を比定できた第12号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から, 9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。



第244図 第16号井戸跡実測図

第17号井戸跡 (第245図 PL28)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のN3b0区, 標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径258m, 短径216mの不整楕円形で, 長径方向はN-64°-Wである。確認面から深さ100cmまでは漏斗状に, 以下は円筒状に掘り込まれている。安全対策を行い, 確認面から285cmまで掘り下げた段階で, 湧水と崩落のおそれがあるため, 以下の調査を断念した。

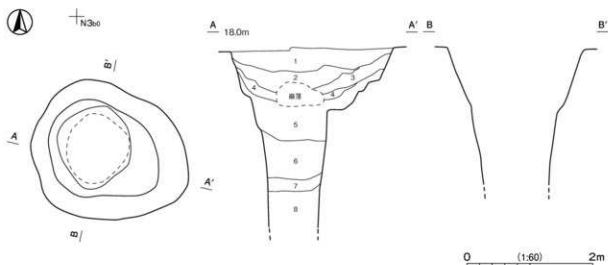
覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積しているが, 第2・8層に粘土ブロックが多く含まれていること, 第3・5層にロームブロックが多く含まれていることなどから, 埋め戻されている。第2層と第5層の間は崩落により空洞になっていた。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 におい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・鉄分沈着微量 | 5 灰黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 粘土ブロック・鉄分沈着微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・鉄分沈着微量 | 6 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 鉄分沈着微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子・鉄分沈着微量 | 7 黒褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化物・鉄分沈着微量 | 8 におい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 鉄分沈着中量 |

遺物出土状況 土師器片9点(高台付椀4, 甕類5), 須恵器片1点(甕類), 陶器片2点(碗)が覆土中から出土しているが, いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが, 時期を比定できた第12号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から, 9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。



第 245 図 第 17 号井戸跡実測図

第 20 号井戸跡 (第 246 図 PL28)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 1 次面

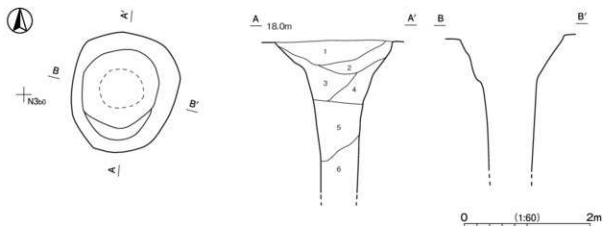
位置 調査Ⅲ区中央部の N 3 b 0 区, 標高 18 m の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.94 m, 短径 1.64 m の楕円形で, 長径方向は N - 14° - E である。確認面から深さ 70cm までは漏斗状に, 以下は円筒状に掘り込まれている。安全対策を行い, 確認面から 240cm まで掘り下げた段階で, 湧水と崩落のおそれがあるため, 以下の調査を断念した。

覆土 6 層に分層できる。第 1 ~ 4 層は, 不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。下層の第 5・6 層は自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量, 鉄分沈着微量 | 5 暗褐色 粘土ブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土粒子・鉄分沈着微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量 |



第 246 図 第 20 号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片2点(坏, 甕類), 金属製品1点(釘)が覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが、時期を比定できた第30号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から、9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。

第21号井戸跡(第247図)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のO3g5区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.90m、短径1.84mの円形である。安全対策をして調査を行い、深さは252cmである。確認面から深さ150cmまでは漏斗状に、以下は円筒状に掘り込まれている。底面は平坦である。

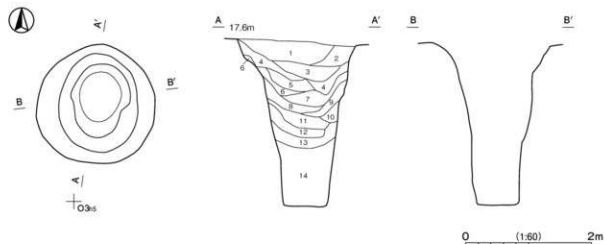
覆土 14層に分層できる。いずれも粘性の強い土で、第6層以下はレンズ状の自然堆積であるが、上位の第1～5層は白色粘土ブロックが多く含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 におい黄褐色 | ローム粒子中量、白色粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 灰黄褐色 | 白色粘土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 におい黄褐色 | 白色粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 におい黄褐色 | ローム粒子・白色粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 | ローム粒子中量、白色粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | 白色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 灰黄褐色 | 白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 におい黄褐色 | 白色粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 褐色 | 白色粘土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 灰黄褐色 | 白色粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック少量 |
| 7 灰黄褐色 | 白色粘土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 14 褐色 | 白色粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片11点(椀3, 高台付椀1, 甕類7), 金属製品1点(不明)が覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが、時期を比定できた第12号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から、9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。



第247図 第21号井戸跡実測図

第22号井戸跡 (第248図 PL29)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のO3g5区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.34m、短径1.29mの円形である。確認面から深さ150cmまでは漏斗状に、以下は円筒状に掘り込まれている。安全対策を行い、確認面から253cmまで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

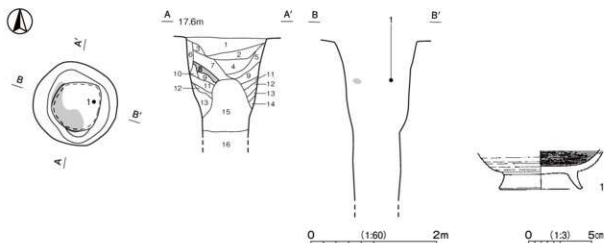
覆土 16層に分層できる。第1～7層は、レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。第8層は焼土粒子がやや多量に含まれている層で、埋没過程で投棄されたものと考えられる。第15・16層が埋め戻されたあと、第9～14層がレンズ状に自然堆積している。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|----------|-----------------------|
| 1 灰黄褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 灰黄褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐灰色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐灰色 | ローム粒子微量 | 11 灰黄褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐灰色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 褐灰色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 灰黄褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 14 灰黄褐色 | ローム粒子微量 |
| 7 褐灰色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 15 灰黄褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 8 褐灰色 | ローム粒子・焼土粒子中量 | 16 濃い黄褐色 | 粘土ブロック中量、炭化物・砂粒少量 |

遺物出土状況 土師器片34点(碗12、高台付碗1、甕類21)、粘土塊3点、被熱燻1点が出土している。1は覆土中層で、焼土層とほぼ同じ高さから出土しており、埋没過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第248図 第22号井戸跡・出土遺物実測図

第22号井戸跡出土遺物観察表 (第248図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付碗	-	(3.1)	(6.4)	長石・石英	濃い赤褐色	普通	体部外面ロクロナテ 内面へつ巻き、黒色処理	覆土中層	30%

第 24 号井戸跡 (第 249 図)

調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区中央部の J 4 g9 区、標高 18 m の平坦部に位置している。

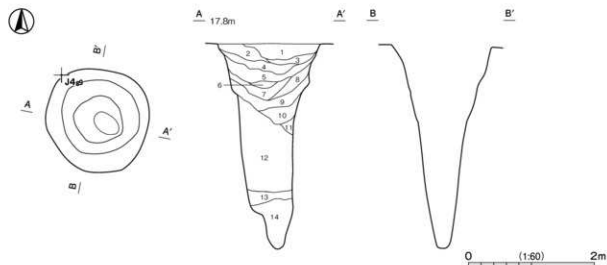
規模と形状 長径 1.76 m、短径 1.64 m の円形である。安全対策をして調査を行い、深さは 324 cm である。確認面から 90 cm までは漏斗状に、以下は円筒状に掘り込まれている。底面はビット状に掘りくぼめられている。

覆土 14 層に分層できる。第 1 - 11 層はレンズ状に堆積し、ロームブロックが含まれている暗褐色土が 1 m ほどの厚さで堆積している第 12 層とは不整合面をなしており、下層を埋め戻したあと、自然堆積したと考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・黒色砂粒微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、鉄分沈着少量
3 暗褐色	ロームブロック・赤褐色粘土ブロック微量	9 暗褐色	ロームブロック・鉄分沈着少量
4 暗褐色	黄褐色粘土ブロック・鉄分沈着少量、ロームブロック微量	10 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック少量、黄褐色粘土ブロック・鉄分沈着微量	11 暗褐色	黄褐色砂粒・鉄分沈着微量
6 灰黄褐色	ロームブロック中量、黒色砂粒・鉄分沈着微量	12 暗褐色	ロームブロック微量、鉄分沈着少量
		13 褐灰色	ロームブロック微量
		14 にい黄褐色	シルト多量、鉄分沈着微量

所見 時期は、遺物の出土がないため判断が困難であるが、時期を比定できた第 12・30 号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から、9 世紀後葉以降と考えられる。



第 249 図 第 24 号井戸跡実測図

第 27 号井戸跡 (第 250 図)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区南部の O 3 e6 区、標高 18 m の平坦部に位置している。

重複関係 第 239 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.84 m, 短径1.03 mの楕円形で, 長径方向はN-47°-Wである。確認面から深さ120cmまでは漏斗状に, 以下は円筒状に掘り込まれている。安全対策を行い, 確認面から222cmまで掘り下げた段階で, 湧水と崩落のおそれがあるため, 以下の調査を断念した。

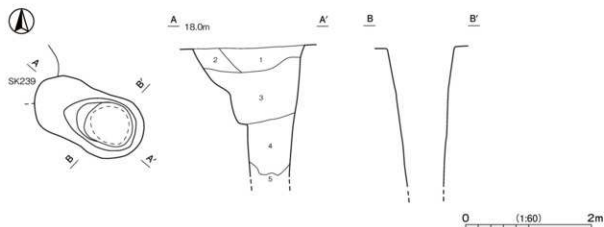
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックや青灰色粘土ブロックが含まれており, 特に第3層は多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 青灰色粘土ブロック微量 | 3 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック中量, ロームブロック微量 |
| 2 褐灰色 | ロームブロック・青灰色粘土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| | | 5 褐色 | ロームブロック中量, 青灰色粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片4点(碗), 須恵器片1点(甕類), 金属製品1点(不明)が覆土中から出土しているが, いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが, 時期を比定できた第30号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から, 9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。



第250図 第27号井戸跡実測図

第28号井戸跡 (第251図)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のP3c6区, 標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第1次面の第33号溝跡が本跡の上位(第1次面)に位置しているが, 直接的な重複はない。

規模と形状 長径1.13 m, 短径0.94 mの楕円形で, 長径方向はN-70°-Wである。安全対策をして調査を行い, 深さは198cmで, 円筒状に掘り込まれている。底面は平坦である。

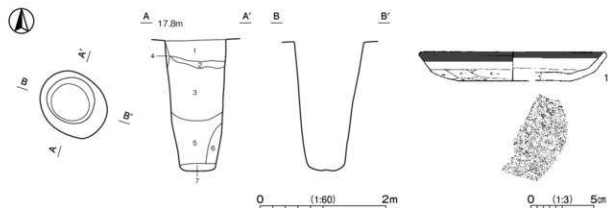
覆土 7層に分層できる。第3層以下は, ロームブロックや青灰色粘土ブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 濃い黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 青灰色粘土ブロック・焼土粒子微量 | 4 褐灰色 | 青灰色粘土ブロック・鉄分沈着少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐灰色 | 青灰色粘土ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 5 褐灰色 | 青灰色粘土ブロック中量, 鉄分沈着少量 |
| 3 濃い黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 6 褐灰色 | ロームブロック中量 |
| | | 7 褐灰色 | 青灰色粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片6点(坏1, 皿1, 甕類4)が, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や周囲の遺構との関係から, 9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。1はやや時期が過ることから, 埋没の過程で混入したものと考えられる。



第251図 第28号井戸跡・出土遺物実測図

第28号井戸跡出土遺物観察表(第251図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[146]	23	[88]	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外面横ナゲ 体部外面へウケリ 内面ナゲ	覆土中	20% 口縁部に僅

第29号井戸跡(第252図)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のP3h5区, 標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.30m, 短径1.24mの円形である。確認面から深さ130cmまでは漏斗状に, 以下は円筒状に掘り込まれている。確認面から172cmまで掘り下げた段階で, 湧水と崩落のおそれがあるため, 以下の調査を断念した。

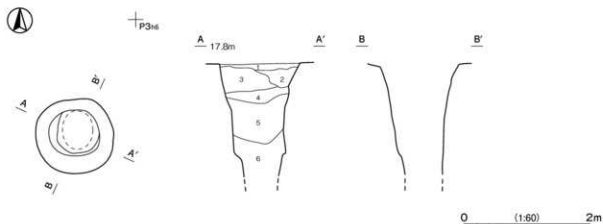
覆土 6層に分層できる。青灰色粘土ブロックが含まれている層が不自然に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック・鉄分沈着少量, 焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 灰黄褐色 | 青灰色粘土ブロック多量, 炭化物・焼土粒子微量, 鉄分沈着少量 | 6 褐色 | 青灰色粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片11点(高台付碗5, 小皿1, 甕類5), 須恵器片1点(甕類)が覆土中から出土しているが, いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが, 時期を比定できた第30号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から, 9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。土師器の小皿片が出土していることから, 11世紀代まで下がる可能性もある。



第 252 図 第 29 号井戸跡実測図

第 30 号井戸跡 (第 253・254 図 PL29)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 2 次面

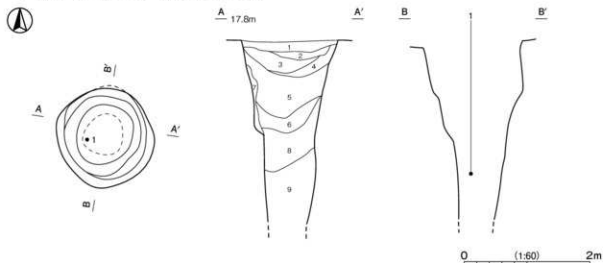
位置 調査Ⅲ区南部の P 3 区、標高 18 m の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.58 m、短径 1.54 m の円形である。確認面から深さ 150cm までは漏斗状に、以下は円筒状に掘り込まれている。安全対策を行い、確認面から 280cm まで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

覆土 9 層に分層できる。第 2・8 層には青灰色粘土ブロックが、第 3・7 層には焼土ブロックや炭化物が多く含まれており、埋め戻されている。

土層解説

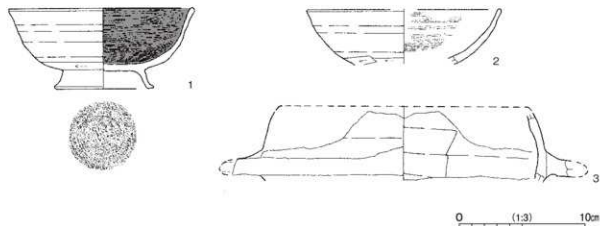
- | | | | |
|---------|---------------------------|----------|------------------------------|
| 1 黒 褐色 | 青灰色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰 黄 褐色 | 青灰色粘土ブロック・炭化物少量、鉄分沈着微量 |
| 2 褐 灰色 | 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 7 黒 褐色 | 炭化物多量、焼土ブロック中量、青灰色粘土ブロック微量 |
| 3 にい青褐色 | 焼土ブロック中量、青灰色粘土ブロック・炭化粒子少量 | 8 褐 灰色 | 青灰色粘土ブロック多量、炭化物・鉄分沈着少量 |
| 4 褐 灰色 | 青灰色粘土ブロック少量 | 9 暗 褐色 | ロームブロック中量、青灰色粘土ブロック微量、鉄分沈着少量 |
| 5 褐 灰色 | 焼土ブロック・青灰色粘土ブロック微量 | | |



第 253 図 第 30 号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片 57 点 (坏 1, 椀 6, 高台付椀 3, 甕類 46, 羽釜 1), 須恵器片 1 点 (坏), 粘土塊 1 点が出土している。1 は覆土下層から出土しており, 埋没の過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀前葉以前と考えられる。



第 254 図 第 30 号井戸跡出土遺物実測図

第 30 号井戸跡出土遺物観察表 (第 254 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高付付椀	14.5	6.4	7.1	長石・石英・細礫	橙	普通	体部外面ロクロナデ, 下層回転へつ割り 内面へつ巻き, 黒色彫刻	覆土下層	80% PL40
2	土師器	高付付椀	15.4	(4.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ, 下層手持ちへつ割り 内面へつ巻き	覆土中	20%
3	土師器	羽釜	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	に白い赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土中	5%

第 32 号井戸跡 (第 255 図 PL29)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 2 次面

位置 調査Ⅲ区南部の R 3 b2 区, 標高 18 m の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.05 m, 短径 0.93 m の楕円形で, 長径方向は N-0° である。安全対策をして調査を行い, 深さは 282cm で, 円筒状に掘り込まれている。底面は皿状である。

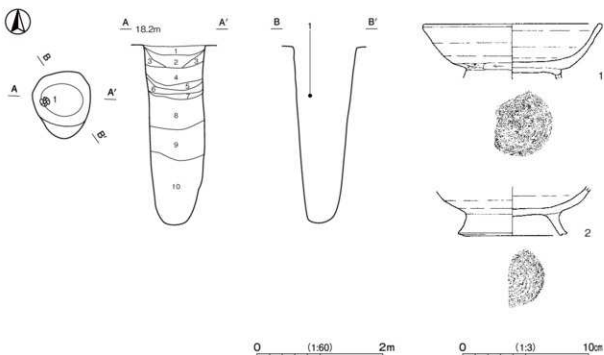
覆土 10 層に分層できる。各層とも灰白色・青灰色粘土ブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。特に第 5 層は焼土ブロックが多量に含まれており, 埋没の過程で投棄されたものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 灰黄褐色 | 青灰色粘土中量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 4 灰黄褐色 | 青灰色粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 | 9 灰黄褐色 | 青灰色粘土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子多量, 青灰色粘土ブロック中量 | 10 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 69 点 (坏 23, 高台付坏 7, 高台付椀 13, 高台部分 3, 甕類 23), 金属製品 1 点 (刀子), 粘土塊 1 点が出土している。1 は覆土中層から逆位で出土しており, 埋没の過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。ただし径が 1 m 前後で, 確認面から円筒状に掘り込まれる形状から, より時期が下がる可能性もある。



第255図 第32号井戸跡・出土遺物実測図

第32号井戸跡出土遺物観察表(第255図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付椀	139	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちへラ	覆土中層	70% PL40
2	土師器	高台付椀	-	(3.8)	[7.6]	長石・石英・赤母赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土中	30%

第34号井戸跡(第256図 PL29)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のM3d9区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第43号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径1.06mの円形で、確認面から漏斗状に掘り込まれている。確認面から深さ186cmまで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

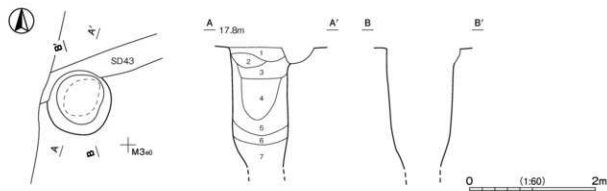
覆土 7層に分層できる。第5～7層が堆積後、ビット状に掘り込まれた可能性があり、その後第1～4層が埋め戻された可能性がある。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|----------|-----------------------|
| 1 灰黄褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 5 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量、鉄分沈着少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量 |
| 4 にぶい褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片10点(高台付椀4、小皿2、甕類4)が覆土中から出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが、時期を比定できた第30号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から、9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。土師器の小皿片が出土していることから、11世紀代まで下がる可能性もある。



第256図 第34号井戸跡実測図

表4 平安時代井戸跡一覧表

番号	位置	構造面	長径方向	平面形	規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	R 3d2	1	-	円形	1.58 × 1.48	(80)	-	円筒状	自然	土師器、灰釉陶器	
6	R 2c9	1	-	[円形・楕円形]	(210) × (195)	(112)	-	漏斗状	-	土師器、須恵器、陶器、土製品	本跡→UP2、SD29
7	Q 3g2	1	-	円形	2.66 × 2.56	(80)	-	漏斗状	人為	土師器、須恵器、鉄滓	SI116→本跡
8	P 3g2	1	N-61°-W	楕円形	2.35 × 2.04	(125)	-	漏斗状	自然	土師器、須恵器	SI127→本跡
11	R 2a0	1	N-60°-W	楕円形	2.02 × 1.75	(152)	-	漏斗状	自然		SK220→本跡→SD29
12	O 3e0	1	N-68°-E	楕円形	2.12 × 1.78	(108)	-	漏斗状	人為	土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品	SD34→本跡
13	R 3j1	2	-	円形	1.07 × 1.00	(180)	-	円筒状	人為	緑釉陶器	
14	Q 3d2	2	-	円形	1.70 × 1.68	270	平坦	漏斗状	人為	土師器、須恵器、銅滓	本跡→SD29
15	Q 3b6	2	-	[円形・楕円形]	1.62 × (0.64)	192	平坦	漏斗状	人為	土師器、須恵器、軽石	SD38→本跡
16	N 3b0	1	N-80°-E	楕円形	2.63 × 2.35	(276)	-	漏斗状	人為	土師器、陶器	
17	N 3b0	1	N-61°-W	不整形円形	2.58 × 2.16	(285)	-	漏斗状	人為	土師器、須恵器、陶器	
20	N 3b0	1	N-14°-E	楕円形	1.94 × 1.64	(240)	-	漏斗状	人為 自然	土師器、金属製品	
21	O 3g2	2	-	円形	1.90 × 1.84	252	平坦	漏斗状	人為 自然	土師器、金属製品	
22	O 3g5	2	-	円形	1.34 × 1.29	(253)	-	漏斗状	人為 自然	土師器、粘土塊、被焼煉	
24	J 4g9	1	-	円形	1.76 × 1.64	324	ピット状	漏斗状	人為 自然		
27	O 3e6	1	N-47°-W	楕円形	1.84 × 1.03	(222)	-	漏斗状	人為	土師器、須恵器、金属製品	SK229→本跡
28	P 3e6	2	N-70°-W	楕円形	1.13 × 0.94	198	平坦	円筒状	人為	土師器	
29	P 3b5	2	-	円形	1.30 × 1.24	(172)	-	漏斗状	人為	土師器、須恵器	
30	P 3j6	2	-	円形	1.58 × 1.54	(280)	-	漏斗状	人為	土師器、須恵器、粘土塊	
32	R 3b2	2	N-0°	楕円形	1.05 × 0.93	282	圓状	円筒状	人為	土師器、金属製品、粘土塊	
34	M 3d9	1	-	円形	1.06 × 1.06	(186)	-	漏斗状	人為	土師器	本跡→SD43

(3) 火葬墓

第1号火葬墓 (第257図 PL27)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のR3e3区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第200号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.71m、短径0.56mの楕円形で、長径方向はN-55°-Wである。深さは19cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

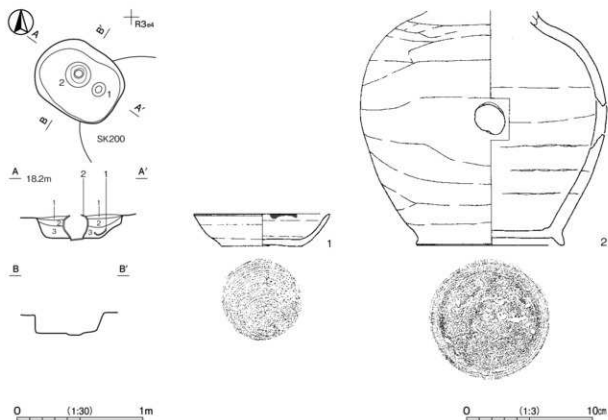
覆土 3層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
2 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器1点(小皿)、須恵器1点(長頸瓶)が出土している。2は、頸部を打ち欠き、体部中央に外面からの穿孔が施されており、遺構中央部の底面に据えられた状態で出土している。2の脇には1が正位で出土している。2の蓋として使用されていたものが、埋め戻しの際に落下したものと考えられる。1は、口縁部に油煙が付着していることから、灯明皿として利用されていたものと考えられる。

所見 2の内部から人骨は確認できなかったが、遺物のセット関係及び出土状況から火葬墓と判断した。また、1と2の遺物では時期差がある。時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第257図 第1号火葬墓・出土遺物実測図

第1号火葬墓出土遺物観察表(第257図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	小皿	107	26	64	長石・石英・雲母・細砂	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転車切り	覆土下層	100% PL43 に南宮跡隣接 石垣遺
2	須恵器	長頸瓶	-	(186)	116	長石・石英・細砂	灰白色	普通	体部外・内面横長のナデ の穿孔 内面輪轆み車 外面中央部外面から 底部ナデ	底面	90% PL46 新治窯。

(4) 墓坑

第1号墓坑(第258図 PL29)



第258図 第1号墓坑実測図

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ35区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第260号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第260号土坑に掘り込まれているため、南北軸0.74m、東西軸0.74mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定され、南北軸は $N-10^{\circ}-E$ である。壁は高さ10cmで、外傾している。底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。粘土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 にぶい黄褐色 粘土ブロック・炭化物少量

2 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化物少量

遺物出土状況 土師器片1点(坏)が出土しているが、細片のため図示できなかった。また覆土下層から、歯と下顎の一部が出土している。

所見 時期は時期決定のできる出土土器がないため明確ではないが、重複する第260号土坑や周辺の様相から10世紀前葉以前と考えられる。

(5) 溝跡

第34号溝跡(第259・260図 PL23)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のN37f~O3e0区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第12号井戸、第247・248号土坑、第11号ピット群に掘り込まれている。

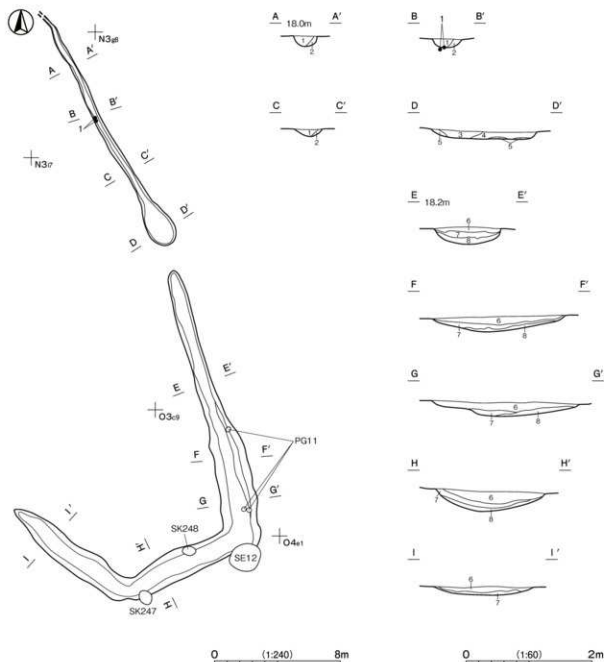
規模と形状 コの字状を呈している。調査時は2条の溝としていたが、一部途絶えるところがあるものの、走行方向が一致していることから、一連の溝と判断した。北側は、N37f区から南東方向($N-152^{\circ}-E$)に直線状に16.9m延びている。南側は、N3j9区から南東方向($N-164^{\circ}-E$)に直線状に18.5m、そこから南西方向($N-243^{\circ}-E$)に屈曲して9.5mで、O3d6区から南東方向($N-125^{\circ}-E$)に9.0m延びている。規模は上幅0.22~1.92m、下幅0.12~1.08m、深さ10~32cmで、北側にいくほど幅が細く、浅くなっている。断面は浅いU字状で、底面は北西部が高く、南東部に向かって20cm下がっている。

覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

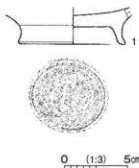
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック中量 | 5 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック・炭化粒子少量、鉄分沈着微量 |
| 2 暗褐色 | 青灰色粘土ブロック中量 | 6 暗褐色 | 青灰色粘土ブロック少量 |
| 3 褐灰色 | 青灰色粘土ブロック・鉄分沈着少量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック多量 |
| 4 褐灰色 | 青灰色粘土ブロック・鉄分沈着少量、炭化粒子微量 | 8 灰黄褐色 | 青灰色粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)、須恵器片1点(高台付坏)が出土している。1は北側の底面から出土している。



第259図 第34号溝跡実測図



第260図 第34号溝跡出土遺物実測図

第34号溝跡出土遺物観察表(第260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須壺型	高付付帯	-	(29)	82	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体外・内面ロクロナデ	北側底面	40% 折断面

第45号溝跡(第261～263図 PL23)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のN37～O4g1区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第1次面の第12号井戸に掘り込まれ、第355・358号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。本跡が埋没後、南部に第101・102・135号堅穴建物が、また本跡の上位(第1次面)にほとんど間層なく、第34号溝が構築されるが、本跡との直接的な重複はない。

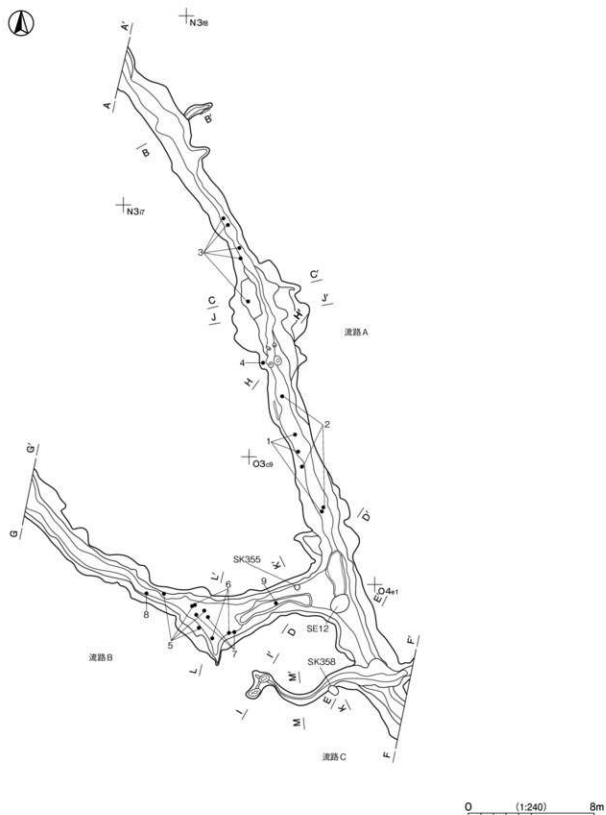
規模と形状 Y字状に南流しており、調査時は走行方向が異なる3条と認識していたが、それぞれに新旧関係は確認できず、一連の溝と判断した。流路Aは、北西部が調査区域外から続き、N37区から南東方向(N-158°-E)に直線状に48.0m延び、南東部は調査区域外に続いている。流路Bは、北西部は調査区域外から続き、O3c5区から南東方向(N-125°-E)に弧状に22mほど延び、O3e0区で流路Aと合流している。流路Cは、O3f9区から東方向(N-82°-E)に8.0m延び、O4e2区で流路Aに合流し、東部は調査区域外に延びている。規模は、上幅0.30～2.92m、下幅0.10～2.50m、確認面からの深さは26～64cmで、地点により差が大きい。底面は凹凸が著しく、西部が高く、東部に向かって30cm下がっている。断面はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 18層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

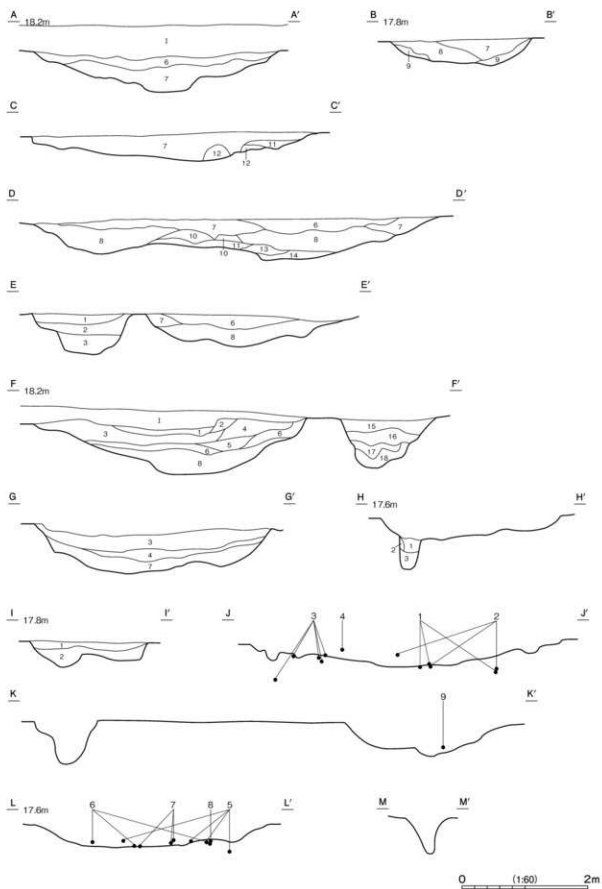
土層解説

1 褐 褐色 (表土)	10 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量、鉄分沈着少量
1 褐 灰色 粘土ブロック微量	11 褐 灰色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
2 褐 灰色 粘土ブロック・鉄分沈着微量	12 黄 褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量、鉄分沈着少量
3 褐 灰色 粘土ブロック多量、鉄分沈着中量	13 褐 灰色 粘土ブロック・鉄分沈着少量
4 灰黄褐色 粘土ブロック・鉄分沈着中量	14 黄 褐色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
5 褐 灰色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量	15 灰黄褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量
6 灰黄褐色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量	16 褐 灰色 粘土ブロック・鉄分沈着少量
7 じい色褐色 粘土ブロック・鉄分沈着多量	17 褐 灰色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
8 褐 灰色 粘土ブロック多量、炭化粒子微量、鉄分沈着中量	18 黒 褐色 粘土ブロック・鉄分沈着微量
9 黒 褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量、鉄分沈着少量	

遺物出土状況 縄文土器片 32 点 (深鉢, 土師器片 25 点 (坏 11, 甕類 14), 須恵器片 28 点 (坏) が出土している。1~4 は, 流路 A の底面付近から, それぞれ 3~5 点に分割して出土している。5~9 は, 流路 B の緩やかな弧を描く幅広の部分の底面から, それぞれ 3~4 点に分割して出土している。

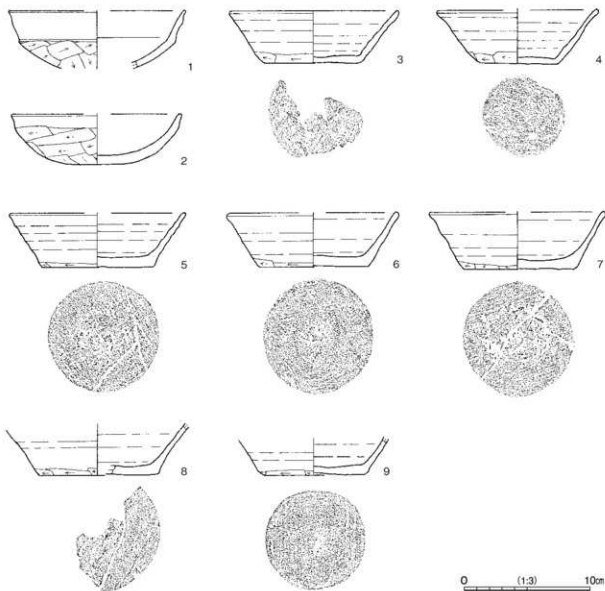


第 261 図 第 45 号溝跡実測図 (1)



第 262 图 第 45 号沟迹实测图 (2)

所見 時期は、出土土器と遺構の重複関係から、8世紀後葉以降に埋没し始め、第101号竪穴建物跡が構築される10世紀前葉期までには完全に埋没したものと考えられる。形状が不整で、底面が凹凸であることなどから、人工的に掘削されたものとするより、自然流路の可能性が高い。流路Bの須恵器坏がまとめて投棄されたような出土状況は、何らかの祭祀的な行為も推測できる。当遺跡の主要な遺構は、9世紀後葉から11世紀初頭であるが、本跡で確認できる遺物はこれより1世紀以上遡ることから、調査区域外に当期の遺構が存在する可能性がある。



第263図 第45号溝跡出土遺物実測図

第 45 号溝跡出土遺物観察表 (第 263 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[140]	(46)	-	長石・石英	明褐色	普通	1. 縁部外・内面横ナデ 内部ナデ 2. 体部外面下縁ヘウ削り	流路A底面	40% PL31
2	土師器	坏	[133]	4.0	4.5	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	1. 縁部外・内面横ナデ 内部ナデ 2. 体部外面ヘウ削り	流路A底面	50% PL31
3	須恵器	坏	13.2	4.1	7.5	長石・石英・雲母・細礫	灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちヘウ削り 底部一方向のヘウ削り	流路A底面	50% PL31 新直産
4	須恵器	坏	[126]	4.3	6.4	長石・石英・細礫	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちヘウ削り 底部一方向のヘウ削り	流路A底面	50% 新直産
5	須恵器	坏	[138]	4.3	8.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちヘウ削り 底部一方向のヘウ削り	流路B底面	40% 新直産
6	須恵器	坏	[134]	4.3	8.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちヘウ削り 底部一方向のヘウ削り	流路B底面	50% 新直産
7	須恵器	坏	[13.8]	4.5	8.8	長石・石英・雲母・細礫	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちヘウ削り 底部一方向のヘウ削り	流路B底面	50% PL31 新直産
8	須恵器	坏	-	(4.1)	[9.6]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちヘウ削り 底部一方向のヘウ削り	流路B底面	20% 新直産
9	須恵器	坏	-	(2.9)	8.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁手持ちヘウ削り 底部一方向のヘウ削り	流路B底面	20% 新直産

表 5 平安時代溝跡一覧表

番号	位置	確認面	方向	平面形	規 模			断面	傾 斜	覆 土	主な出土遺物	備 考	
					長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
34	N37° O30°	1	N-132°-E N-164°-E N-243°-E N-125°-E	コの字状	53.9	0.22- 1.92	0.12- 1.08	10-32	U字状	緩斜	自然	土師器、須恵器	本跡→SE12、 SK247-248、PG11
45	N37° O49°	2	N-158°-E N-125°-E N-89°-E	Y字状	(78.0)	0.30- 2.92	0.10- 2.50	26-64	U字状	緩斜	自然	縄文土器、土師器、須恵器	SE12(1表跡)→ 本跡 SK35-36と新直産

(6) 土坑

第 191 号土坑 (第 264 図)

調査年度 平成 24 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区南部の R 37 区、標高 18 m の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 3.54 m、短径 3.30 m の不整形である。深さは 38 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。各層に、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

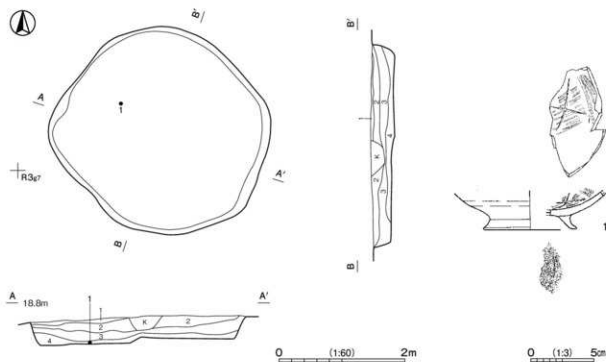
- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
 2 濃い黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 89 点 (坏 45、椀 3、高台付坏 1、高台付椀 6、高台部分 3、甕類 31)、須恵器片 1 点 (甕類)、鉄滓 1 点が出土している。遺物は、1 を含め細片などが底面から覆土下層にかけて多く出土している。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀前半と考えられる。

第 191 号土坑出土遺物観察表 (第 264 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	-	(3.1)	[7.3]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘウ削り	底面	30% 底部内面 ヘウ削りあり



第264図 第191号土坑・出土遺物実測図

第192号土坑 (第265・266図 PL29)

調査年度 平成24年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のS4e6区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.94m、短径0.80mの楕円形で、長径方向はN-57°-Wである。深さは22cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

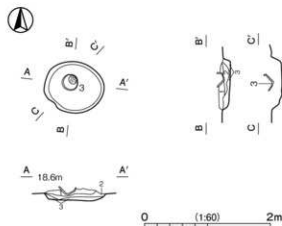
覆土 3層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

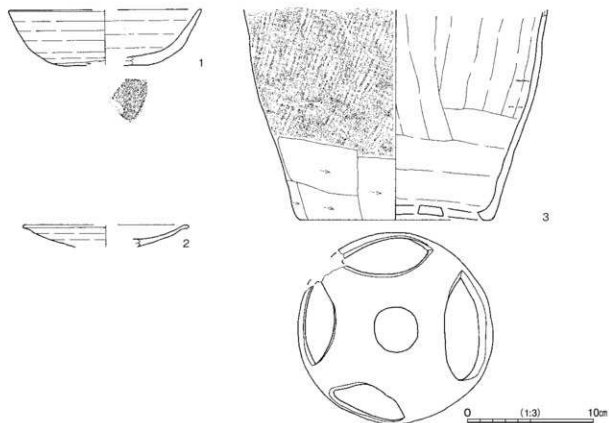
- 1 褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片16点(坏12, 甕類4), 須恵器片8点(坏1, 瓶7), 灰軸陶器片1点(皿)が出土している。3は、覆土上層から斜位で出土していることから、埋め戻しに伴って遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第265図 第192号土坑実測図



第 266 図 第 192 号土坑出土遺物実測図

第 192 号土坑出土遺物観察表 (第 266 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	[152]	4.4	[70]	長石・石英・雲母	にふい黄褐色	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下層回転ヘラ削り	覆土中	10%
2	灰釉陶器	瓶	[130]	(1.7)	-	長石・石英	褐	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土中	20% 未調査
3	須恵器	瓶	-	(16.7)	15.4	長石・石英	灰	普通	五孔式 体部外面土位種子目焼き、下位機位のヘラ削り 内面輪・機位のナデ、輪轆み根 底部ヘラナデ 孔部ヘラ削り	覆土中層～ 上層	50% PL46 新調査

第 195 号土坑 (第 267 図)

調査年度 平成 24 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区南部の S 3c2 区、標高 18m の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.93m、短径 0.74m の楕円形で、長径方向は N - 62° - W である。深さは 25cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

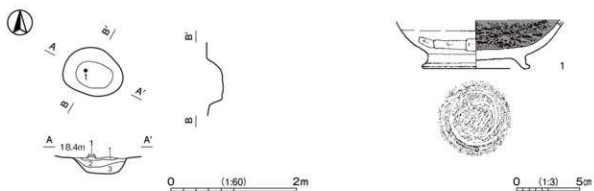
1 にふい黄褐色 焼土ブロック・炭化物微量

3 褐 色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量

2 にふい黄褐色 灰化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 4 点 (輪 2, 高台付杯 1, 高台部分 1) が出土している。1 は覆土上層から逆位で出土しており、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、周囲の様相及び出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。



第267図 第195号土坑・出土遺物実測図

第195号土坑出土遺物観察表(第267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付椀	—	(3.8)	8.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面口コナダ 外面下縁へラ磨き、黒色処理 内面へラ磨き、黒色処理 底面回転へラ切り	覆土上層	20%

第200号土坑(第268図)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部R3e4区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第1号火葬墓に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.13m、短径1.09mの円形である。深さは40cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

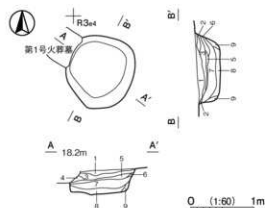
覆土 9層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 3 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 にい黄褐色 粘土ブロック少量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子微量
- 6 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 9 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片13点(坏7、高台付椀2、甕類4)、須恵器片3点(坏2、甕類1)、土製品1点(羽口)、鉄滓1点が出土している。埋め戻しに伴って遺棄されたものと考えられる。遺物は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器及び第1号火葬墓との重複関係から9世紀後葉以前と考えられる。



第268図 第200号土坑実測図

第226号土坑（第269図）

調査年度 平成24年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3f1区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第125号竪穴建物跡を掘り込み、第32号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.18m、短径0.82mの楕円形で、長径方向はN-39°-Eである。深さは48cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

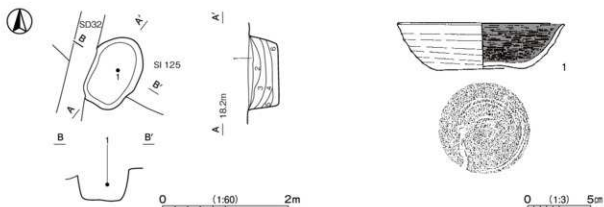
覆土 6層に分層できる。粘土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量 | 5 黒褐色 粘土ブロック・炭化物微量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック少量、炭化物微量 | 6 暗褐色 粘土ブロック多量、炭化物微量 |

遺物出土状況 土師器片1点（碗）が覆土中層から出土している。出土状況から、埋め戻す際に投げ込まれたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器及び第125号竪穴建物跡との重複関係や形状から9世紀後葉から10世紀前葉と考えられる。



第269図 第226号土坑・出土遺物実測図

第226号土坑出土遺物観察表（第269図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	土師器	碗	13.1	3.9	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい	普通	体部外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	内面へうろき、黒色処理	覆土中層	20% PL34

第239号土坑（第270図）

調査年度 平成24年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のO3e5区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第27号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 南東部を第27号井戸に掘り込まれているが、長径1.12m、短径1.06mの円形と推定できる。深さは45cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

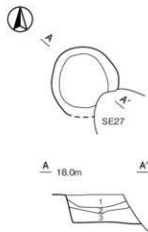
覆土 3層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐灰色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量
- 2 褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師器片 11点（坏5、甕類6）、須恵器片1点（甕類）が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器及び第27号井戸跡との重複関係から9世紀後葉から10世紀中葉と考えられる。



0 (1:60) 1m

第270図 第239号土坑実測図

第242号土坑（第271・272図）

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のN4il区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第145号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.42m、短径0.82mの楕円形で、長径方向はN-31°-Eである。深さは28cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

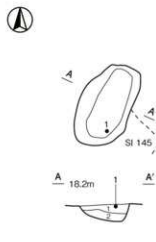
覆土 2層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量

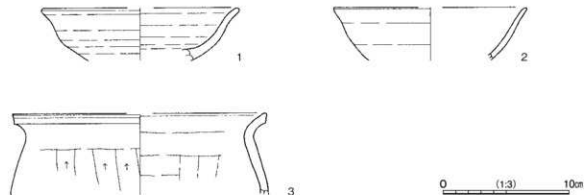
遺物出土状況 土師器片56点（碗15、高台部分1、甕類39、瓶1）が出土している。遺物は主に覆土中層から上層にかけて出土しており、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器及び第145号竪穴建物跡との重複関係から10世紀中葉と考えられる。



0 (1:60) 1m

第271図 第242号土坑実測図

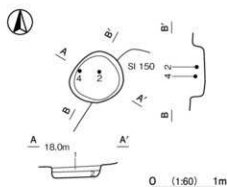


第272図 第242号土坑出土遺物実測図

第 242 号土坑出土遺物観察表 (第 272 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	椀	[15.4]	(4.1)	-	長石・石英・滑石・赤色粘土・褐色粘土・黒色粘土・黒曜	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土上層	30%
2	土師器	椀	[15.2]	(4.2)	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面へう書き摩滅	覆土中	20%
3	土師器	甕	[20.0]	(6.5)	-	長石・石英・赤色粘土	褐	普通	体部外面縦位のへう面り, 横位のナデ 内面縦・横位のナデ	覆土中	10%

第 255 号土坑 (第 273・274 図)



第 273 図 第 255 号土坑実測図

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 2 次面

位置 調査Ⅲ区南部の R 3 a3 区, 標高 18 m の平坦部に位置している。

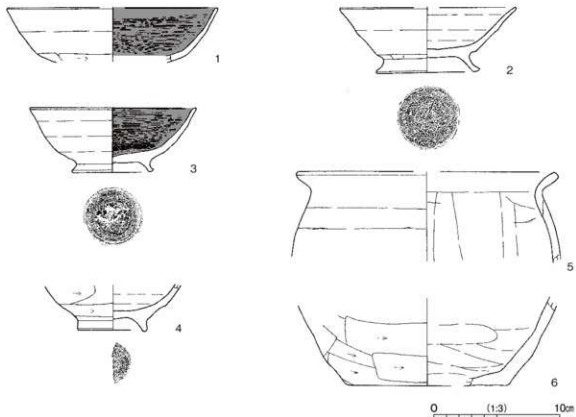
重複関係 第 150 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.88 m, 短径 0.77 m の楕円形で, 長径方向は N-60°-E である。深さは 20 cm で, 壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 2 層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック中量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 2 褐 灰 色 粘土ブロック多量



第 274 図 第 255 号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 57 点 (坏 2, 碗 15, 高台付坏 2, 高台付碗 2, 高台部分 1, 甕類 34, 瓶 1), 石器 1 点 (紙石), 焼成粘土塊 1 点が出土している。遺物は覆土中層から上層にかけて多く出土しており, 2・4も覆土上層から斜位で出土していることから, ほとんどが埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。

第 255 号土坑出土遺物観察表 (第 274 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[166]	(43)		長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	体部外面ナデ, 下縁回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き (口縁部摩滅), 黒色処理	覆土中	60%
2	土師器	高台付坏	[139]	5.3	7.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面下縁回転ヘラ削り	覆土上層	50%
3	土師器	高台付碗	131	5.2	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き, 黒色処理 底部内面二方向のヘラ磨き	覆土中	80% PL30
4	土師器	高台付碗	-	(37)	[54]	長石・石英・赤色粒子・副産物	橙	普通	体部下縁回転ヘラ削り 内面ロクロナデ	覆土上層	30%
5	土師器	甕	[202]	(72)	-	長石・石英・雲母・副産物	明赤褐	普通	口縁部ナデ 体部外面横位のナデ 内面縦・横位のナデ 輪組み直	覆土中	10%
6	土師器	甕	-	(71)	[127]	長石・石英・雲母・副産物	にぶい橙	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面横位のナデ 底部ヘラ削り	覆土中	10%

第 259 号土坑 (第 275 図)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 2 次面

位置 調査Ⅲ区南部の R3c4 区, 標高 18m の平坦部に位置している。

重複関係 第 151 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.22m ほどの円形である。深さは 50cm で, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

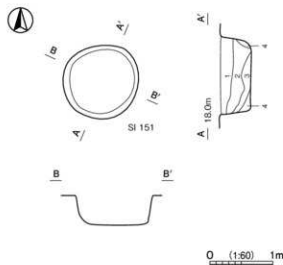
覆土 4 層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量
- 3 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量
- 4 灰黄褐色 粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 16 点 (碗 1, 高台付碗 1, 甕類 14), 須恵器片 1 点 (甕類) が出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 出土遺物は少ないが, 周辺の様相と円筒状の形状から平安時代の土坑と判断した。時期は, 出土土器及び第 151 号堅穴建物跡との重複関係から, 10 世紀中葉から後葉と考えられる。



第 275 図 第 259 号土坑実測図

第260号土坑（第276図）

調査年度 平成25年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ35区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第264・285号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.32m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN-31°-Wである。深さは20cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

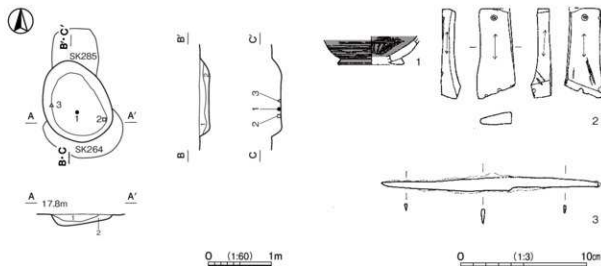
土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック中量

2 灰黄褐色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片4点（高台付坏）、石器1点（砥石）、金属製品1点（刀子）が出土している。遺物は底面から出土していることから、遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第276図 第260号土坑・出土遺物実測図

第260号土坑出土遺物観察表（第276図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	使用	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	-	(23)	[5.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒	普通	体部外・内面へラ磨き、黒色処理	底面	10%
2	砥石	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特徴	出土位置	備考
		7.1	2.9	1.7	(33.29)	凝灰岩			縦面四面 上部に両方向からの穿孔による孔、裏面・側面に擦切痕	底面	PL51
3	刀子	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特徴	出土位置	備考
		17.4	1.7	0.2~0.3	2008	鉄			断面池三角形	底面	PL53

第264号土坑（第277・278図 PL30）

調査年度 平成26年度

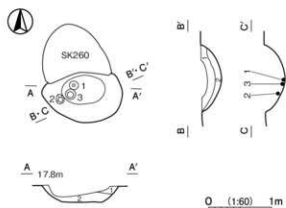
確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ35区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第260号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第260号土坑に北部を掘り込まれているが、長径1.26m、短径0.84mの楕円形と推定でき、長径方向はN-87°-Wである。深さは30cmで、壁は緩斜している。底面は皿状である。

覆土 2層に分層できる。粘土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。



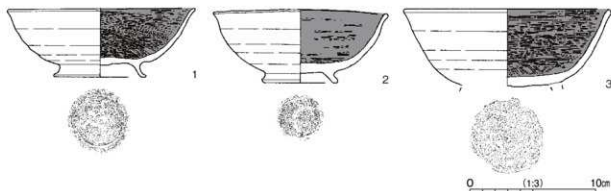
第277図 第264号土坑実測図

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック多量、炭化物中量

遺物出土状況 土師器片13点（坏1、碗5、高台付坏1、高台付碗2、甕類4）が出土している。1～3は底面から正位の状態で並んで出土していることから、遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第278図 第264号土坑出土遺物実測図

第264号土坑出土遺物観察表（第278図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付碗	14.9	5.4	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き、黒色処理 底部内面二方向のヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	底面	95% PL39
2	土師器	高台付碗	13.6	5.8	5.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き（摩滅）、 黒色処理 底部回転未切り	底面	70% PL39
3	土師器	高台付碗	16.3	(6.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き、黒色処理 底部内面二方向のヘラ磨き 底部回転ヘラ切り 底面回転磨	底面	80% PL39

第284号土坑（第279・280図）

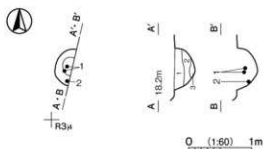
調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のR34区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 東部は第2次面の調査区域外へ延びているため、南北径は0.58mで、東西径は0.22mしか確認できなかった。円形もしくは楕円形と推定でき、南北径方向はN-15°-Eである。深さは32cmで、壁は外傾している。底面は皿状である。

覆土 3層に分層できる。焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。



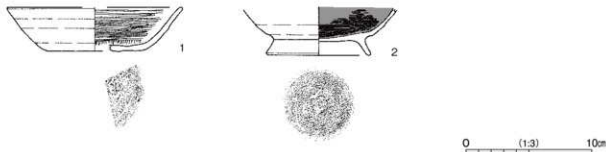
第 279 図 第 284 号土坑実測図

土層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 3 灰黄褐色 焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 7 点 (坏 1, 高台付坏 1, 甕類 4, 瓶 1), 鉄滓 1 点が出土している。1 は破片の状態で覆土上層から出土しており, 2 は覆土中層から斜位で出土していることから, とともに埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。

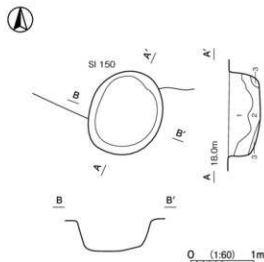


第 280 図 第 284 号土坑出土遺物実測図

第 284 号土坑出土遺物観察表 (第 280 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.8]	3.5	[7.8]	灰石・石英・雲母	橙	普通	外部外面ロクロナデ 内面へう磨き 底部回転へう切り	覆土上層	20%
2	土師器	高台付坏	-	[3.8]	8.0	灰石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外部外面ロクロナデ 内面へう磨き、黒色処理 底部回転へう切り	覆土中層	40%

第 300 号土坑 (第 281・282 図 PL30)



第 281 図 第 300 号土坑実測図

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 2 次面

位置 調査Ⅲ区南部の R 3b4 区, 標高 18 m の平坦部に位置している。

重複関係 第 150 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.35 m, 短径 1.15 m の楕円形で, 長径方向は N - 20° - E である。深さは 46 cm で, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

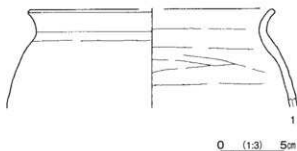
覆土 3 層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化物少量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック多量, 炭化物少量
- 3 褐灰色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師器片3点(高台付椀, 高台部分, 甕)が出土している。

所見 出土遺物は少ないが, 時期は, 出土土器及び第150号竪穴建物跡との重複関係から10世紀前葉と考えられる。



第282図 第300号土坑出土遺物実測図

第300号土坑出土遺物観察表(第282図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[193]	[78]	-	長石・石英・雲母	にんべん	普通	口縁部ナデ 体部外・内面横位のナデ	覆土中	10%

第312号土坑(第283図)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のR3a4区, 標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第150号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.19m, 短径1.09mの円形である。深さは42cmで, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

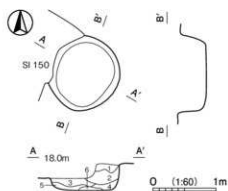
覆土 6層に分層できる。粘土ブロックや炭化物が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰黄褐色 炭化物中量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量, 炭化物少量
- 3 暗褐色 粘土ブロック中量
- 4 黒褐色 粘土ブロック少量
- 5 灰黄褐色 粘土ブロック少量
- 6 黒褐色 粘土ブロック中量, 炭化物少量

遺物出土状況 土師器片4点(高台付椀1, 高台部分2, 甕類1)が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 出土遺物は少ないが, 周囲の第300号土坑と類似した形状から同時期のものと判断した。時期は, 出土土器及び第150号竪穴建物跡との重複関係から, 10世紀前葉と考えられる。



第283図 第312号土坑実測図

第502号土坑(第284・285図)

調査年度 平成28年度

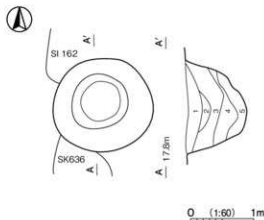
確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区北部のL3i0区, 標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第162号竪穴建物跡, 第636号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.62m, 短径1.52mの円形である。深さは72cmで, 壁は外傾している。底面は皿状である。

覆土 5層に分層できる。粘土ブロックや炭化物が含まれていることから, 埋め戻されている。



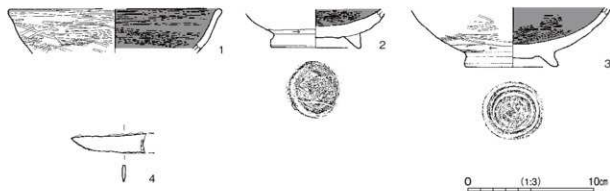
土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子微量 (5よりしまり弱)
- 5 暗 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片 28点 (坏10, 碗5, 高台付坏2, 高台付碗6, 高台部分1, 甕類4), 金属製品1点 (刀子), 被熱礫1点が出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。

第284図 第502号土坑実測図



第285図 第502号土坑出土遺物実測図

第502号土坑出土遺物観察表 (第285図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[168]	(35)	-	長石・石英	橙	普通	体外外・内面へう磨き 内面黒色処理	覆土中	10%
2	土師器	高台付坏	-	(31)	69	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体外外面下縁回転へう磨り 内面へう磨き、黒色処理	覆土中	30%
3	土師器	高台付坏	-	(47)	71	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体外外・内面へう磨き 外面下縁回転へう磨り 内面黒色処理	覆土中	40%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
4	刀子	(59)	1.5	0.3	(581)	鉄	刃部断面三角形 柄部欠損			覆土中	

第550号土坑 (第286・287図 PL30)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区北部のE55区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.64m、短径0.56mの楕円形で、長径方向はN-4°-Eである。深さは25cmで、壁は外傾している。底面は凹凸である。

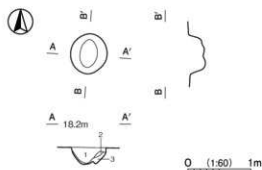
覆土 3層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

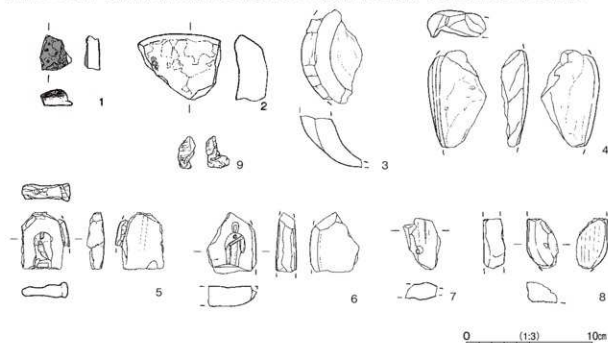
遺物出土状況 土師器片 12 点 (碗 2, 高台付杯 10), 須恵器片 1 点 (坏), 土製品 73 点 (鋳型), 鉾津 1 点のほか, 縄文土器片 2 点 (深鉢) が出土している。鋳型片は, 覆土中層から上層にかけて散在して出土しており, 廃棄されたものと考えられる。細片のため, 何の製品の鋳型なのかは不明であるが, いずれも小型な製品と考えられる。形状や胎土などから 5~8 は同一個体の可能性があり, そのほか 2 個体分以上あるものと考えられる。

所見 鋳型片のほか鉾津の付着した増嶋片や増嶋として



第 286 図 第 550 号土坑実測図

使用されていた土師器片及び増嶋から分離したと思われる鉾津 1 点が出土しており, 自然科学分析を行った。詳細については, 自然科学分析の結果を参照されたい。時期は, 出土土器から 10 世紀中葉と考えられる。



第 287 図 第 550 号土坑出土遺物実測図

第 550 号土坑出土遺物観察表 (第 287 図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(1.2)	-	長石・石英	橙	普通	体部外・内面へラ磨き	内面鉾津付着	覆土中	10% 産地不明
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考	
2	増嶋	(5.2)	(6.7)	(2.6)	(72.2)	長石・石英・細礫	橙 灰褐色	内面鉾津付着		覆土中	PL50	
3	鋳型	(7.4)	(4.9)	4.0	(69.66)	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	球体状の鋳型の一部		覆土中		
4	鋳型	(7.7)	(4.6)	2.2	(47.70)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	外面十字調整		覆土中	PL49	
5	鋳型	(4.5)	(3.9)	1.4	(18.65)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色 灰色	外面十字調整 内面被熱により灰色に変化		覆土中	PL49 4~8と同一個体	
6	鋳型	(4.3)	(3.9)	1.3	(26.95)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色 灰色	外面十字調整 内面被熱により灰色に変化。筋状の跡		覆土中	PL49 5・7・8と同一個体	
7	鋳型	(4.1)	(3.0)	1.4	(12.71)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色 灰色	外面十字調整 内面被熱により灰色に変化。筋状の跡		覆土中	PL49 5・6・8と同一個体	
8	鋳型	(4.0)	(2.5)	1.8	(13.20)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色 灰色	外面十字調整 筋状の跡 内面被熱により灰色に変化		覆土中	PL49 5~7と同一個体	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	特徴		出土位置	備考	
9	鉾津	(2.5)	(1.3)	(1.8)	(3.7)	銅	赤色	流動津		覆土中		

第 550 号土坑出土の埴埴片付着物自然科学分析

第 550 号土坑から出土した埴埴片とされる試料 3 点について自然科学分析を実施した。分析試料および保存処理資料の一覧を表 6 に示す。

表 6 分析資料一覧

資料番号	遺物番号	名称	遺構番号	蛍光 X 線分析
1	2	埴埴片 1	第 550 号土坑	○
2	1	埴埴片 2	第 550 号土坑	○
3	9	埴埴片 3	第 550 号土坑	○

1. 試料

試料は第 550 号土坑から出土した埴埴として用いられたと考えられる金属が付着している土器片 2 点（埴埴片 1・2）と、鉛滓と思われる試料 1 点（埴埴片 3）である。

2. 分析手法

蛍光 X 線分析によって、金属の種類を推定した。エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置を用いて、定性分析により元素の同定を行い、ファンダメンタル・パラメーター法（FP 法）を用いて、金属の構成元素を分析し、元素の存在比を半定量的に求めた。分析装置は蛍光 X 線元素分析装置を使用した。また、埴埴片 3（鉛滓）については、X 線分析顕微鏡を使用して、マッピング・多点分析を行った。

本分析調査で使用した機器は以下の通りである。

蛍光 X 線元素分析装置 JSX-3201：日本電子株式会社

- ・ X 線管 ターゲット：Rh（ロジウム）
- ・ 管電圧 30kV、管電流（自動）
- ・ コリメータ：2 mm ϕ
- ・ Si（Li）検出器（液体窒素冷却）
- ・ 検出可能元素
- ・ 大型試料真空槽
- ・ 測定時間 1000 秒（ライブタイム）
- ・ 装置内蔵 カラー CCD カメラ

X 線分析顕微鏡 XGT-2500W：（株）堀場製作所

- ・ X 線管 ターゲット：Rh（ロジウム）
- ・ 管電圧 50 kV、管電流 1.0 mA・X 線導管（ガイドチューブ）
径 100 μ m
- ・ 高純度 Si 検出器（液体窒素冷却）・パルス処理時間 P 3
- ・ 検出可能元素 11Na～92U（プローブ内真空）
- ・ 大気雰囲気下、マイラー膜を使用

- ・測定時間 1000 秒, または 100 秒 (ライブタイム)
- ・装置外付け カラー CCD カメラ・装置内蔵 カラー CCD カメラ

3. 分析結果

(1) 試料の特徴

坩堝片 1 は 72.2g で、滓は大きく黒、赤の 2 色に分類できる。それぞれの色による性状の違いを指摘できるほど、滓の量は多くない。胎土の含有鉱物が融解して滓と癒合しているため、全体的に胎土と滓の境界が不明瞭である。坩堝片 2 は 6.6g で、坩堝片 1 と同様に、滓は黒、赤の 2 色に分類できる。黒色部分には、銀色の金属光沢をもつ箇所、表面がアメ色半透明な箇所などの特徴的な箇所があり、一様ではない。銀色光沢の箇所は、鑄造金属が純度高く残った箇所、アメ色半透明の箇所は、坩堝胎土のケイ素 Si が融解し再結晶した箇所ではないかと推定される。銀色光沢は、灰白色の塊の周辺に分布するようにも見える。赤色部分は、表面がモザイク状に不規則にひび割れている箇所が目立つ。坩堝片 3 は 3.7g で、滓が分離したと思われる資料である。坩堝片 1・2 と同様に、滓は大きく黒、赤の 2 色に分類できる。中間的な赤褐色といえる箇所もある。赤褐色箇所は、表面が半透明で、坩堝片 2 のアメ色半透明と共通するような外見である。赤色部分は、坩堝片 1 と同様に、表面がモザイク状に不規則にひび割れている箇所が目立つ。

(2) 蛍光 X 線分析

1) 蛍光 X 線元素分析

測定結果 (質量%濃度) を表 7 に示す。

坩堝片 1 に付着した滓は、スズ Sn:18.9%、鉛 Pb:6.3%、銅 Cu:1.8% を含んでいる。鉄 Fe は、土器胎土に 27.7% 含まれているので、胎土の鉄を計測している可能性がある。

カルシウム Ca が 17.7% 含まれているのが特徴的である。近現代の銅精錬では、融剤として銅の融点を下げるために珪砂と石灰岩を使いケイ酸カルシウムを生成させている。珪砂は鉄をスラグとして除去する役目もある。

スズと鉛の合金は、いわゆるハンダである。スズは白銀色の金属で、融点は比較的低く、232℃である。鉛は灰白色の金属で、327.5℃で融解する。スズと鉛の合金は、融点が低くなり、スズ 62%、鉛 38% (Sn/Pb (質量比) = 1.63) の合金が最も低い融点を示し、183℃で融解する。坩堝片 1 の鉛滓は、Sn/Pb (質量比) = 3.0 で、これより融点は高くなるが、200℃以下で融解すると思われる。

日本列島では、スズと鉛の合金は、ろう付け材料として古くから使用され、しるめ【白銀・白日】と呼ばれていた。スズの細工物の接合剤や銅容器のさび止めなどに用いたとされる。接合物になじませるフラックスとしては、硼砂や松ヤニが使われていたらしい。奈良大仏の鑄造に際して、「東大寺要録」にある白銀の消費量の記述から、湯境や錆損じなどの欠陥補修に、ろう付けが多く使われたであろうと推測されている。



第 288 図 坩堝片 1 分析箇所



第 289 図 坩堝片 2 分析箇所



第 290 図 坩堝片 3 分析箇所

また、青銅は、スズと銅の合金で、銅が10%程度含まれると、金色に近い色となる。銅の含有量は少なく、試料の正確な年代は不明であるが、ろう付け材料を生成していたものと推測される。

埴場片2に付着した滓は、鉛Pb:25.5%、銅Cu:16.0%を含んでおり、Pb/Cu(質量比)=1.59、(原子数比)=0.49である。鉛-銅合金は、何に使うのか不明である。

埴場片3に付着した赤色鉛滓は、鉛Pb:19.8%、銅Cu:13.4%を含んでおり、Pb/Cu(質量比)=1.48、(原子数比)=0.45である。

黒色鉛滓は、鉛Pb:45.4%、銅Cu:15.4%を含んでおり、Pb/Cu(質量比)=2.95、(原子数比)=0.90である。銅の割合が大きくなると赤みが強くなっている。

表7 測定結果

元素	埴場1		埴場2		埴場3	
	滓	胎土	滓	胎土	滓	胎土
	JEOL	JEOL	JEOL	JEOL	JEOL	JEOL
Mg	1.0	1.4	1.5	0.4		
Al	7.4	22.5	8.1	18.6	4.9	3.9
Si	27.4	40.3	21.6	48.1	42.7	14.1
P			1.4			0.5
K	17.7	3.7	4.6	4.8	7.3	2.9
Ca	0.7	2.1	9.2	3.9	2.2	4.5
Ti		2.3	0.8	1.7	0.7	1.0
V	0.3	0.0		0.0		
Mn	12.0	0.1		0.3	36.0	
Fe	12.2	27.7	9.5	22.1	8.8	12.0
Cu	1.8		16.0		13.4	15.4
As			1.8		0.0	0.3
Sr	0.2					
Ag						
Sn	18.9					
Pb	6.3		25.5	2.0	19.8	45.4

2) マッピング・多点分析

平面部分については、X線分析顕微鏡でマッピングを行うことが可能である。埴場片3について、赤色鉛滓と黒色鉛滓を含む外面を、次の条件でマッピングした。

- ・1フレームの取り込み時間:300sec
- ・画素数:512×512
- ・走査幅:10.24mm
- ・積算回数:30回
- ・取得元素:アルミニウムAl、ケイ素Si、カリウムK、カルシウムCa、チタンTi、クロムCr、マンガンMn、鉄Fe、銅Cu、鉛Pbの9元素(図292、293)

また、得られたマッピング像3つを選び、それぞれにR(赤色)、G(緑色)、B(青色)を割り当て、それぞれの元素濃度の分布がどのような関係にあるのかを分析することが出来る。今回は、検出された主要な金属元素である、銅(赤色)、鉛(緑色)、鉄(青色)を割り当て、3色を合成した状態を示した(図292)。

マッピングを実施した箇所をより詳細に観察すると、黒色鉍滓は比較的新鮮な面を持つ箇所と、鈍い色を持つ箇所に二分できる。なお、比較的新鮮な面を持つ黒色鉍滓は、当該箇所も含め、極めて限定された範囲でしか認められない。そのほか、灰白色の微粒子が表面に付着する箇所も見受けられる。赤色鉍滓と合わせると、外見を4つに分類できる。3色合成した結果と、外見的特徴を比較すると、両者に関係性を指摘できる。銅の濃度が高い範囲と赤色鉍滓、鉄の濃度が高い範囲と灰白色の微粒子が付着する箇所が、それぞれほとんど符合する。3色合成画像で、黒色鉍滓の比較的新鮮な面を持つ箇所は、わずかに赤みを帯びるが白っぽくなっているため、3種の元素が同程度の濃度になっているものと思われる。鈍い黒色鉍滓は、鉄、銅、鉛の濃度が高い箇所が、まだら状に入り混じっている。面積としては、鉛の濃度が高い箇所が最も大きいようである。マッピング像に基づいて、赤色鉍滓11点、比較的新鮮な面を持つ黒色鉍滓3点、鈍い黒色鉍滓3点、灰白色の微粒子が付着する箇所3点の、計20点について、測定時間300秒（ライブタイム）で多点分析を行った。多点分析の測定箇所と結果例を図292に、結果一覧を表8に示す。

表8 埋片3 Mapping 分析の後、関心場所を測定（多点分析）

元素	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
外見	赤	新黒	赤	赤	赤	鈍黒	鈍黒	鈍黒	灰白	灰白	新黒	灰白	赤	赤	新黒	赤	赤	赤	赤	赤
Al	139	85	82	87	87	103	119	119	164	188	122	196	108	147	121	73	74		97	81
Si	44.2	43.9	28.0	48.0	19.8	27.2	36.8	38.1	28.6	44.9	28.6	36.8	40.6	19.7	29.1	55.0	58.4	61.8	45.3	60.9
P									3.4			0.6								
K	6.9	1.8	4.4	5.9	2.4	4.9	5.8	7.3	1.4	2.3		2.3	6.7	1.5	2.9	7.7	4.1	7.1	3.3	8.1
Ca	1.5	2.2	1.8	4.3	2.5	2.8	1.5	2.1	2.9	1.5	3.9	2.0	2.1	1.9	3.2	1.8	0.9	2.6	1.4	
Ti	1.0	1.2	0.9	0.6	1.3	1.6	1.0	0.8	3.4	1.6	2.1	2.0	1.1	2.3	1.1	0.6	0.4	0.5	0.8	0.6
Cr	0.1					0.0			0.1		0.1	0.1		0.1	0.0					0.0
Mn		0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.3	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2
Fe	6.5	9.6	8.6	4.4	12.8	14.5	6.3	6.1	26.0	18.5	15.5	18.8	6.6	16.7	13.4	6.4	5.2	6.6	10.5	7.0
Ni													0.0		0.0					
Cu	10.9	11.8	18.5	14.9	7.8	4.5	6.4	3.6	6.5	3.6	10.3	3.1	10.5	23.9	14.1	6.9	9.8	8.1	8.7	9.3
Zr			0.1		0.1	0.1	0.1	0.1				0.1				0.0				
Pb	15.0	20.8	29.5	12.9	44.5	34.1	30.2	30.0	11.3	8.5	26.4	15.2	21.5	19.0	23.8	14.0	13.9	13.2	20.2	5.8
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

関心の中心である鉄、銅、鉛の濃度の平均値と標準偏差（STDEV）は表9の通りである。

蛍光X線分析装置JSX3201による測定結果と比較すると、赤色鉍滓の平均値はよく近似している。一方、鈍い黒色鉍滓は、多点分析での濃度は鉄を除いて低く、また元素間の比率も異なるが、総じて鉛濃度の比が高い。

赤色鉍滓と、比較的新鮮な面を持つ黒色鉍滓は、顕著と言えるほどの差は見られないようである。マッピング像の3色合成では、赤色鉍滓ではとりわけ銅の濃度が高く表示された。ところが数値として見ると、比較的新鮮な面を持つ黒色鉍滓の銅の濃度の平均とは、あまり差がない。灰白色の微粒子が付着した箇所は、ほかの外見的特徴に比べて、明確に鉄の濃度が高く、鉛の濃度が低いことが、数値の上からも読み取ることができた。鈍い黒色鉍滓については濃度分布が区々であるので、取得した3点では評価が難しいが、蛍光X線分析装置JSX3201による測定結果でも、鉛の濃度がほかの外見的特徴の部分に比べて高いことがわかる。また、赤色鉍滓部分でも、鉛濃度が高い測定点があり、そのため多点分析の平均値では、大きなばらつきを示している。銅などと混合して溶融した後、冷却過程で鉛の偏析が起きている可能性が考えられる。

本試料は、土器を伴わない独立した鉍滓なので、検出された鉄は、土器胎土によるものではなく、鉍滓に含まれている成分である。鉄と銅は、鉄を3%以上にすると合金を生成することが出来ない

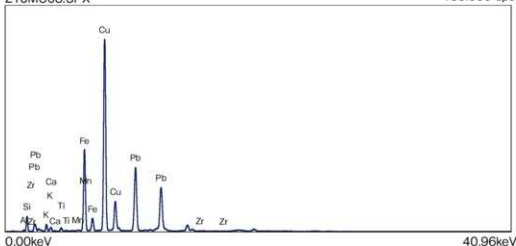
されてきた。ごく最近、銅と鉄が均一に混合した銅鉄合金を製造する技術が確立したとされるものの、単純に銅と鉄を混合しただけでは、合金とならない。本試料では銅と鉄、鉛が検出されたが、3種の金属を混合して、どのような物質を製作しようとしたのか、不明である。3種の金属による合金が形成されないために、まだらな銹滓が生成した可能性も考えられる。

表9 多点分析：鉄・銅・鉛濃度の平均値

資料	測定数	鉄 Fe	銅 Cu	鉛 Pb
赤色銹滓	11	8.3 ± 3.7	118 ± 5.3	208 ± 10.8
比較的新鮮面	3	128 ± 3.0	120 ± 1.9	23.7 ± 2.8
鈍い黒色銹滓	3	8.9 ± 4.8	4.9 ± 1.4	31.4 ± 2.3
灰白色の微粒子が付着	3	21.1 ± 4.2	4.4 ± 1.8	11.7 ± 3.4
全資料	20	10.2 ± 4.8	9.8 ± 5.3	19.0 ± 10.4

210MU03.SPX

100.000 cps



全体像



210MU03.SPX

210-161-10 多点分析

測定時間 : 300s パルス処理時間 : P3
 XGT径 : 100 μm X線管電圧 : 50kV
 電流 : 1.0mA

定量補正法 : スタンダードレス

元素	ライン	質量濃度[%]	2σ[%]	強度[cps/mA]
13 Al	K	8.19	0.87	9.42
14 Si	K	28.03	0.75	77.24
19 K	K	4.38	0.43	40.05
20 Ca	K	1.79	0.27	22.81
22 Ti	K	0.94	0.13	22.84
25 Mn	K	0.10	0.05	5.91
26 Fe	K	8.55	0.21	592.84
29 Cu	K	18.46	0.34	1503.95
40 Zr	K	0.05	0.03	2.08
82 Pb	L	29.52	0.55	605.12

多点分析測定位置

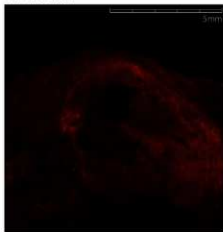


第 291 図 分析グラフ

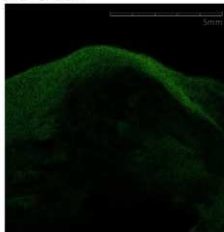
26 Fe K α



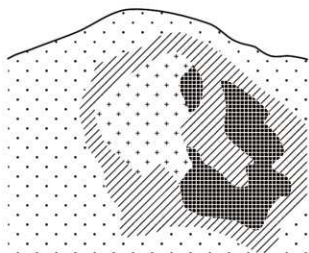
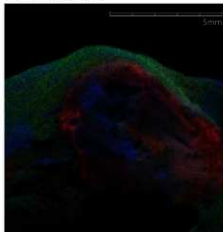
29 Cu K α







82 Pb L α 1



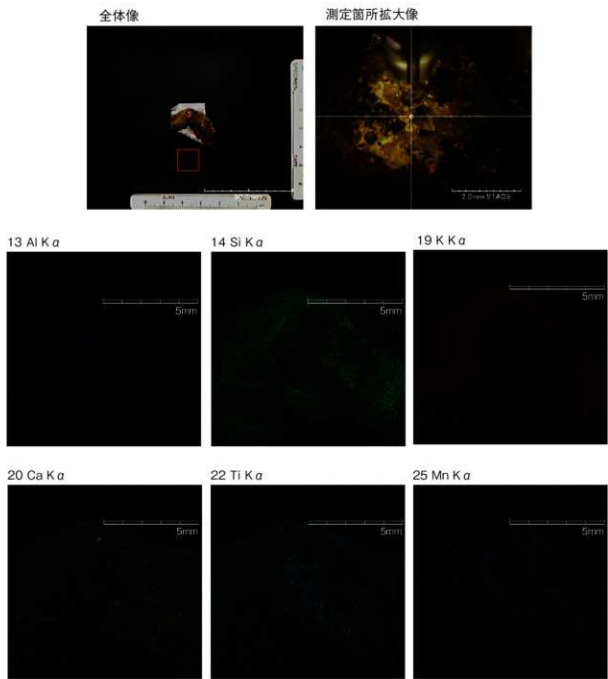
R:Cu G:Pb B:Fe



外面の観察所見

-  鈍い黒色
-  赤色
-  比較的新鮮な黒色
-  灰白色の粒子付着

第 292 図 元素マッピング像 3 色合成結果 (増埧片 3)



第 293 図 元素マッピング像 3 色合成結果 (坩堝片 3)

第 574 号土坑 (第 289・290 図 PL30)

調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区北部の C 5g9 区、標高 18m の平坦部に位置している。

規模と形状 径 0.65m ほどの円形である。深さは 14～18cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

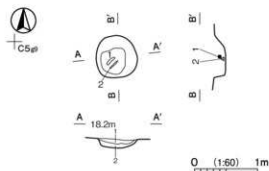
覆土 2 層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

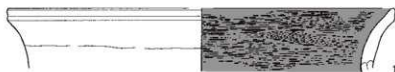
- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 濃い黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量

遺物出土状況 土師器片 8 点 (坏 2、高台付坏 4、甕類 2)、金属製品 1 点 (刀子)、鉄滓 1 点が出土している。遺物は覆土下層から中層にかけて出土している。1・2 は覆土中層から斜位で出土していることから、投げ込まれている。

所見 出土遺物は少ないが、時期は、出土土器及び周囲の様相から 10 世紀中葉と考えられる。



第 289 図 第 574 号土坑実測図



第 290 図 第 574 号土坑出土遺物実測図

第 574 号土坑出土遺物観察表 (第 290 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	〔30.8〕	(5.1)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部ナデ 内面へう磨き、黒色処理	覆土中層	10%

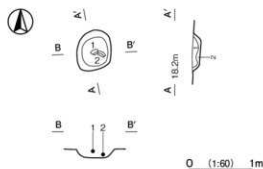
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	刀子	(22.7)	1.9	0.5	(84.6)	鉄	刃部断面三角形 柄部断面台形	覆土中層	PL33

第 591 号土坑 (第 291・292 図)

調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区北部の C 5d9 区、標高 18m の平坦部に位置している。



第291図 第591号土坑実測図

規模と形状 長径 0.69m, 短径 0.61mの楕円形で, 長径

方向はN-27°-Eである。深さは13cmで, 壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

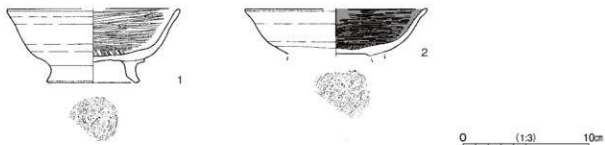
土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点(碗2, 高台付鉢2, 高台付碗1, 甕類1)のほか, 縄文土器片1点(深鉢)が出土し

ている。遺物は覆土下層から上層にかけて出土しており, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から10世紀中葉と考えられる。

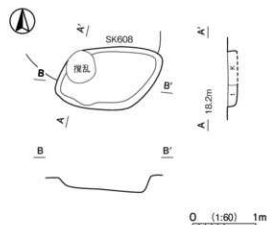


第292図 第591号土坑出土遺物実測図

第591号土坑出土遺物観察表(第292図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	使用	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付鉢	[13.7]	5.9	[7.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面クロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	覆土上層	40%
2	土師器	高台付碗	[14.4]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部外面クロナデ 内面ヘラ磨き, 黒色処理 底部回転ヘラ切り 高台部直線	覆土下層	30%

第609号土坑(第293・294図)



第293図 第609号土坑実測図

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区北部のD5c9区, 標高19mの平坦部に位置している。

重複関係 第608号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.76m, 短径 1.03mの楕円形で, 長径方向はN-76°-Eである。深さは25cmで, 壁は外傾している。底面は平坦である。

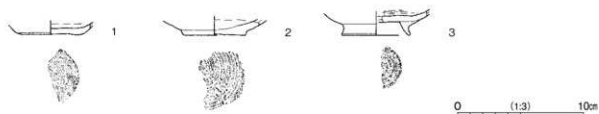
覆土 単一層である。ロームブロック・粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 23 点 (坏 10, 碗 8, 高台付坏 1, 小皿 2, 甕類 2) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀後葉と考えられる。



第 294 図 第 609 号土坑出土遺物実測図

第 609 号土坑出土遺物観察表 (第 294 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	小皿	-	(1.1)	[4.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ナテ 底部回転糸切り	覆土中	5%
2	土師器	小皿	-	(1.2)	[5.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ナテ 底部回転糸切り	覆土中	5%
3	土師器	高台付坏	-	(2.0)	[5.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部内面一方向の磨き 底部回転へつ切り	覆土中	5%

第 620 号土坑 (第 295 図)

調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区北部の C 5 e6 区, 標高 18 m の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.32 m, 短径 1.26 m の円形である。深さは 54 ~ 66 cm で, 壁は直立している。底面は平坦である。

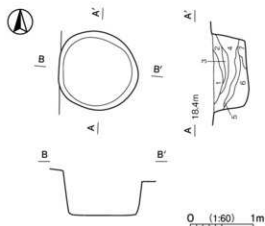
覆土 7 層に分層できる。ロームブロック・焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 濃い黄褐色 ロームブロック中量・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量
- 7 濃い黄褐色 ロームブロック中量

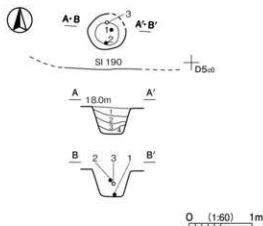
遺物出土状況 土師器片 22 点 (坏 1, 碗 12, 高台付碗 1, 甕類 8), 被熱礫 1 点 が出土している。遺物は覆土中層から多く出土していることから, 埋め戻しに伴って投棄されている。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器及び周囲の遺構との関係から 10 世紀中葉と考えられる。



第 295 図 第 620 号土坑実測図

第 622 号土坑 (第 296・297 図)



第 296 図 第 622 号土坑実測図

遺物出土状況 土師器片 8 点 (坏 1, 高台付碗 2, 小皿 5), 土製品 1 点 (管状土錘), 被熱礫 1 点が出土している。1～3 は底面から覆土中層にかけて出土している。

所見 時期は, 出土土器及び第 190 号竪穴建物跡との重複関係から 10 世紀中葉と考えられる。



第 297 図 第 622 号土坑出土遺物実測図

第 622 号土坑出土遺物観察表 (第 297 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(1.6)	7.2	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	赤	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	底面	20%
2	土師器	小皿	[8.3]	1.7	[5.6]	長石・石英	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	50%
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特 徴		出土位置	備考
3	管状土錘	3.4	1.7	0.5	8.15	長石・石英・ 赤色粒子	橙	全面ナデ調整		覆土中層	PL50

第 662 号土坑 (第 298 図)

調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区北部の C 5 f6 区, 標高 18 m の平坦部に位置している。

重複関係 第 189 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 184 号竪穴建物に掘り込まれている。

調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区北部の D 5 b9 区, 標高 18 m の平坦部に位置している。

重複関係 第 190 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.61 m, 短径 0.57 m の円形である。深さは 43 cm で, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロック・炭化粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 灰青褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子多量, ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

規模と形状 第184号竪穴建物に掘り込まれているため、確認できたのは、長径1.02m、短径0.94mの円形である。深さは62cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

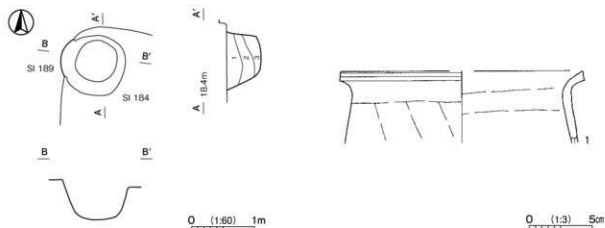
覆土 3層に分層できる。ロームブロック・焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 濃い黄褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片5点(甕類)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器及び第189号竪穴建物跡を掘り込み、第184号竪穴建物に掘り込まれている重複関係や円筒状の形状から10世紀中葉と考えられる。



第298図 第662号土坑・出土遺物実測図

第662号土坑出土遺物観察表(第298図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[19.2]	(5.7)	-	長石・石英・雲母・磁石	黒褐色	普通	口縁部ナデ 体部外・内面縦・横位のナデ	覆土中	10%

第667号土坑(第299図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区北部のD5c9区、標高18mの平坦部に位置している。

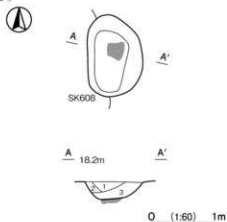
重複関係 第608号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.28m、短径0.85mの楕円形で、長径方向はN-5°-Eである。深さは28cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3層下面は赤変硬化した地山である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量



第299図 第667号土坑実測図

遺物出土状況 土師器片2点(坏, 甕類)のほか縄文土器片2点(深鉢)が出土している。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 底面に赤変硬化した火床面が確認でき、覆土に焼土が含まれていることから、屋外炉の可能性はある。時期は、出土土器から10世紀中葉～後葉と考えられる。

表10 平安時代土坑一覧表

番号	位置	掘込部	長径方向	平面形	概 観		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
191	R3f7	1	-	不整形	3.54 × 3.30	38	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器、鉄滓	
192	S4e6	1	N-57°-W	楕円形	0.94 × 0.80	22	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器、灰釉陶器	
195	S3e2	1	N-62°-W	楕円形	0.93 × 0.74	25	平坦	外傾	人為	土師器	
200	R3e4	1	-	円形	1.13 × 1.09	40	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器、土製品、鉄滓	本跡→第1号火倉窟 SI125→本跡 →SI32
226	Q3f1	1	N-39°-E	楕円形	1.18 × 0.82	48	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	
239	O3e5	1	-	[円形]	[1.12] × 1.06	45	平坦	ほぼ直立	人為	土師器、須恵器	本跡→SE27
242	N4i1	1	N-31°-E	楕円形	1.42 × 0.82	28	平坦	外傾	人為	土師器	SI145→本跡
255	R3a3	2	N-60°-E	楕円形	0.88 × 0.77	20	平坦	直立	人為	土師器、石器、焼成粘土塊	SI150→本跡
259	R3e4	2	-	円形	1.22 × 1.20	50	平坦	ほぼ直立	人為	土師器、須恵器	SI151→本跡
260	Q3f5	2	N-31°-W	楕円形	1.32 × 1.14	30	平坦	外傾	人為	土師器、石器、金属製品	SK264・285→本跡
264	Q3f5	2	N-87°-W	[楕円形]	1.26 × [0.84]	30	皿状	傾斜	人為	土師器	本跡→SK260
284	R3i4	2	N-15°-E	[円形・楕円形]	0.58 × (0.22)	32	皿状	外傾	人為	土師器、鉄滓	
300	R3b4	2	N-20°-E	楕円形	1.35 × 1.15	46	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SI150→本跡
312	R3a4	2	-	円形	1.19 × 1.09	42	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	本跡→SI150
322	L3i0	1	-	円形	1.62 × 1.52	72	皿状	外傾	人為	土師器、金属製品	SI162, SK636→本跡
350	E5f5	1	N-4°-E	楕円形	0.64 × 0.56	25	凹凸	外傾	人為	土師器、須恵器、土製品	
574	C5g9	1	-	円形	0.65 × 0.64	14~18	平坦	外傾 傾斜	人為	土師器、金属製品、鉄滓	
591	C5d9	1	N-27°-E	楕円形	0.69 × 0.61	13	平坦	外傾	人為	土師器	
609	D5c9	1	N-76°-E	楕円形	1.76 × 1.03	25	平坦	外傾	人為	土師器	SK608→本跡
620	C5e6	1	-	円形	1.32 × 1.26	54~66	平坦	直立	人為	土師器、被熱礫	
622	D5b9	1	-	円形	0.61 × 0.57	43	平坦	ほぼ直立	人為	土師器、土製品、被熱礫	SI190→本跡
662	C5e5	1	-	円形	(1.02) × (0.94)	62	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SI189→本跡 →SI184
667	D5c9	1	N-5°-E	楕円形	1.28 × 0.85	28	平坦	外傾 傾斜	人為	土師器	SK608→本跡

3 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡1棟、火葬施設12基、地下式坑2基、井戸跡5基、溝跡7条、土坑2基、ピット群1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

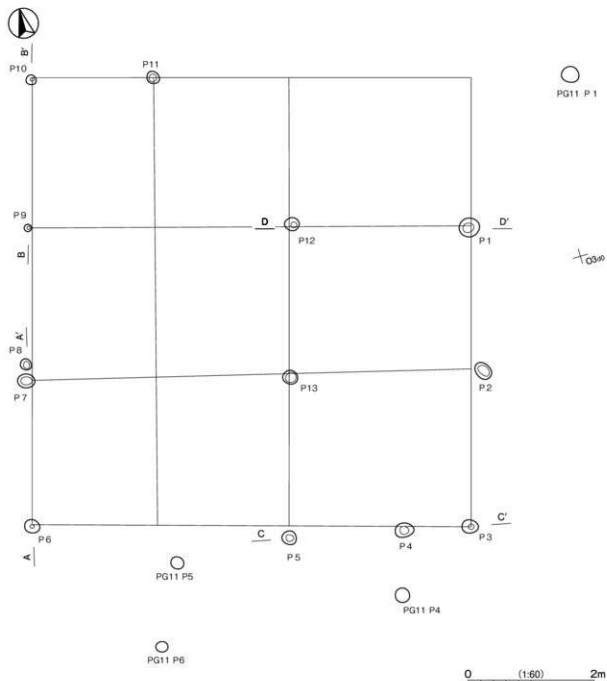
(1) 掘立柱建物跡

第5号掘立柱建物跡 (第300・301図 PL24)

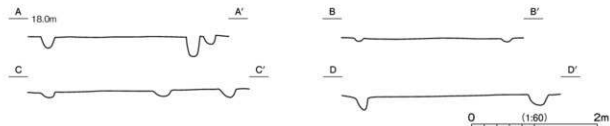
調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のO3c8区、標高18mの平坦部に位置している。



第300図 第5号掘立柱建物跡実測図 (1)



第301図 第5号掘立柱建物跡実測図 (2)

規模と形状 桁行3間、梁行3間の総柱建物跡の可能性があり、桁行方向が $N-16^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行6.9mで、面積は49.68 m^2 である。柱間寸法は桁行が2.4m(8尺)ずつである。北妻側の梁行はP10・P11の2か所しか確認できなかったが、1.8m(6尺)である。南妻側の梁行は、P3、P5、P6で、2.7m(9尺)、4.2m(14尺)である。

柱穴 13か所。平面形は円形または楕円形で、長径17~32cm、短径15~25cmである。深さは18~39cmで掘方の壁はほぼ直立している。P2・P5・P7が、少し外側に広がる配置をしている。P1~P3・P5~P7・P9~P13が建物跡の柱跡で、P4・P8は補助柱穴などの建物跡に関わるピット跡と考えられる。

所見 柱穴は全体的に細く浅いことから、簡易的な建物であったと考えられる。付近には、第11号ピット群が存在しており、穴の形状が類似している。時期は、平安時代の溝跡を掘り込んでいることや、周辺に中世の火葬施設や地下式坑が存在することから、中世と判断した。

(2) 火葬施設

第1号火葬施設 (第302図 PL24)

調査年度 平成24年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のR3e7区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第80・82号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形はT字形で、主軸方向は $N-166^{\circ}-W$ である。通風溝の規模は、長さ0.40m、上幅0.42m、下幅0.35mで、確認面からの深さは30cmである。底面は平坦で、燃焼部とほぼ同じ高さである。燃焼部は、長軸1.36m、短軸0.77mの隅丸長方形である。深さは25~42cmで、底面は南東部へ向かって傾斜している。壁はほぼ直立している。

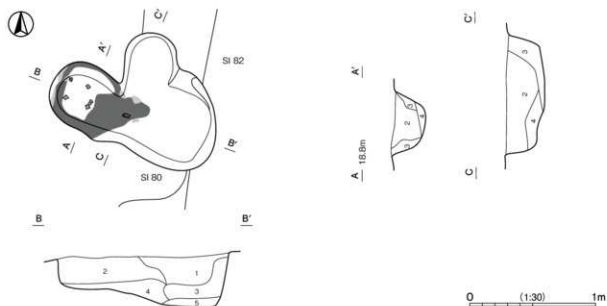
覆土 5層に分層できる。第2~4層は焼土ブロック・炭化物が多量に含まれていることから、火葬時の炭化材と内壁の崩落土である。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|--------------------|
| 1 褐色 | 粘土ブロック多量 | 4 黒褐色 | 炭化物・焼骨片中量、焼土ブロック少量 |
| 2 青黒色 | 炭化材多量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化材多量 | | |

遺物出土状況 燃焼部の第4層から、焼骨片が中量出土している。

所見 焼土ブロック・炭化材・焼骨片が出土していることや、T字形の形状をしていることから、火葬施設である。微細な焼骨片しか出土していないことから、ほとんどは取り上げられていると考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第302図 第1号火葬施設実測図

第2号火葬施設 (第303図 PL24)

調査年度 平成24年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3g9区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 平面形はT字形で、主軸方向は $N-73^{\circ}-W$ である。通風溝は燃焼部の中央まで延びており、規模は、長さ0.98m、上幅0.36m、下幅0.14mで、確認面からの深さは7~10cmである。底面は平坦で、燃焼部から傾斜して、やや深くなっている。壁は外傾している。燃焼部は、長軸1.22m、短軸0.52mの隅丸長方形で、深さは12cmである。底面はほぼ平坦で、中央部は通風溝と同じ高さに一段高くなっている。壁はほぼ直立している。

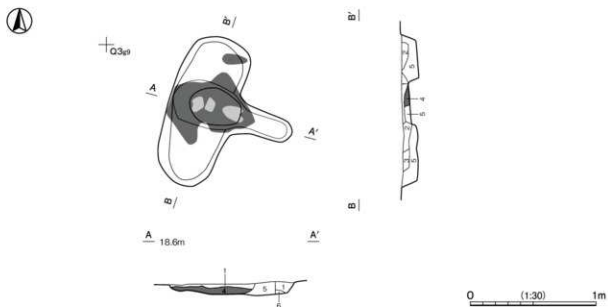
覆土 6層に分層できる。第4層は火葬時の炭化物が多量に含まれており、第6層は焼土ブロックが多量に含まれていることから、焼土壁の崩落土と考えられる。焼土ブロックや炭化物が含まれている不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1 暗青灰色 炭化物多量、焼土粒子中量、粘土ブロック少量 | 4 黒色 炭化物多量 |
| 2 青黒色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 褐灰色 炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 オリーブ黒色 炭化物・焼土粒子少量 | 6 暗赤色 焼土ブロック多量 |

遺物出土状況 覆土中から、土師器片5点(椀3、高台付椀1、甕類1)、須恵器片1点(甕類)が出土しているが、埋め戻し時の混入と考えられる。

所見 焼骨片は確認できなかったが、焼土ブロックや炭化材が出土していること、周辺の第1号火葬施設と同様なT字形の形状から、火葬施設である。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第303図 第2号火葬施設実測図

第3号火葬施設 (第304図 PL25)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のR3g3区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は通風溝が燃焼部の北側に偏って付属するT字形で、主軸方向は $N-82^{\circ}-W$ である。通風溝の規模は、長さ0.52m、上幅0.30m、下幅0.18m、確認面からの深さは10～18cmである。底面は皿状で、燃焼部に向かって傾斜している。燃焼部は、長軸0.68m、短軸0.40mの隅丸長方形で、深さは21cmである。底面はほぼ平坦で、南部が一段テラス状に高くなっている。壁はほぼ直立し、通風溝の一部と燃焼部内壁は被熱により赤変硬化している。

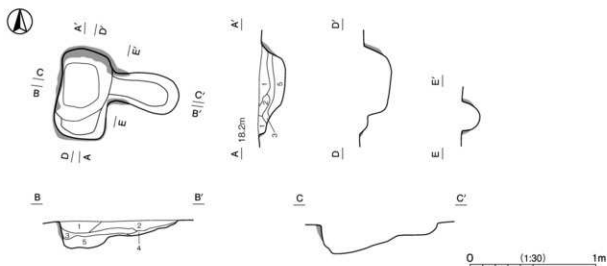
覆土 5層に分層できる。第3層には焼土ブロックが多量に含まれていることから、燃焼壁の崩落土である。燃焼部底面の第5層には火葬後に残った焼骨片と灰が中量含まれている。不規則な堆積状況から、燃焼壁が崩落し、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子が含まれている第1・2層で埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|------|--------------------|
| 1 灰青褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒色 | 粘土ブロック・焼骨片中量、灰少量 |
| 3 明赤褐色 | 焼土ブロック・褐灰色粘土ブロック多量 | | |

遺物出土状況 燃焼部の第5層から焼骨片が出土している。

所見 焼土ブロック・炭化物・灰・焼骨片が出土していること、周辺の第1・2号火葬施設と構造が類似していることから、火葬施設である。微細な焼骨片しか出土していないことから、ほとんどは取り上げられていると考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第304図 第3号火葬施設実測図

第4号火葬施設 (第305図)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のR3g4区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第86号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 燃焼部のみ確認でき、平面形は不整形長方形で、長軸方向はN-59°-Wである。燃焼部は、長軸0.88m、短軸0.30m、深さは15cmで、底面は平坦である。壁はほぼ直立しており、南東壁を除いて燃焼壁は被熱により赤変硬化している。

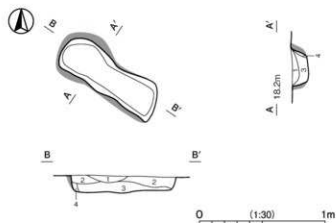
覆土 4層に分層できる。第2・3層は、火葬時の炭化材と残った焼骨片の層である。焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物が含まれている不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒色 焼土ブロック多量、灰中量、焼骨片少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、粘土ブロック・焼骨片微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 第2・3層から焼骨片が出土している。

所見 焼土ブロック・炭化材・焼骨片が出土していること、周辺に存在する火葬施設の燃焼部と同様な形状をしていることから、火葬施設である。少量の微細な焼骨片しか出土していないことから、ほとんどは取り上げられているものと考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第305図 第4号火葬施設実測図

第5号火葬施設 (第306図 PL25)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

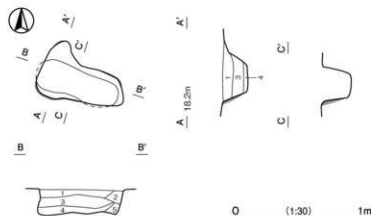
位置 調査Ⅲ区南部のQ3g5区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 燃焼部のみ確認でき、平面形は不整形長方形で、長軸方向は $N-80^{\circ}-W$ である。燃焼部は、長軸0.71m、短軸0.29m、深さは24cmである。底面はほぼ平坦で、壁は一部内彎しているが、ほぼ直立している。燃焼部の壁の一部は、被熱により赤変硬化している。

覆土 5層に分層できる。第3・4層は火葬時の炭化材と残った焼骨片が含まれている。焼土ブロック・粘土ブロックなどが含まれている不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量、粘土ブロック・焼骨片微量 | 4 暗褐色 炭化粒子多量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化物多量、焼土ブロック・粘土ブロック・焼骨片微量 | |



遺物出土状況 第1・3層から焼骨片が出土している。

所見 焼土ブロック・炭化物・焼骨片が出土していること、焼土壁が確認されていることから、火葬施設である。北西コーナー部が北側に若干張り出す形状から、通風溝が付設されていたものと考えられ、第3号火葬施設に類似するものと推測される。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。

第306図 第5号火葬施設実測図

第6号火葬施設 (第307図)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3f4区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は呂字形で、主軸方向は $N-66^{\circ}-W$ である。焚口部は長軸0.78m、短軸0.66mの長方形で、深さは27cmである。底部は長径48cmの楕円形に深さ5~10cmほど掘りくぼめられている。通風溝は長さ0.25m、上幅0.37m、下幅0.30mで、確認面からの深さは29cmである。底面は燃焼部の高さとはほぼ同じである。燃焼部は、長軸0.62m、短軸0.60mの隅丸方形で、深さは27cmである。底面はほぼ平坦で、壁は直立している。通風溝と燃焼部内壁は、被熱により赤変硬化している。

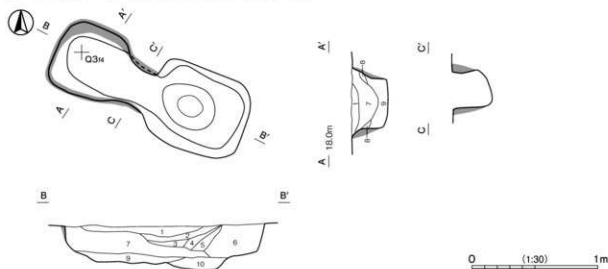
覆土 10層に分層できる。第2~5層は粘土ブロック・焼土粒子が含まれていることや崩落したような堆積状況から、通風溝の天井部及び内壁の崩落土と考えられる。第7層は火葬時の炭化材と、残った焼骨片の層である。第6層で焚口部側から埋め戻され、天井部の崩壊後第1層で埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 | 6 黒褐色 粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 7 黒褐色 焼土粒子多量、炭化材中量、焼骨片少量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、粘土ブロック少量 | 8 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 粘土ブロック中量 | 10 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 燃焼部から通風溝にかけての第7層から焼骨片が少量出土しているほか、覆土中から土師器片3点（碗）、須恵器片1点（甕類）、焼成粘土塊1点が出土しているが、埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見 焼土ブロック・炭化物・焼骨片が出土していること、呂字形の形状をしていることから、火葬施設である。焼骨片しか出土していないことから、ほとんどは取り上げられていると考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第307図 第6号火葬施設実測図

第7号火葬施設（第308図 PL25）

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

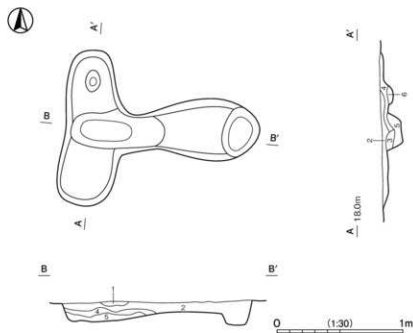
位置 調査Ⅲ区南部のN3d9区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は全長1.54mのT字形で、主軸方向はN-92°-Wである。焚口部と通風溝は、若干のくびれ部で区別できるが、連続している。焚口部から通風溝は燃焼部の中央まで延びており、長さ1.46m、上幅0.50m、下幅0.16m、深さは7～15cmで、焚口部側が楕円形に底面から深さ10cmほど掘りくぼめられている。底面は燃焼部に向かってやや傾斜している。燃焼部は、長軸1.28m、短軸0.48mの隅丸長方形で、深さは3～10cmである。底面はほぼ平坦で中央部が通風溝で、掘りくぼめられている。北部にピット状のくぼみがあり、壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。第5層は火葬時の炭化物と残った焼骨片の層で、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化材が含まれている不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1 にい-黄褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 | 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 にい-黄褐色 炭化材・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 5 暗褐色 炭化物・焼骨片中量 |
| 3 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 炭化物多量 |



第308図 第7号火葬施設実測図

遺物出土状況 通風溝底面の第5層から焼骨片が中量出土しているほか、覆土中から焼成粘土塊が4点出土している。

所見 焼土ブロック・炭化物・焼骨片が出土していること、T字形の形状をしていることから、火葬施設である。微細な焼骨片のみが出土していることから、ほとんどは取り上げられていると考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。

第8号火葬施設 (第309図)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のN3e0区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第236号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部を第236号土坑に掘り込まれているが、平面形は呂字形と推定でき、主軸方向はN-74°-Wである。焚口部の規模は、長径0.93m、短径0.66mの楕円形で、深さは15cmである。底面は平坦である。通風溝は燃焼部の中央部まで延びており、規模は、長さ0.85m、上幅0.28m、下幅0.21mで、確認面からの深さは15cmである。底面は焚口部より4cmほど高くなっており、皿状である。燃焼部は、長径1.18m、確認できた短径0.60mの楕円形で、深さは9cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

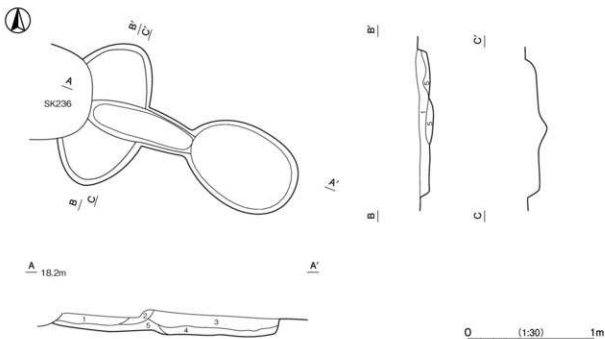
覆土 5層に分层できる。第5層は火葬時の炭化材に残った焼骨片の層で、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物が含まれている不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 4 黒褐色 粘土ブロック・炭化物少量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物中量、粘土ブロック・焼骨片少量 | 5 灰黄色 炭化材・焼土ブロック中量、粘土ブロック・焼骨片少量 |
| 3 灰黄色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | |

遺物出土状況 燃焼部の第2・5層から、少量の焼骨片が出土している。

所見 焼土ブロック・炭化材・焼骨片が出土していること、呂字形の形状をしていることから、火葬施設と考えられる。焼骨片のみが出土していることから、ほとんどは取り上げられていると考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状などから中世と考えられる。



第309図 第8号火葬施設実測図

第9号火葬施設 (第310図 PL26)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のL4b4区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第375号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は呂字形で、主軸方向はN-112°-Eである。焚口部は、長径0.72m、短径0.70mの円形である。深さは20cmで、底面は皿状である。通風溝は焚口部の中央から燃焼部の中央部まで延びており、天井部が残存している。規模は長さ0.96m、上幅0.40m、下幅0.15mで、確認面からの深さは34cmである。底面は焚口部から段を持って傾斜している。燃焼部は、長軸0.93m、短軸0.35mの長方形で、深さは24cmである。底面は平坦で中央部に通風溝が延びている。壁は内巻しており、内壁は被熱により赤変硬化している。

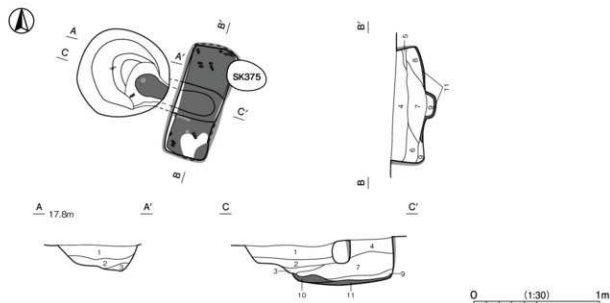
覆土 11層に分層できる。燃焼部から通風溝にかけての底面には炭化物を多量に含む第10・11層が充填されるように堆積している。また、焼骨片も確認されていることから、火葬時の炭化材に残った焼骨片の層である。粘土ブロックなどが含まれている第1～9層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------|---------|-----------------------------|
| 1 濃い黄褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | 粘土ブロック中量、炭化物・焼土粒子・焼骨片少量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 灰黄褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、炭化粒子少量 | 9 濃い黄褐色 | 粘土ブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 4 灰黄褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 10 暗褐色 | 炭化物多量、焼土粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 5 濃い赤褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量 | 11 暗褐色 | 炭化物多量、焼骨片少量、粘土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 6 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 燃焼部の第7・11層から、少量の焼骨片が出土しており、主に第11層の上面に散在した状態で確認されている。

所見 炭化物・焼骨片が出土していること、呂字形の形状をしていることから、火葬施設である。炭化物と焼骨片の出土状況から第11層上面で、骨が取り上げられたものと考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第310図 第9号火葬施設実測図

第10号火葬施設 (第311図 PL26)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のL4b4区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第452号土坑に掘り込まれている。

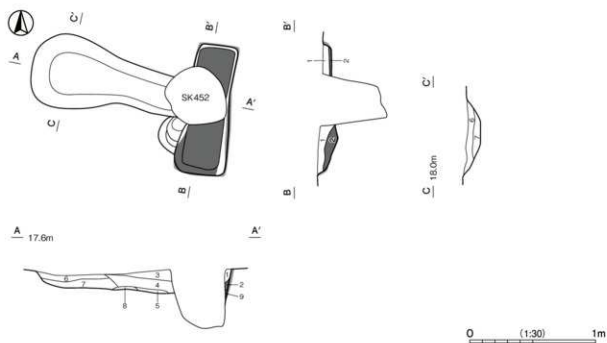
規模と形状 平面形はT字形で、主軸方向はN-101°-Eである。燃焼部から通風溝にかけては、第452号土坑に掘り込まれ、壊されている。焚口部と通風溝は若干のくびれ部分で区別できるが、連続している。焚口部から通風溝は、長さ1.08m、上幅0.60m、下幅0.27mで、確認面からの深さは20cmである。底面は皿状で、燃焼部に向かってゆるやかに傾斜している。燃焼部は、長軸1.04m、短軸0.42mの長方形で、深さは15cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立しており、内壁は被熱により赤変硬化している。

覆土 9層に分层できる。燃焼部の底面に堆積する第2・9層は、炭化物・炭化粒子が多く含まれていることから、火葬時の炭化材が溜まった層である。粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子が含まれている不規則な堆積状況から、埋め戻されている。第3・4・7層には鉄分が沈着している。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 にふい黄褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 にふい黄褐色 炭化物多量、焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 7 にふい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量、鉄分少量 |
| 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子・鉄分少量 | 8 灰黄褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 4 にふい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分少量 | 9 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 5 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 | |

所見 炭化物が出土していること、T字形の形状をしていることから、火葬施設である。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第311図 第10号火葬施設実測図

第11号火葬施設 (第312図 PL26)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のL4c2区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第171号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は呂字形で、主軸方向はN-85°-Eである。焚口部は、長径0.69m、短径0.58mの楕円形である。深さは15cmで、底面は平坦である。通風溝は焚口部の中央から燃焼部まで延びており、天井部が残存している。規模は、長さ0.95m、上幅0.28m、下幅0.12mで、確認面からの深さは20cmである。底面は焚口部から段を持って燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部は、長軸0.77m、短軸0.29mの長方形で、深さは11cmである。底面は平坦で、壁は外傾しており、内壁は被熱により赤変硬化している。

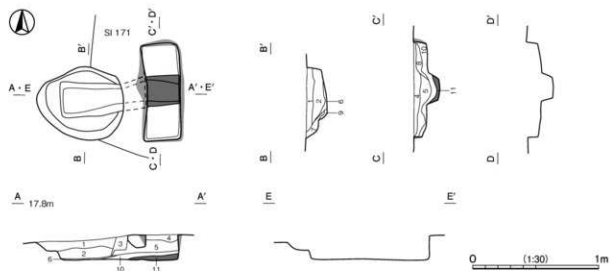
覆土 11層に分層できる。燃焼部に延びる通気溝の底面には炭化物が多量に含まれている第10・11層が充填されるように堆積している。また、焼骨片も出土していることから、火葬時の炭化材と残った焼骨片の層である。焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物が含まれている第1～9層は、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 粘土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 | 9 暗褐色 炭化材・粘土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 炭化物・焼骨片中量、焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 炭化物少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 11 黒色 炭化物多量、焼土ブロック・焼骨片微量 |
| 6 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | |

遺物出土状況 燃焼部の第10・11層から、微細な焼骨片が出土している。

所見 炭化物・焼骨片が出土していること、呂字形の形状をしていることから、火葬施設である。炭化物と焼骨片の出土状況から、第10層上面で骨が取り上げられたものと考えられる。焼骨片しか出土していないことから、ほとんどは取り上げられていると考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第312図 第11号火葬施設実測図

第12号火葬施設 (第313図 PL27)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のL4b2区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第161・163号堅穴建物跡を掘り込み、第547号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は呂字形で、主軸方向はN-85°-Wである。焚口部は、長軸0.90m、短軸0.81mの不整長方形である。深さは25cmで、底面は皿状である。通風溝は焚口部の中央から燃焼部まで延びており、天井部が残存している。規模は、長さ0.89m、上幅0.32m、下幅0.13mで、確認面からの深さは26～44cmである。底面は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部は、長軸0.80m、短軸0.26mの長方形で、深さは32cmである。底面は中央部の通気溝に向かって傾斜している。壁はやや内彎しており、内壁は被熱により地山が赤変硬化している。

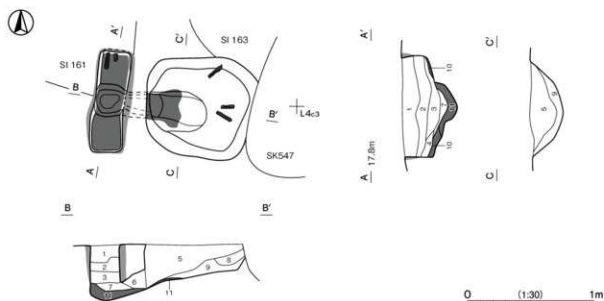
覆土 11層に分层できる。燃焼部及び中央の通気溝の底面には、炭化材を多量に含む第11層が充填されるように堆積している。また、焼骨粉も出土しており、火葬時の炭化材に残った焼骨粉の層である。粘土ブロック・炭化材が含まれている第1～9層は、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 7 暗褐色 焼土粒子中量、炭化材・焼骨粉少量 |
| 2 灰黄褐色 炭化物少量、粘土ブロック微量 | 8 灰黄褐色 炭化材多量、粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 炭化物少量 | 9 灰黄褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 炭化材多量 | 10 黒色 炭化材多量、焼土粒子中量 |
| 5 暗褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 11 黒色 炭化材多量、焼土粒子・焼骨粉少量 |
| 6 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子・焼骨粉微量 | |

遺物出土状況 焼焼部の第6・7・11層から、焼骨粉が出土しているほか、焚口部の覆土中から土師器3点(寒類)が、出土しているが、埋め戻し時の混入と考えられる。

所見 炭化物・焼骨粉が出土していること、呂字形の形状をしていることから、火葬施設である。焼骨粉しか出土していないことから、ほとんどは取り上げられていると考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第313図 第12号火葬施設実測図

表11 中世火葬施設一覧表

番号	位置	確認 範囲	軸方向	平面形	全長 (m)	焚口部				通風溝			焼焼部			覆土	主な出土遺物	備考	
						長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	底面	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)				底面
1	R 3e7	1	N-166°-W	丁字形	(0.93)	-	-	-	-	0.42	0.35	30	1.36	0.77	25-42	傾斜	人為	骨片	SI80・82→本跡
2	Q 3g9	1	N-73°-W	丁字形	(1.01)	-	-	-	-	0.36	0.14	7-10	1.22	0.52	12	平坦	人為	土師器、須恵器	
3	R 3g3	1	N-82°-W	丁字形	(0.94)	-	-	-	-	0.30	0.18	10-18	0.68	0.40	21	平坦	人為	骨片	
4	R 3g4	1	N-59°-W	不整 長方形	(0.88)	-	-	-	-	-	-	-	0.88	0.30	15	平坦	人為	骨片	SI86→本跡
5	Q 3g5	1	N-80°-W	不整 長方形	(0.71)	-	-	-	-	-	-	-	0.71	0.29	24	平坦	人為	骨片	
6	Q 3f4	1	N-66°-W	呂字形	1.64	0.78	0.66	27	平坦	0.37	0.30	29	0.62	0.60	27	平坦	人為	骨片、土師器、須恵器、焼成粘土塊	
7	N 3d9	1	N-92°-W	丁字形	1.54	1.40	0.46	8-19.5	平坦	0.50	0.16	7-15	1.28	0.48	3-10	平坦	人為	骨片	
8	N 3e0	1	N-74°-W	四字形	(1.92)	0.90	0.66	15	平坦	0.28	0.21	15	1.18	(0.6)	9	平坦	人為	骨片	本跡→SK236
9	L 4b4	1	N-112°-E	呂字形	1.17	0.72	0.70	20	圓状	0.40	0.15	34	0.93	0.35	24	平坦	人為	骨片	本跡→SK375
10	L 4b1	1	N-101°-E	丁字形	1.58	(1.08)	0.58	10	圓状	0.34	0.27	20	1.04	0.42	15	平坦	人為	骨片	本跡→SK452
11	L 4c2	1	N-85°-E	呂字形	1.14	0.69	0.58	15	平坦	0.28	0.12	29	0.77	0.29	11	平坦	人為	骨片	SI171→本跡
12	L 4b2	1	N-85°-W	呂字形	1.30	0.90	0.81	25	圓状	0.32	0.13	26-44	0.80	0.36	32	圓状	人為	骨粉	SI161・163→本跡→SK547

(3) 地下式坑

第1号地下式坑 (第314・315図 PL27)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

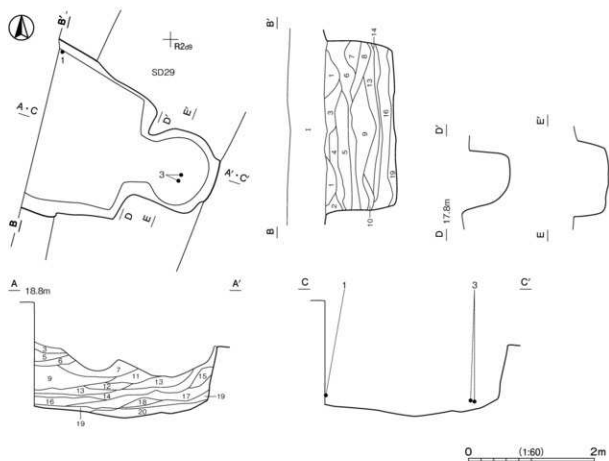
位置 調査Ⅲ区南部のR2d8区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第29号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区外に延びていることから、軸長は2.90mしか確認できず、主軸方向はN-71°-Wである。

竪坑 主室の南東壁中央部に位置し、長径1.35m、短径1.27mの円形で、深さは106cmである。底面は平坦で、主室に向かってゆるやかに傾斜しており、壁は直立している。

主室 西側が調査区域外へ延びていくため、横幅は2.62mで、奥行きは1.55mしか確認できなかった。方形もしくは長方形で、深さは110cmである。底面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。天井部は崩落しており、壁は直立している。



第314図 第1号地下式坑実測図

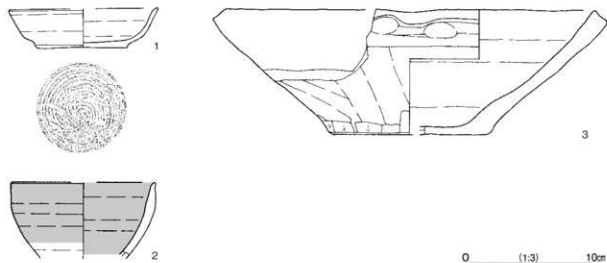
覆土 20層に分層できる。第19・20層は流れ込んだような堆積をしていることから堅坑からの流入土で、第7～18層は暗褐色土が主体の天井部の崩落土である。第1～6層は不規則な堆積状況から、天井部の崩落後に埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 (表土) | 11 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 にい黄褐色 粘土ブロック・炭化物微量 | 15 黒褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 5 にい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化物微量 | 16 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 にい褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 17 にい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化物微量 |
| 7 暗褐色 粘土ブロック中量 | 18 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 8 にい黄褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 19 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 20 黒褐色 粘土ブロック中量 |
| 10 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片10点(高台付碗2, 甕類8), 土師質土器片2点(小皿), 陶器片3点(碗2, 片口鉢1)が出土している。1・3は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀前半と考えられる。



第315図 第1号地下式坑出土遺物実測図

第1号地下式坑跡出土遺物観察表(第315図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師質土器	小皿	[118]	3.1	7.0	長石・石英・炭化粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	60%	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴		輪軸	産地	出土位置	備考
2	陶器	大皿茶碗	[114]	6.1	-	緻密にい黄褐色	ロクロナデ 漬け掛け		鉄軸	瀬戸	覆土中	10%
3	陶器	片口鉢	[292]	9.9	[124]	長石・石英・にい黄褐色	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ・外面下層にヘラ磨り		常滑		覆土下層	40% PL66

第2号地下式坑（第316図）

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のR2c9区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第6号井戸跡を掘り込み、第29号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西コーナー部が調査区域外へ延びているが、軸長は3.28mで、主軸方向はN-61°-Wである。

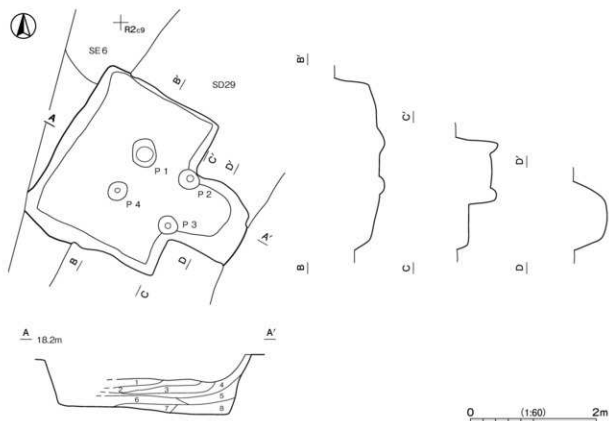
竪坑 主室の南東壁中央部に位置し、軸長1.23m、短軸1.12mの方形で、深さは95cmである。底面は平坦で、主室部よりも若干深く下がっている。壁は外傾している。

主室 奥行き2.05m、横幅2.86mの長方形で、深さは83cmである。底面は竪坑部に向かって10cmほど傾斜しているが、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。竪坑部寄りの位置に、長径48~32cm、深さ10~16cmほどのビット状のくぼみを4か所確認したが、性格は不明である。P1~P4はほぼ方形に配置されている。壁は直立している。

覆土 8層に分層できる。粘土ブロックが比較的多く含まれていることから、竪坑部から投げ込まれるように埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 粘土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰黄褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |



第316図 第2号地下式坑実測図

遺物出土状況 土師器片 58 点 (坏 10, 高台付坏 10, 甕類 38), 須恵器片 4 点 (甕類), 陶器片 6 点 (碗 5, 甕類 1), 被熱燻 2 点が出土している。遺物は細片のため, 図示できなかった。

所見 主室の底面で確認できた方形に配置されているピットは, 堅坑部からの出入りの際の構造物の痕跡と推測される。時期は, 出土土器から 15 世紀前半と考えられる。

表 12 中世地下式坑一覧表

番号	位置	確認面	軸方向	平面形		軸長 (m)	堅坑規模			主室規模			覆土	主な出土遺物	備考
				堅坑	主室		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
1	R 2 d8 1	N-71°-W	円形	[方形・長方形]	(290)	1.35	(1.27)	106	(1.55)	2.62	110	自然入為	土師器, 土師質土器, 陶器	本跡→SI29	
2	R 2 d9 1	N-61°-W	方形	長方形	3.28	1.23	(1.12)	95	2.05	2.86	83	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 被熱燻	SE 6→本跡→SI29	

(4) 井戸跡

第 10 号井戸跡 (第 317 図)

調査年度 平成 25 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区南部の R 2 b0 区, 標高 18 m の平坦部に位置している。

重複関係 第 111 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 29 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.53 m, 短径 1.46 m の円形で, 確認面から円筒状に掘り込まれている。確認面から 155cm まで掘り下げた段階で, 湧水と崩落のおそれがあるため, 以下の調査を断念した。

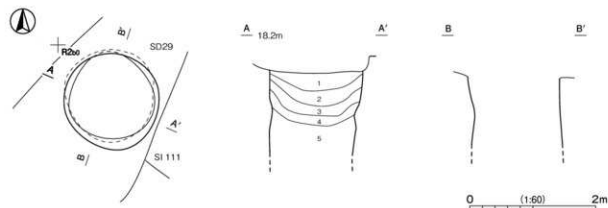
覆土 5 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 粘土ブロック多量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 須恵器片 1 点 (甕類), 土師質土器片 1 点 (鉢), 陶器片 5 点 (壺), 石器 1 点 (砥石), 被熱した雲母片岩 2 点が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器と重複関係から, 14 世紀代と考えられる。



第 317 図 第 10 号井戸跡実測図

第18号井戸跡（第318図）

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のM4d4区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.94m、短径0.90mの円形で、確認面から円筒状に掘り込まれている。安全対策をして確認面から194cmまで掘り下げた段階で、湧水と崩落のおそれがあるため、以下の調査を断念した。

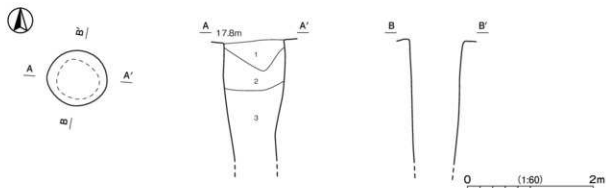
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片3点（坏2、甕類1）、陶器片3点（鉢1、甕類2）、粘土塊1点が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器や形状、周囲の遺構との関係から、15世紀以降と考えられる。



第318図 第18号井戸跡実測図

第25号井戸跡（第319図）

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区北部のD5e7区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.06m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-31°-Wである。安全対策をして調査を行い、深さは272cmである。確認面から円筒状に掘り込まれており、底面は平坦である。

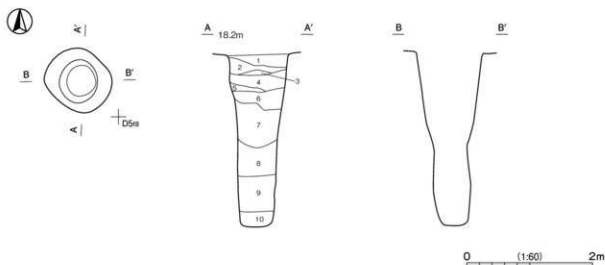
覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックがやや多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、細礫・鉄分沈着微量 | 6 灰黄褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、砂粒微量 | 8 黒褐色 ロームブロック中量、鉄分沈着微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、鉄分沈着微量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）、土師器片4点（坏3、甕類1）が覆土中から出土しているが、いずれも混入したものと考えられる。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが、時期を比定できた第26号井戸跡と類似した形状や周囲の遺構との関係から、第26号井戸跡と同様に、10世紀中葉以降で、15世紀代に機能が停止したと考えられる。



第 319 図 第 25 号井戸実測図

第 26 号井戸跡 (第 320 図)

調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

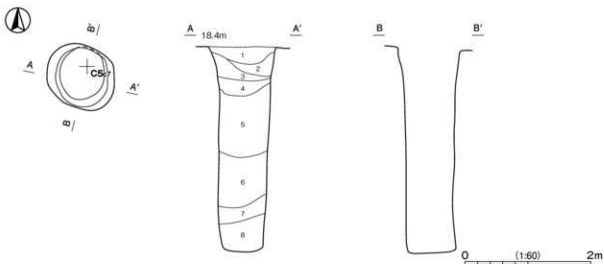
位置 調査Ⅲ区北部の C 5 c6 区、標高 18 m の平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.14 m、短径 0.98 m の楕円形で、長径方向は $N - 55^\circ - W$ である。安全対策をして調査を行い、深さは 320cm である。確認面から円筒状に掘り込まれており、底面は平坦である。

覆土 8 層に分層できる。中層から下層にロームブロックや粘土ブロック、砂粒がやや多く含まれている層が堆積し、上層は不自然な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-----------|-----------------------|-----------|----------------------------|
| 1 におい・黄褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 におい・黄褐色 | 砂粒中量、粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | 黒色土ブロック・ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | | |



第 320 図 第 26 号井戸跡実測図

遺物出土状況 土師器片7点(高台部分1, 甕類6), 陶器片1点(甕)が出土しているが, いずれも細片のため図示できなかった。土師器片は覆土下層から, 常滑産の甕類部片は覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが, 下層から出土した土器及び周辺の遺構が10世紀中葉が主体であることなどから, 10世紀中葉以降で, 15世紀代に機能が停止したと考えられる。

第33号井戸跡(第321図)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のR2h9区, 標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.42m, 短径1.32mの不整形円形で, 深さは212cmで, 確認面から円筒状に掘り込まれている。底面は平坦である。

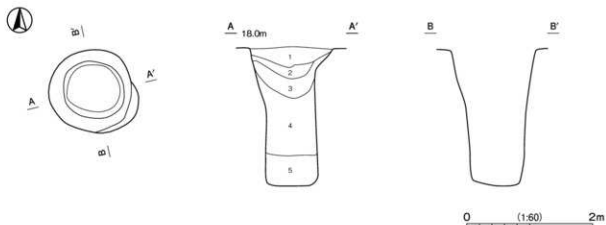
覆土 5層に分層できる。各層に青灰色粘土ブロックがやや多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量 | 4 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 青灰色粘土ブロック中量 | 5 褐灰色 青灰色粘土ブロック多量, 鉄分沈着中量 |
| 3 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量, 炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片1点(高台付碗), 陶器片1点(甕類), 石器2点(砥石, 不明), 金属製品1点(不明)が覆土中から出土しているが, いずれも細片のため図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器が少量で細片であるため判断が困難であるが, 時期を比定できた第26号井戸跡と類似した形状や周囲に地下式坑や火葬施設などが存在することから, 10世紀以降で, 15世紀代に機能が停止したと考えられる。



第321図 第33号井戸跡実測図

表13 中世井戸跡一覧表

番号	位置	確認面	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
10	R2h0	1	-	円形	1.33×1.46	135	-	円筒状	自然	須恵器, 土師質土器, 陶器, 石器	SI111 → 本跡 → SI029
18	M4d4	1	-	円形	0.94 × 0.90	194	-	円筒状	自然	土師器, 陶器, 粘土塊	
25	D5e7	1	N-31°-W	楕円形	1.06 × 0.90	272	平坦	円筒状	人為	縄文土器, 土師器	
26	C5c6	1	N-55°-W	楕円形	1.14 × 0.98	320	平坦	円筒状	人為	土師器, 陶器	
33	R2h9	1	-	不整形円形	1.42 × 1.32	212	平坦	円筒状	人為	土師器, 陶器, 石器, 金属製品	

(5) 溝跡

第20号溝跡 (第323・324図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のK4e5～L4a8区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第503・520号土坑を掘り込み、第493・494・496・497・524・527・532号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 全長は34.31mのL字状で、南北軸方向はN-5°-E、東西軸方向はN-80°-Eである。上幅0.35～1.56m、下幅0.20～0.60m、深さは4～35cmで、断面形は逆台形である。

覆土 4層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれているが、流れ込んだような堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 3 に近い黄褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 2 に近い黄褐色 粘土ブロック多量 | 4 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片2点(椀)、瓦質土器片1点(不明)、石器1点(砥石)が出土している。

所見 L字状に巡っているが、第51・54・56号溝跡と同一の可能性があり、方形を呈していたと考えられる。区画内に建物跡は想定できないが、ピット群や火葬施設が確認されていることなどから、同時代である可能性が高いため、中世とした。

第28号溝跡 (第322・323図)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のP3i8～R2a9区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 東部は平成24年度調査時の確認面が高く、確認できなかった可能性があり、おそらく東部へさらに延びていたと考えられる。また、南部は調査区域外へ延びていくため、全長は72.92mしか確認できなかった。L字状で、南北軸方向はN-17°-E、東西軸方向はN-78°-Wである。上幅1.50～3.40m、下幅0.12～0.80m、深さ36～88cmで、断面形は逆台形である。

覆土 8層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれているもの、レンズ状の堆積をしていることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 (表土) | 5 黒褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック微量 | 8 暗褐色 粘土ブロック多量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片45点(坏3、椀8、高台付椀10、甕類24)、須恵器片5点(甕類)、灰釉陶器片1点(壺)、鉄滓1点が覆土中から出土している。灰釉陶器片は細片のため産地は不明である。

所見 第32号溝跡と並行してL字状に巡る形状をしていることや、周辺に中世の火葬施設・地下式坑が確認されていることなどから、同時代である可能性が高いため、中世とした。

第29号溝跡 (第322・323図)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3c7～R2f7区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第111・116～118・120・125号竪穴建物跡、第1・2号地下式坑、第6・11号井戸跡、第220号土坑を掘り込み、第10号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 東部は平成24年度調査時の確認面が高く、確認できなかった可能性があり、おそらく東部へさらに延びていたと考えられる。全長は75.30mしか確認できなかった。L字状で、南北軸方向はN-20°-E、東西軸方向はN-75°-Wである。上幅1.70～4.00m、下幅0.20～0.44m、深さ20～86cmで、断面形は逆台形である。

覆土 8層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれているが、流れ込んだような堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 灰黄褐色 粘土ブロック多量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック少量 | 7 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 粘土ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片3点(坏2、甕類1)、鉄滓1点が覆土中から出土している。

所見 第1・2号地下式坑を掘り込んでいることから、15世紀前半以降と考えられる。第28・32号溝跡と並行することから、同時代と考えられる。

第32号溝跡 (第322・323図)

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のP3j8～Q2j0区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第125号竪穴建物跡、第226号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 東部は平成24年度調査時の確認面が高く、確認できなかった可能性があり、おそらく東部へさらに延びていたと考えられる。全長は62.48mしか確認できなかった。L字状で、南北軸方向はN-14°-E、東西軸方向はN-78°-Wである。南北軸のラインは、途中から、樹枝状に延びていく形状をしている。

上幅0.34～1.96m、下幅0.14～0.56m、深さ10～46cmで、断面形はU字状あるいは逆台形である。

覆土 4層に分層できる。粘土ブロックが多く含まれているが、流れ込んだような堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 (表土) | 3 灰黄褐色 粘土ブロック多量 |
| 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片3点(坏2、甕類1)、鉄滓1点が覆土中から出土している。

所見 第28号溝跡と並行してL字状に巡っていること、周辺に中世の火葬施設・地下式坑が確認されていることなどから、同時代である可能性が高いため、中世と判断した。南北ラインの樹枝状になった部分は、溝の途中から、溜まった水が流れた自然流路のようなものと推定される。

第51号溝跡 (第323・324図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のL 4 d4～L 4 e6区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第410号土坑に掘り込まれている。第411号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東部が調査区域外へ延びていくため、全長は1227mしか確認できなかった。直線状で、東西軸方向はN-87°-Eである。上幅1.08～2.30m、下幅0.18～0.95m、深さは10～26cmで、断面形は逆台形である。

覆土 5層に分層できる。各層に粘土ブロックがやや多く含まれているが、流れ込んだような堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック微量、鉄分少量 | 4 暗褐色 粘土ブロック微量、鉄分多量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・鉄分少量 | 5 暗褐色 粘土ブロック少量、鉄分多量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック・鉄分中量 | |

遺物出土状況 土師器片30点（坏15、高台付碗14、甕類1）、須恵器片1点（甕類）、灰軸陶器片2点（碗、壺）、陶器片1点（甕）、石器1点（砥石）、被熱礫2点が覆土中から出土している。灰軸陶器片は細片のため産地は不明である。陶器の甕は常滑産と考えられる。遺物は細片のため、図示できなかった。

所見 第20・54・56号溝跡と同一の溝の可能性があり、方形を呈していたと考えられる。区画内に建物跡は想定できないが、ピット群や火葬施設が確認されていることなどから、同時代である可能性が高いため、中世とした。

第54号溝跡（第323・324図）

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のL 4 d2～L 4 e3区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第166号堅穴建物跡、第55号溝跡を掘り込み、第23号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びていくため、全長は4.94mしか確認できなかった。東西軸方向はN-93°-Eである。上幅0.80～1.30m、下幅0.20～0.47m、深さは17～27cmで、断面形はU字状である。

覆土 単一層である。粘土ブロックが多く含まれているが均質であることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）、土師器片4点（坏1、高台付碗3）、灰軸陶器片1点（甕類）、被熱礫2点が覆土中から出土している。灰軸陶器片は細片のため、産地は不明である。遺物は細片のため図示できなかった。

所見 走行状況から、第20・51・56号溝跡と同一の可能性があり、方形の区画の南辺を画するものと考えられる。区画内に建物跡は想定できないが、ピット群や火葬施設が確認されていることなどから、同時代である可能性が高いため、中世とした。

第56号溝跡（第323・324図 PL23）

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のK 4 e4～K 4 e5区、標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第520号土坑、第20号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びていくため、全長は5.66mしか確認できなかった。東西軸方向はN-86°-Eである。上幅1.12～1.44m、下幅0.48～0.92m、深さは46cmで、断面形は逆台形である。

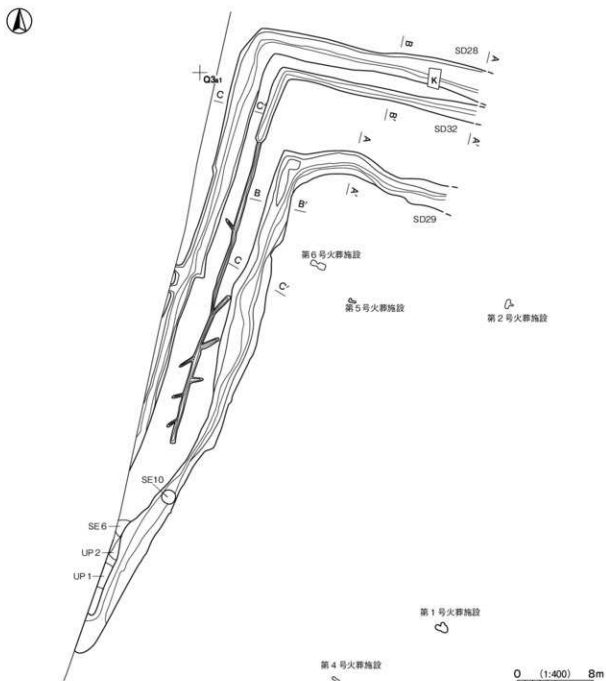
覆土 3層に分層できる。各層に粘土ブロックがやや多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

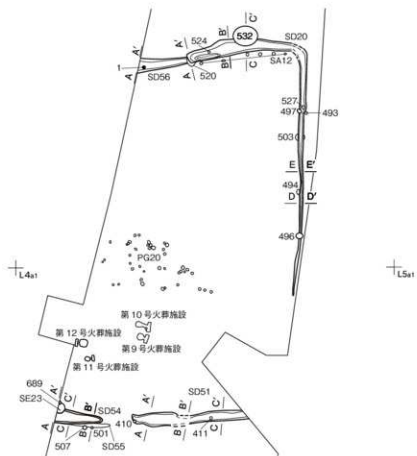
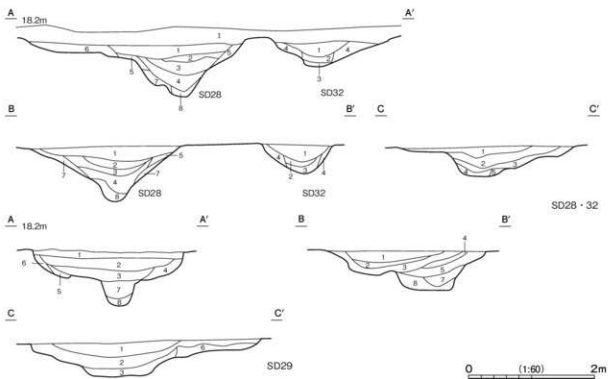
- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量、鉄分中量 3 暗褐色 粘土ブロック・鉄分中量、焼土ブロック微量
 2 暗褐色 粘土ブロック微量、鉄分少量

遺物出土状況 灰釉陶器片1点(碗)、陶器片1点(甕)、五輪塔1点(空風輪)が出土している。陶器の甕は、常滑であるが、細片のため図示できなかった。五輪塔は、調査区西側の覆土中層から出土している。

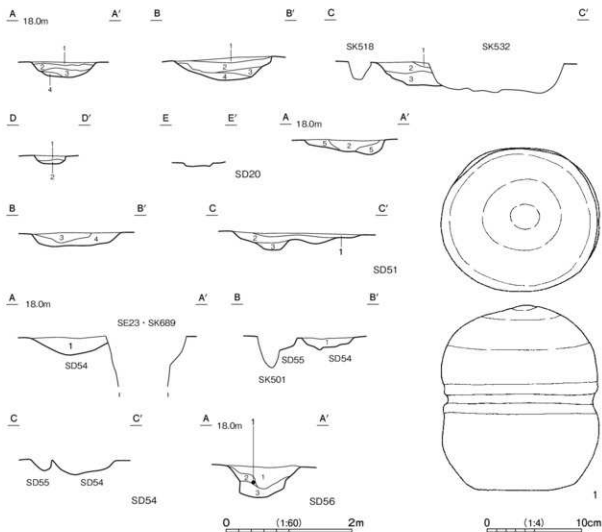
所見 第20・51・54号溝跡と同一の可能性があり、方形の区画の北辺を画するものと考えられる。区画内に建物跡は想定できないが、ピット群や火葬施設が確認されていることや、五輪塔が出土していることから、同時代である可能性が高いため、中世の溝跡とした。



第322図 第28・29・32号溝跡実測図



第 323 图 第 20 · 28 · 29 · 32 · 51 · 54 · 56 号沟跡実測图



第324図 第20・51・54・56号溝跡実測図 第56号溝跡出土遺物実測図

第56号溝跡出土遺物観察表(第324図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	五輪帯 (空輪帯)	195	168	15.1	7.405	花崗岩	空輪部と風輪部のくびれは浅いU字状	覆土中層	PL51

表14 中世溝跡一覧表

番号	位置	確認面	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
					長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
20	K 4 e5 ~ L 4 a8	1	N - 5° - E N - 80° - E	L字状	34.31	0.35 ~ 1.56	0.20 ~ 0.60	4 ~ 35	混合形	凝結	自然	土師器、瓦質土器、 灰輪陶器、鉄滓	SK503・521→ 本跡→SK493・ 494・496・497・ 524・527・532
28	P 3 i8 ~ R 2 a9	1	N - 28° - W N - 17° - E	L字状	(72.92)	1.50 ~ 3.40	0.12 ~ 0.80	36 ~ 88	混合形	凝結	自然	土師器、灰質土器、 灰輪陶器、鉄滓	SK111・116 ~ 118・120・125、 LP1・2、SE6・ 11、SK520→ 本跡→SE10
29	Q 3 e7 ~ R 2 f7	1	N - 25° - W N - 30° - E	L字状	(75.30)	1.70 ~ 4.00	0.20 ~ 0.44	20 ~ 86	混合形	凝結	自然	土師器、鉄滓	SK125、SK226→ 本跡
32	P 3 i8 ~ Q 2 j0	1	N - 28° - W N - 14° - E	L字状	(62.48)	0.31 ~ 1.96	0.14 ~ 0.56	10 ~ 46	U字状 混合形	凝結	自然	土師器、灰質土器、 土師器、灰輪陶器、 灰輪陶器、陶器、磁石、 鉄滓	本跡→SK410 SK411と 調査不明
51	L 4 d1 ~ L 4 e6	1	N - 87° - E	直線	(122.77)	1.08 ~ 2.30	0.18 ~ 0.95	10 ~ 26	混合形	凝結	自然	土師器、灰輪陶器、 陶器	SK166、SD65→ 本跡→SK521
54	L 4 d2 ~ L 4 e3	1	N - 90° - E	直線	(49.4)	0.80 ~ 1.30	0.20 ~ 0.47	17 ~ 27	U字状	凝結	自然	土師器、灰輪陶器、 陶器	本跡→SK520、 SK521
56	K 4 e4 ~ K 4 e5	1	N - 85° - E	直線	(5.66)	1.12 ~ 1.41	0.68 ~ 0.92	46	混合形	凝結	人為	土師器、陶器、 五輪帯	

(6) 土坑

第 236 号土坑 (第 325 図)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区南部の N 3e0 区、標高 18m の平坦部に位置している。

重複関係 第 8 号火葬施設を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は隅丸長方形で、長軸方向は $N-82^{\circ}-W$ である。長軸 1.00 m、短軸 0.79 m、深さ 23cm である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

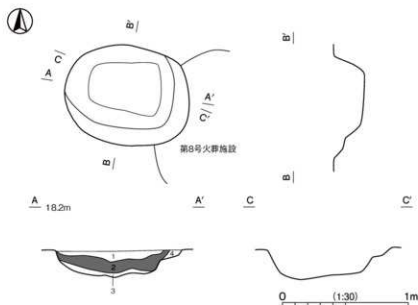
覆土 4 層に分層できる。第 2～4 層は、焼土ブロック・炭化物・焼骨片が多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 濃い黄褐色 粘土ブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック・炭化物・焼骨片多量、粘土ブロック中量 | 4 灰黄褐色 粘土ブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量 |

遺物出土状況 第 2 層から焼骨片が多量に出土している。

所見 焼土壁は確認できないが、焼土ブロック・炭化物・焼骨片が出土しており、周囲に中世の火葬施設が点在していることから、火葬時の炭化材や骨片が受け込まれたものと推測される。出土土器がない為、時期は明確ではないが、周囲の中世の火葬施設と同時期のものと考えられる。



第 325 図 第 236 号土坑実測図

第 288 号土坑 (第 326 図 PL30)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 1 次面

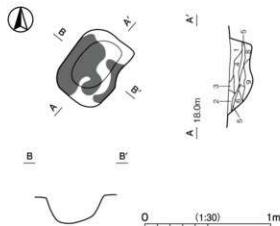
位置 調査Ⅲ区南部の R 3f4 区、標高 18m の平坦部に位置している。

規模と形状 平面形は不整長方形で、長軸方向は $N-40^{\circ}-E$ である。長軸 0.60 m、短軸 0.45 m、深さ 19cm で、底面は凹凸である。壁は外傾している。

覆土 9 層に分層できる。各層に焼土ブロック・炭化物・焼骨片などが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|---------|---------------------------|
| 1 黒 褐 色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 5 灰黄褐色 | 炭化材・焼土ブロック中量、粘土ブロック・焼骨片少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物中量、粘土ブロック・焼骨片少量 | 6 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量 | 7 灰黄褐色 | 粘土ブロック・炭化物少量 |
| 4 黒 褐 色 | 粘土ブロック・炭化物少量 | 8 黒 褐 色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| | | 9 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、炭化物少量 |



遺物出土状況 第2・5層から、少量の焼骨片が出土している。

所見 焼土壁は確認できないが、焼土ブロック・炭化物・焼骨片が出土しており、周囲に中世の火葬施設が点在していることから、火葬時の炭化材や骨片が投げ込まれたものと推定される。出土土器がない為、時期は明確ではないが、周囲の中世の火葬施設と同時期のものと考えられる。

第 326 図 第 288 号土坑実測図

表 15 中世土坑一覧表

番号	位置	確認面	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
					長軸×短軸 (m)	深さ (cm)					
236	N 3a0	1	N-82°-W	楕丸長方形	1.00×0.79	23	平坦	外傾	人為	炭化物、焼骨片	第 8 号火葬施設→本誌
288	R 3H	1	N-40°-E	不整形長方形	0.60×0.45	19	凹凸	外傾	人為	炭化物、焼骨片	

(7) ビット群

第 20 号ビット群 (第 327 図)

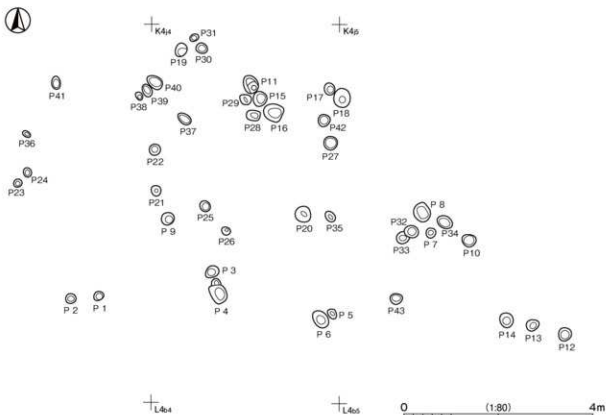
調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区南部の K 4j3～L 4a6 区、標高 18m の平坦部に位置している。東西 11.8 m、南北 6.4 m の範囲からビット 43 か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径 18～56cm、短径 12～36cm の円形または楕円形で、大きさは比較的揃っている。深さは 8～36cm である。

所見 ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。近隣に第 9・10 号柱穴列が存在し、柱の形状が似ていることから関連のあるものと考えられるが、不明である。時期は明確ではないが、周辺に火葬施設が存在すること、中世の可能性のある溝跡の区画内に存在していることから、中世とした。



第 327 図 第 20 号ピット群実測図

表 16 第 20 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	L 4a3	楕円形	21	19	18	16	K 4j	楕円形	42	36	34	31	K 4j	楕円形	20	16	13
2	L 4a3	円形	23	21	13	17	K 4j	円形	27	25	18	32	L 4a5	楕円形	32	24	12
3	L 4a4	楕円形	32	24	20	18	K 4j	楕円形	41	36	26	33	L 4a5 (円形)	(26)	24	16	
4	L 4a4	不整形円形	56	34	32	19	K 4j	楕円形	30	22	27	34	L 4a5	楕円形	34	25	23
5	L 4a4	楕円形	24	16	16	20	L 4a4	円形	33	31	20	35	L 4a4	楕円形	27	18	13
6	L 4a4	楕円形	38	30	20	21	K 4j	円形	24	22	8	36	K 4j	楕円形	18	12	16
7	L 4a5	円形	21	20	13	22	K 4j	円形	26	24	10	37	K 4j	楕円形	32	20	8
8	K 4j	楕円形	38	34	13	23	K 4j	円形	18	18	18	38	K 4j	楕円形	18	14	10
9	L 4a4	楕円形	30	26	14	24	K 4j	円形	18	18	16	39	K 4j	楕円形	28	20	24
10	L 4a5	楕円形	31	28	12	25	K 4j	円形	22	22	20	40	K 4j	楕円形	36	24	26
11	K 4j	楕円形	38	29	36	26	L 4a4	円形	20	19	20	41	K 4j	楕円形	26	20	14
12	L 4a6	円形	28	26	23	27	K 4j	円形	30	28	11	42	K 4j	円形	28	26	30
13	L 4a6	楕円形	28	25	27	28	K 4j	楕円形	29	20	15	43	L 4a5	楕円形	26	21	19
14	L 4a5	円形	31	29	27	29	K 4j	楕円形	25	20	17						
15	K 4j	楕円形	33	30	23	30	K 4j	円形	24	22	11						

4 時期不明の遺構

今回の調査では、時期が明確にできなかった掘立柱建物跡4棟、井戸跡5基、柱穴列9条、溝跡27条、土坑373基、ピット群11か所を確認している。以下、遺構について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡(第328図)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のM4j2区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-63°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.2m、梁行2.1mで、面積は8.82㎡である。柱間寸法は桁行の北平側が2.1m(7尺)の等間で、柱筋は揃っている。

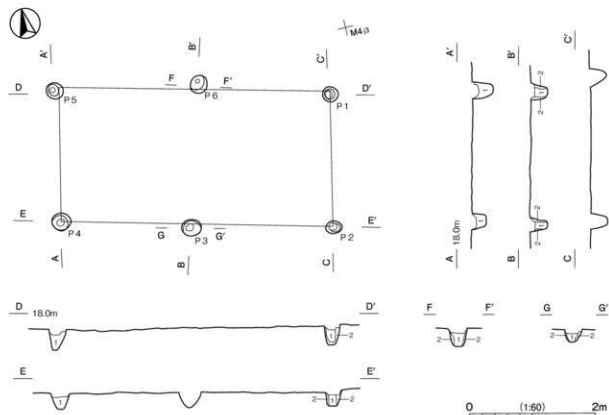
柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径25~31cm、短径21~30cmである。深さは25~36cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1層は抜き取り後の覆土で、第2層は埋土と考えられる。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量

2 褐灰色 粘土ブロック中量

所見 柱間寸法は、整っているが柱穴は細く、簡易的な建物であったと想定される。付近には時期不明な第14号ピット群が確認されており、柱の形状などが類似していることから関連があるものと考えられる。時期は明確ではないが、簡易的な形状から中世以降と考えられる。



第328図 第1号掘立柱建物跡実測図

第2号掘立柱建物跡 (第329図)

調査年度 平成26年度

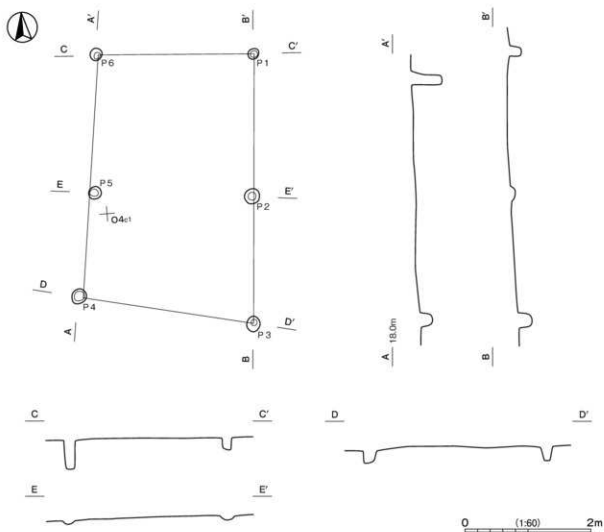
確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のO4b1区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向が $N-5^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は、桁行が東側で4.2m、西側で3.9m、梁行は北側で2.5m、南側で2.8m、面積は11.76 m^2 である。柱間寸法は、東平側が2.1m(7尺)ずつで、西平側が北妻から2.1m(7尺)、1.8m(6尺)で柱筋はほぼ揃っているが、両妻は平行ではない。

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径18~25cm、短径17~24cmである。深さは5~48cmで掘方の壁はほぼ直立している。P2・P5は、深さ9・5cmと浅い。

所見 柱間寸法はおおむね整っているが、柱穴は細く全体的に浅いため、簡易的な建物であったと想定される。時期は明確ではないが、簡易的な形状や周囲に中世の遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。



第329図 第2号掘立柱建物跡実測図

第4号掘立柱建物跡 (第330図)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のM3d0区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向が $N-86^{\circ}-W$ の東西棟である。規模は、桁行3.9m、梁行0.9mで、面積は351㎡である。柱間寸法は、北平側が東妻から2.1m(7尺)、1.8m(6尺)で、南平側が1.8m(6尺)ずつで、P3とP6がわずかに南側へずれるが、柱筋はほぼ揃っている。

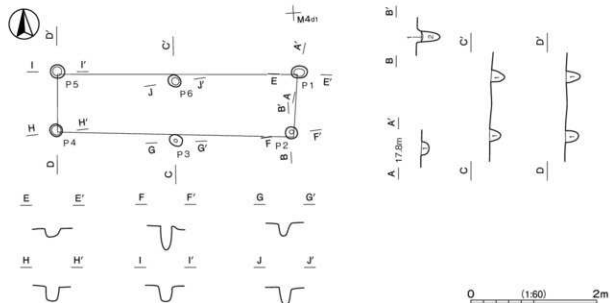
柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径20~25cm、短径17~22cmである。深さは12~39cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量

2 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量

所見 P3とP6の柱筋は若干南側へずれており、柱穴は細く全体的に浅いため、詳細は不明であるが、簡易的な建物であったと想定される。付近には時期不明の第15号ピット群が確認されており、柱の形状などが類似していることから、関連があるものと考えられる。時期は明確ではないが、簡易的な形状や周囲に中世の遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。



第330図 第4号掘立柱建物跡実測図

第6号掘立柱建物跡 (第331図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のL4i1区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向が $N-13^{\circ}-E$ の南北棟である。規模は、桁行4.2m、梁行1.2mで、面積は5.04㎡である。柱間寸法は東平側が北妻から1.8m(6尺)、2.4m(8尺)で、西平側は2.1m(7尺)である。東平側は若干広がるが、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径17～32cm、短径15～25cmである。深さは35～62cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は抜き取り後の覆土である。

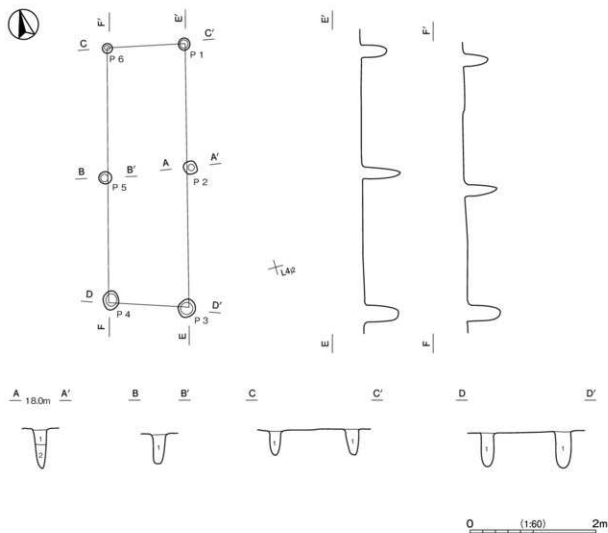
土層解説 (各柱穴共通)

1 暗褐色 粘土ブロック微量、炭化粒子微量

2 黒褐色 粘土ブロック中量

遺物出土状況 P6の覆土中から土師器片1点(坏)が出土しているが、混入と考えられる。

所見 P3・P6が若干南側へずれており、柱穴が全体的に細いことから、簡易的な建物であったと考えられる。時期は明確ではないが、簡易的な形状や周囲に中世の遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。



第331図 第6号掘立柱建物跡実測図

表16 時期不明の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	掘立柱	掘行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴		主な出土遺物	備考	
							柱×梁間	柱×梁 (m)	面積 (㎡)	柱間(m)			梁間(m)
1	M4j2	1	N-63°-W	2×1	42×21	8.82	21	21	欄柱	6	円形・楕円形	25～36	PG14との関連あり
2	O4bl	2	N-5°-E	2×1	東42×北25 西39×南28	11.76	18～21	24～28	欄柱	6	円形・楕円形	5～8	
4	M3d0	1	N-86°-W	2×1	3.9×0.9	3.51	1.8～2.1	1.8	欄柱	6	円形・楕円形	12～29	PG15との関連あり
6	L4i1	1	N-13°-E	2×1	4.2×1.2	5.04	2.1～2.4	1.2	欄柱	6	円形・楕円形	35～62	土師器

(2) 井戸跡

時期不明の井戸跡については、各遺構について本文を掲載し、実測図はまとめて掲載する。

第4号井戸跡（第332図）

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のR3f3区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径1.23m、短径1.11mの楕円形で、円筒状に掘り込まれている。長径方向はN-27°-Eである。確認面から深さ78cmまで掘り下げた段階で湧水と崩落の恐れがあるため、以下の調査を断念した。

覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積をしているが、各層に粘土ブロックが中量、焼土粒子が多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子多量、粘土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子多量、粘土ブロック・炭化物少量 | | |

所見 時期は、出土土器がないため不明であるが、形状などから中世以降の可能性がある。

第9号井戸跡（第332図）

調査年度 平成25年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のP3i5区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径1.40m、短径1.22mの楕円形で、円筒状に掘り込まれている。長径方向はN-5°-Eである。確認面から深さ80cmまで掘り下げた段階で湧水と崩落の恐れがあるため、以下の調査を断念した。

覆土 6層に分層できる。各層に焼土ブロック、粘土ブロック、炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |

所見 時期は、出土土器がないため不明であるが、形状などから中世以降の可能性がある。

第19号井戸跡（第332図）

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のM3i0区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は長径1.24m、短径1.14mの円形で、深さは150cmである。確認面から円筒状に掘り込まれている。

覆土 5層に分層できる。各層に焼土ブロック、粘土ブロック、炭化粒子などが含まれており、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|--------|----------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | 粘土ブロック少量、焼土粒子・鉄分沈着微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック・鉄分沈着少量 | 5 灰黄褐色 | 粘土ブロック少量、炭化粒子・鉄分沈着微量 |
| 3 褐色 | 粘土ブロック少量、炭化物・鉄分沈着微量 | | |

遺物出土状況 土師器片3点(坏1, 甕類2), 焼成粘土塊9点が出土しているが, 埋め戻しに伴って混入したものと考えられる。遺物は細片のため, 図示できなかった。

所見 その他の井戸跡に比べ, 底面まで比較的浅い形状である。時期は, 出土土器が少量で細片であり, 混入と考えられることから明確ではないが, 形状としては平面形が第4・9号井戸跡と類似していることから, 中世以降の可能性はある。

第23号井戸跡(第332図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のL4d2区, 標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第54号溝跡を掘り込み, 第689号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びていくため, 確認面は南北軸は1.06mで, 東西軸は0.74mしか確認できなかった。円形もしくは楕円形で, 安全対策を行い, 深さ260cmまで掘り下げたところで底面を確認した。確認面から円筒状に掘り込まれ, 下部が若干オーバーハングしている。

覆土 8層に分層できる。第6～8層はロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。その後, 第1～5層がレンズ状に自然堆積している。第7・8層は鉄分が多く沈着している。

土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 におい黄褐色	ローム粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分微量
2 褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック中量, 鉄分微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	7 におい黄褐色	ロームブロック・鉄分中量, 炭化物少量
		8 褐灰色	ロームブロック中量, 鉄分少量

所見 時期は, 遺構に伴う出土土器がないため不明であるが, 周辺の様相から中世以降と考えられる。

第31号井戸跡(第332図)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区中央部のO3f6区, 標高18mの平坦部に位置している。

重複関係 第147号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径1.06mで, 短径0.98mの円形である。安全対策を行い, 深さ210cmまで掘り下げたところで湧水と崩落の恐れがあるため, 調査を断念した。確認面から円筒状に掘り込まれ, 下部が若干はまる形状をしている。

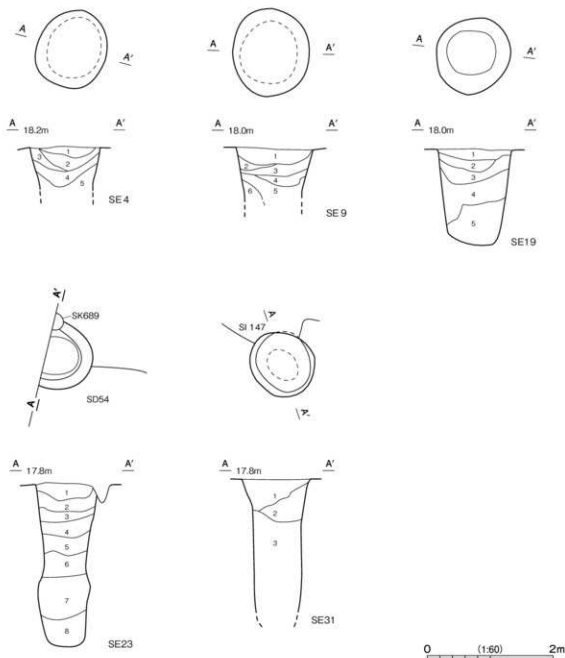
覆土 3層に分層できる。含有物が少なく, ほぼ同質な土であることから, 自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	青白色粘土ブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・青白色粘土ブロック微量
2 黒褐色	青白色粘土ブロック・鉄分沈着微量		

遺物出土状況 灰釉陶器1点(皿)が出土している。細片のため産地は不明である。堆積の過程で流入したものと考えられる。

所見 時期は, 遺構に伴う出土土器がないため不明であるが, 周辺の様相から中世以降と考えられる。



第 332 図 時期不明の井戸跡実測図

表 17 時期不明の井戸跡一覧表

番号	位置	確認面	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4	R.3.03	1	N-27°-E	楕円形	1.23 × 1.11	(78)	-	円筒状	人為		
9	P.3.05	1	N-5°-E	楕円形	1.40 × 1.22	(80)	-	円筒状	人為		
19	M.3.00	1	-	円形	1.24 × 1.14	150	平坦	円筒状	人為	土師器、焼成粘土塊	
23	L.4.d2	1	-	[円形-楕円形]	1.06 × (0.74)	260	皿状	円筒状	自然人為		SI354 → 本跡 → SK089
31	O.3.06	2	-	円形	1.06 × 0.98	(210)	-	円筒状	自然	灰釉陶器	SI147 → 本跡

(3) 柱穴列

第3号柱穴列 (第333図)

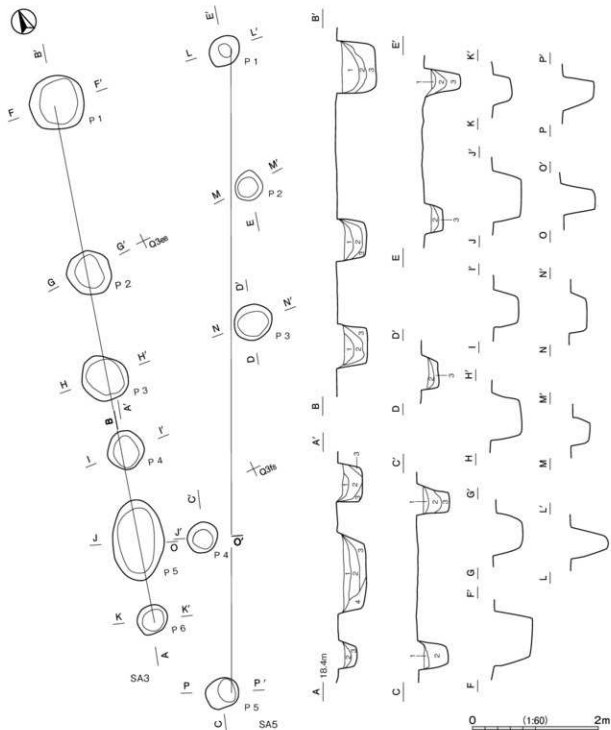
調査年度 平成24年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3d7～Q3f7区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向に8.33mの間に配列された6か所の柱穴を確認した。配列方向はN-17°-Eである。

柱間寸法は1.18～2.75mと不規則で、柱筋はおおむね揃っている。



第333図 第3・5号柱穴列実測図

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径52～131cm、短径46～86cmである。深さは28～64cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1～4層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐 色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 におい黄褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 4 暗 褐 色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |

所見 類似する第5号柱穴列が並列している。時期や性格は不明である。

第5号柱穴列 (第333図)

調査年度 平成24年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のQ3d8～Q3f7区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向に10.15mの間に配列された5か所の柱穴を確認した。配列方向はN-27°-Eである。柱間寸法は2.20～3.40mと不規則で、柱筋も若干ずれている。

柱穴 5か所。平面形は円形または楕円形で、長径50～63cm、短径45～57cmである。深さは28～58cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1～3層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐 色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 におい黄褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | |

所見 類似する第3号柱穴列が並列している。時期や性格は不明である。

第7号柱穴列 (第334図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区北部B5j7～C5e7区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向に19.61mの間に配列された19か所の柱穴を確認した。配列方向はN-9°-Eである。柱間寸法は0.50～1.80mと不規則であるが、柱筋はおおむね揃っている。

柱穴 19か所。平面形は円形または楕円形で、長径30～55cm、短径25～36cmである。深さは14～36cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 におい黄褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 2 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
|-----------------------|------------------------|

所見 第8号柱穴列が並列している。時期や性格は不明である。

第8号柱穴列 (第334図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

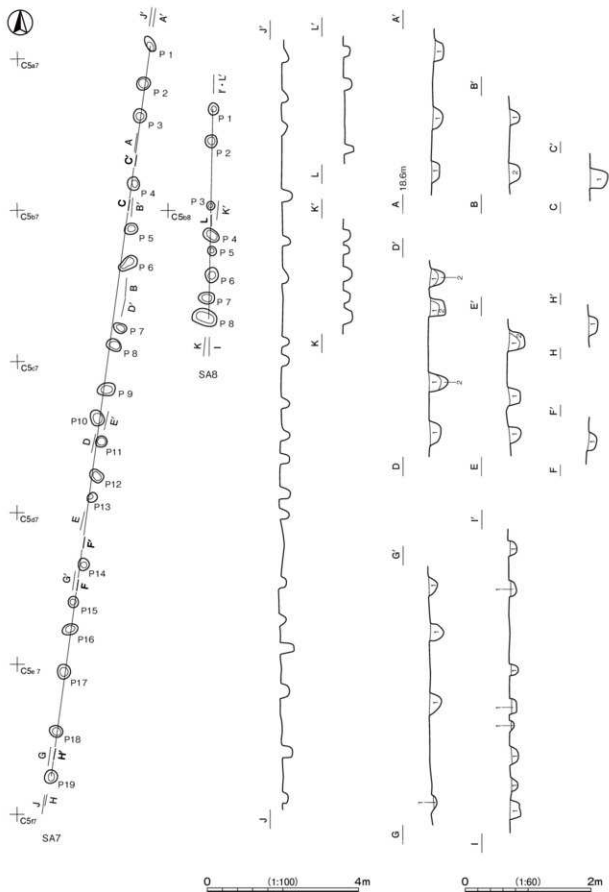
位置 調査Ⅲ区北部のC5a8～C5b8区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向に5.56mの間に配列された8か所の柱穴を確認した。配列方向はN-2°-Eである。柱間寸法は0.42～1.70mと不規則であるが、柱筋はおおむね揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径18～66cm、短径17～42cmである。深さは13～19cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | |
|------------------|
| 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量 |
|------------------|



第 334 图 第 7·8 号柱穴列实测图

所見 第7号柱穴列が並列している。時期や性格は不明である。

第9号柱穴列 (第335図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のK 4j3～L 4a3区、標高18mの平坦部に位置している。

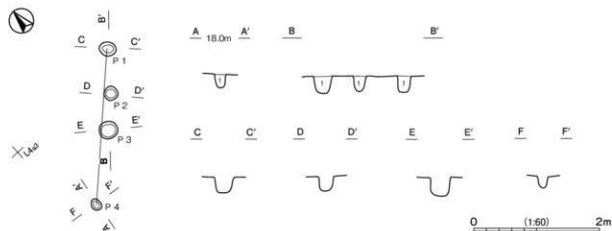
規模と構造 北東から南西方向に2.48mの間に配列された4か所の柱穴を確認した。配列方向はN-48°-Eである。柱間寸法は0.57～1.20mと不規則であるが、柱筋はおおむね揃っている。

柱穴 4か所。平面形は円形または楕円形で、長径19～30cm、短径14～28cmである。深さは19～30cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、鉄分微量

所見 配列方向及び柱穴本数の同じ第10号柱穴列が隣接している。隣接する中世の第20号ピット群との関連が窺われるものの、明確な時期や性格は不明である。



第335図 第9号柱穴列実測図

第10号柱穴列 (第336図)

調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のK 4j3～K 4j4区、標高18mの平坦部に位置している。

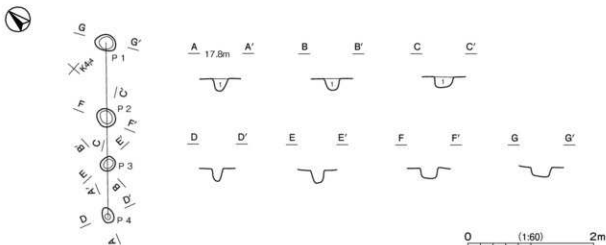
規模と構造 北東から南西方向に2.75mの間に配列された4か所の柱穴を確認した。配列方向はN-46°-Eである。柱間寸法は0.75～1.17mで、柱筋はおおむね揃っている。

柱穴 4か所。平面形は円形または楕円形で、長径24～33cm、短径18～27cmである。深さは15～20cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 粘土ブロック微量

所見 配列方向及び柱穴本数の同じ第9号柱穴列が並列している。隣接する第20号ピット群との関連が窺われるものの、明確な時期や性格は不明である。



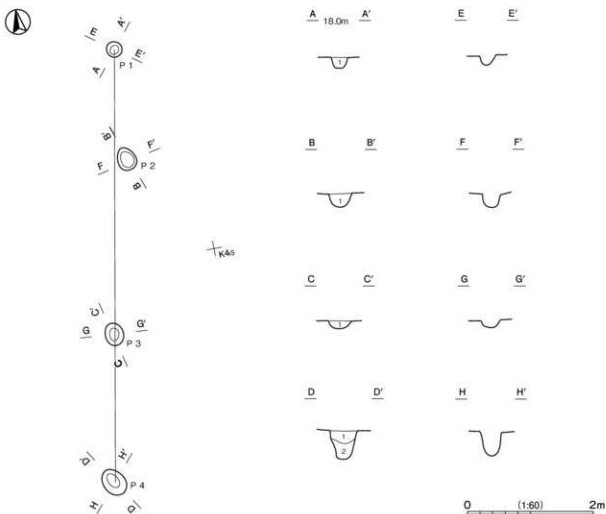
第 336 図 第 10 号柱穴列実測図

第 11 号柱穴列 (第 337 図)

調査年度 平成 28 年度

確認面 第 1 次面

位置 調査Ⅲ区中央部の K 4 h4 ~ K 4 h4 区、標高 18m の平坦部に位置している。



第 337 図 第 11 号柱穴列実測図

規模と構造 南北方向に6.83 mの間に配列された4か所の柱穴を確認した。配列方向は $N-7^{\circ}-E$ である。柱間寸法は1.73～2.76 mで、柱筋はおおむね揃っている。

柱穴 4か所。平面形は円形または楕円形で、長径24～48cm、短径24～36cmである。深さは12～46cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1・2層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗褐色 粘土ブロック微塵

2 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分微塵

所見 時期や性格は不明である。

第12号柱穴列 (第338図)

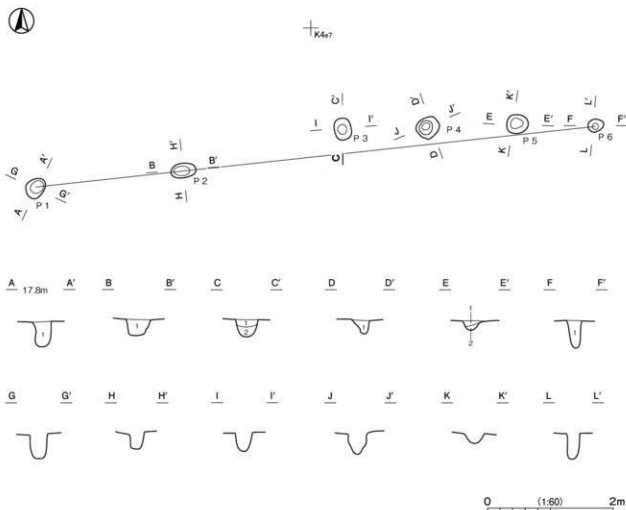
調査年度 平成28年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のK 4e5～K 4e8区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 東西方向に8.94 mの間に配列された6か所の柱穴を確認した。配列方向は $N-78^{\circ}-E$ である。柱間寸法は1.26～2.65 mで、柱筋は若干ずれている。

柱穴 6か所。平面形は楕円形で、長径25～40cm、短径20～32cmである。深さは14～43cmで掘方の壁は



第338図 第12号柱穴列実測図

ほぼ直立している。第1・2層は抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 褐 褐色 粘土ブロック中量

2 灰黄褐色 粘土ブロック微量

遺物出土状況 P1の覆土中から土師器片1点(甕頸)が出土しているが、混入したものと考えられる。

所見 第20号溝跡に平行するように配列されているが、柱筋は若干ずれている。時期や性格は明確ではない。

第13号柱穴列 (第339図)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区中央部のM4g4区、標高18mの平坦部に位置している。

規模と構造 南北方向に262mの間に配列された4か所の柱穴を確認した。配列方向はN-19°-Eである。柱間寸法は0.67~1.20mで、柱筋はおおむね揃っている。

柱穴 4か所。平面形は楕円形で、長径24~44cm、短径20~33cmである。深さは13~27cmで掘方の壁はほぼ直立している。第1~3層は抜き取り後の覆土である。

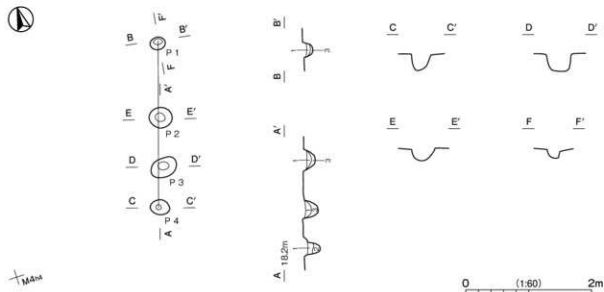
土層解説 (各柱穴共通)

1 褐 灰色 粘土ブロック中量、鉄分微量

3 におい黄褐色 粘土ブロック少量、鉄分中量

2 黒 褐色 粘土ブロック多量、鉄分少量

所見 時期や性格は不明である。



第339図 第13号柱穴列実測図

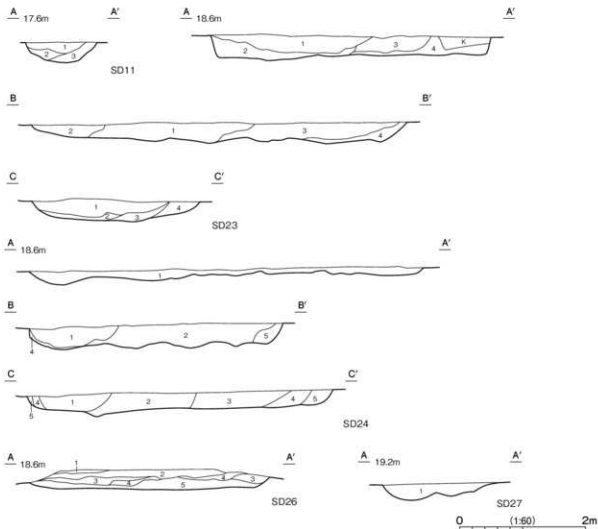
表18 時期不明の柱穴列一覧表

番号	位置	確認面	主軸方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱 穴				主な出土遺物	備 考	
						柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)			深さ (cm)
3	Q347~Q377	1	N-17°-E	8.33	1.18~2.75	6	円形・楕円形	52~131	46~86	28~64		
5	Q308~Q317	1	N-27°-E	10.15	2.20~3.40	5	円形・楕円形	30~63	45~57	28~58		
7	B57~C5e7	1	N-9°-E	19.61	0.50~1.80	19	円形・楕円形	30~55	25~36	14~36		
8	C5a8~C5a9	1	N-2°-E	5.56	0.42~1.70	8	円形・楕円形	18~66	17~42	13~19		
9	K4j3~L4a3	1	N-48°-E	2.48	0.57~1.20	4	円形・楕円形	19~30	14~28	19~30		

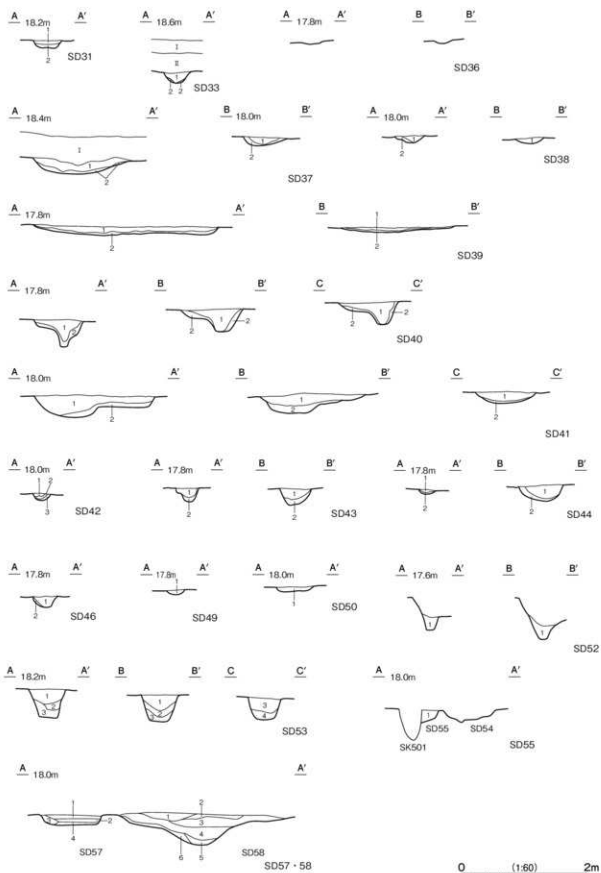
番号	位置	確認面	主軸方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱 穴				主な出土遺物	備 考	
						柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)			深さ (cm)
10	K433-K444	1	N-46°-E	2.75	0.75-1.17	4	円形・楕円形	24-33	18-27	15-20		
11	K4b4-K444	1	N-7°-E	6.83	1.73-2.76	4	円形・楕円形	24-48	24-36	12-46		
12	K4c5-K4e8	1	N-78°-E	8.94	1.26-2.65	6	楕円形	25-40	20-32	14-43	土師器	
13	M4g4	1	N-19°-E	2.62	0.67-1.30	4	楕円形	24-44	20-33	13-27		

(4) 溝跡

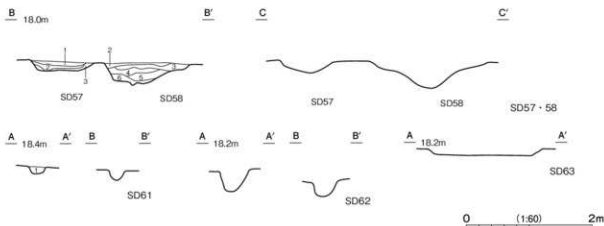
今回の調査で、時期や性格が不明な溝跡 27 条を確認した。以下、実測図 (第 340 ~ 342 図)・土層解説・一覧表を掲載し、平面図については遺構全体図 (付図) に示す。第 21 ~ 25 号溝跡は平成 24 年度調査、第 26 ~ 31 号溝跡は平成 25 年度調査、第 33 ~ 49 号溝跡は平成 26 年度調査、第 50 ~ 63 号溝跡は平成 28 年度調査である。また、平成 28 年度調査では、前回の調査区からのびる第 11 号溝跡を確認し、一覧表には合計の計測値を記載した。



第 340 図 時期不明の溝跡実測図 (1)



第 341 図 時期不明の溝跡実測図 (2)



第 342 図 時期不明の溝跡実測図 (3)

第 11 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 粘土ブロック少量
- 2 暗 褐色 粘土ブロック・鉄分沈着微量
- 3 にふい黄褐色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量

第 23 号溝跡土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック中量、鉄分少量
- 2 にふい黄褐色 粘土ブロック微量、鉄分中量
- 3 褐 灰 色 粘土ブロック・鉄分中量
- 4 褐 灰 色 粘土ブロック中量、鉄分少量

第 24 号溝跡土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック多量、鉄分中量
- 2 褐 灰 色 粘土ブロック中量、鉄分少量
- 3 にふい黄褐色 粘土ブロック微量、鉄分中量
- 4 にふい黄褐色 粘土ブロック微量、鉄分少量
- 5 暗 褐色 粘土ブロック・鉄分微量

第 26 号溝跡土層解説

- 1 灰 白 色 粘土ブロック中量
- 2 明 黄 褐色 粘土ブロック微量
- 3 明 黄 褐色 砂粒少量
- 4 にふい黄褐色 砂粒中量
- 5 緑 灰 色 砂粒多量

第 27 号溝跡土層解説

- 1 灰 褐 色 粘土ブロック多量、鉄分少量

第 31 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第 33 号溝跡土層解説

- I 暗 褐色 (表土)
- II 暗 褐色 (表土)
- 1 暗 褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量

第 37 号溝跡土層解説

- II 暗 褐色 (表土)
- 1 暗 褐色 粘土ブロック中量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック多量

第 38 号溝跡土層解説

- 1 褐 灰 色 粘土ブロック少量、炭化粒子・鉄分微量
- 2 褐 灰 色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量、鉄分少量

第 39 号溝跡土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック多量

第 40 号溝跡土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子・鉄分微量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、鉄分微量

第 41 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量

第 42 号溝跡土層解説

- 1 にふい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック微量
- 3 黒 褐 色 粘土ブロック中量

第 43 号溝跡土層解説

- 1 褐 灰 色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、鉄分微量

第 44 号溝跡土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、鉄分微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック中量、鉄分微量

第 46 号溝跡土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、鉄分微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック・鉄分微量

第 49 号溝跡土層解説

- 1 にふい黄褐色 粘土ブロック中量

第 50 号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 粘土ブロック中量、鉄分多量

第 52 号溝跡土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック微量

第 53 号溝跡土層解説

- 1 にふい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 4 暗 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量

第 55 号溝跡土層解説

- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、鉄分微量

第57号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量、炭化粒子微量
 2 に近い黄褐色 粘土ブロック・鉄分中量
 3 暗 褐色 粘土ブロック微量、鉄分中量
 4 に近い黄褐色 粘土ブロック多量、鉄分少量

- 2 暗 褐色 粘土ブロック・鉄分少量、焼土粒子微量
 3 に近い黄褐色 粘土ブロック・鉄分中量
 4 に近い黄褐色 粘土ブロック・鉄分少量
 5 に近い黄褐色 粘土ブロック少量、鉄分中量
 6 灰黄褐色 粘土ブロック・鉄分中量

第58号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 粘土ブロック・鉄分少量

第61号溝跡土層解説

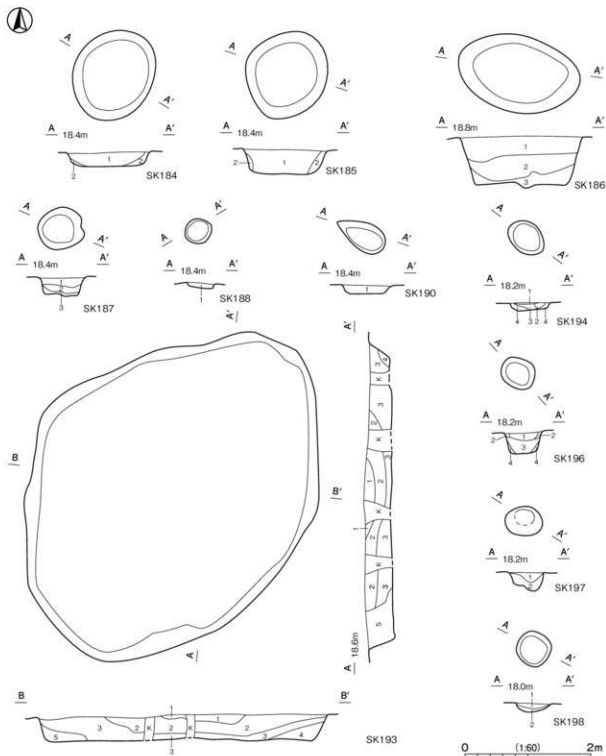
- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

表19 時期不明の溝跡一覧表

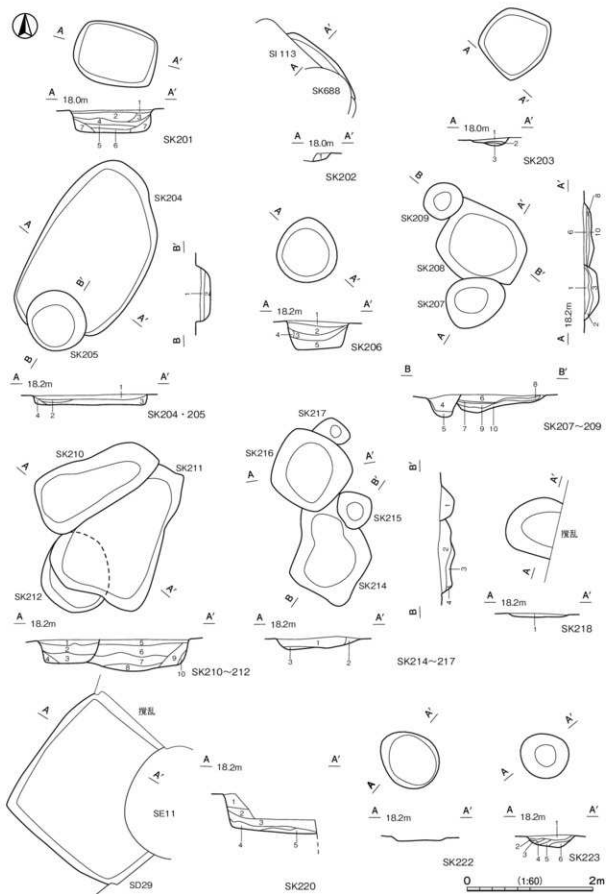
番号	位置	横断面	方向	平面形	観 視			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
					長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
11	J4b7-J5e3	1	N-113°-E N-86°-W	L字状	(2870)	0.50-0.97	0.20-0.40	9-55	U字状 逆台形	傾斜	人為	土師器、陶器	SK344、SD32→ 本跡 前299番のSD11 と同一
23	P4b4-Q4b2	1	N-8°-E	曲線	58.40	0.71-7.06	0.35-6.25	23-45	逆台形	傾斜	人為	陶器	
24	P4b4-Q4g4	1	N-3°-W	曲線	44.60	1.10-5.03	0.75-4.80	7-37	逆台形	傾斜	人為	土師器	
26	S3c4-S3f5	1	N-11°-W	直線	(2001)	3.36-4.92	2.56-2.76	18	逆台形	傾斜	人為		
27	Q4j5-R3e0	1	N-40°-E	直線	(2776)	0.80-2.32	0.24-1.50	12-26	U字状	傾斜	人為		
31	R3b1	1	N-52°-E	直線	2.68	0.42-0.47	0.25-0.32	12	逆台形	傾斜	自然		
33	P3b1-P3e6	1	N-73°-W	直線	(1493)	0.39-0.82	0.10-0.35	12-24	U字状	傾斜	自然	土師器、灰釉陶器、 焼成粘土層	
36	Q3b3-Q3c5	2	N-32°-E N-76°-W	L字状	8.55	0.19-0.28	0.07-0.21	4	U字状	傾斜	自然		本跡→SK273・ 274
37	Q3g5-Q3i6	2	N-70°-W	直線	(6.36)	-	-	-	-	-	人為		SD15→本跡
38	Q3j4-Q3i6	2	N-61°-E	直線	(6.55)	0.27-0.30	0.08-0.22	12	U字状	傾斜	人為		本跡→SI119、 SE15
39	R2e0-R3f0	2	N-87°-E N-62°-W	曲線	12.68	0.90-3.22	0.42-2.36	7-14	U字状	傾斜	自然		
40	M3b0-M4c4	1	N-78°-W	直線	17.94	0.80-1.15	0.07-0.32	35-43	U字状	外傾	自然	土師器、須恵器	SI155→本跡
41	M3d9-M4i3	1	N-86°-W	直線	13.42	0.78-1.94	0.36-0.56	18-35	U字状	傾斜	自然	土師器、陶器(常滑鉢)	ピット5か所
42	Q3i1-Q3j2	2	N-74°-W	直線	(2.37)	0.27-0.44	0.11-0.26	12-16	U字状	傾斜	人為	土製品	本跡→SD29
43	M3d9-M3d0	1	N-72°-E	曲線	(4.24)	0.31-0.45	0.13-0.20	21-26	U字状	外傾	自然	土師器	SE34→本跡
44	M3e0-M4d1	1	N-62°-E N-78°-W	曲線	(9.56)	0.23-0.23	0.06-0.18	6-46	U字状	傾斜	自然	土師器、須恵器	SK364→本跡
46	N3e7-N3f7	1	N-18°-W	直線	(1.48)	0.26-0.36	0.11-0.14	17	U字状	外傾	自然	土師器	
49	N3d9-N3d9	2	N-19°-W	直線	4.53	0.25-0.36	0.12-0.20	7	U字状	傾斜	自然		
50	L4h5-L4h7	1	N-71°-W	直線	(9.02)	0.42-0.67	0.17-0.38	8-16	逆台形	傾斜	不明		本跡→SK383
52	J4b7-J4e0	1	N-86°-E	直線	(14.38)	0.22-0.46	0.07-0.24	46-50	U字状	外傾	自然	陶器	本跡→SK544、 SD11 SD11と同一の溝跡 の可能性あり
53	B5f7-C5a6	1	N-82°-E N-13°-E	逆L字状	(19.22)	0.40-0.70	0.18-0.51	33-44	逆台形	外傾	自然		
55	L4e2-L4e3	1	N-85°-W	直線	(5.55)	0.28-0.35	0.12-0.23	16-20	U字状	外傾	自然	土師器	本跡→SD54、 SK501・507
57	K4d4-K4d6	1	N-84°-E	直線	(11.18)	0.64-0.99	0.32-0.62	14-18	U字状	傾斜	自然		
58	K4c4-K4c8	1	N-89°-E	[直線]	(17.12)	1.06-2.23	0.16-0.78	40	U字状	外傾	人為	土師器	SI167・168→ 本跡→SK337
61	C5a7-C5a9	1	N-86°-E	直線	7.92	0.20-0.28	0.08-0.16	6-14	U字状	傾斜	自然	縄文土器、土師器、 灰釉陶器	本跡→SA7
62	B5d7-B5f7	1	N-11°-E	直線	(8.23)	0.34-0.52	0.19-0.28	20-32	U字状	傾斜	不明		
63	C5e6-C5f7	1	N-87°-E	直線	(5.64)	1.32-1.84	0.44-1.70	-	-	-	不明		SI185→本跡

(5) 土坑

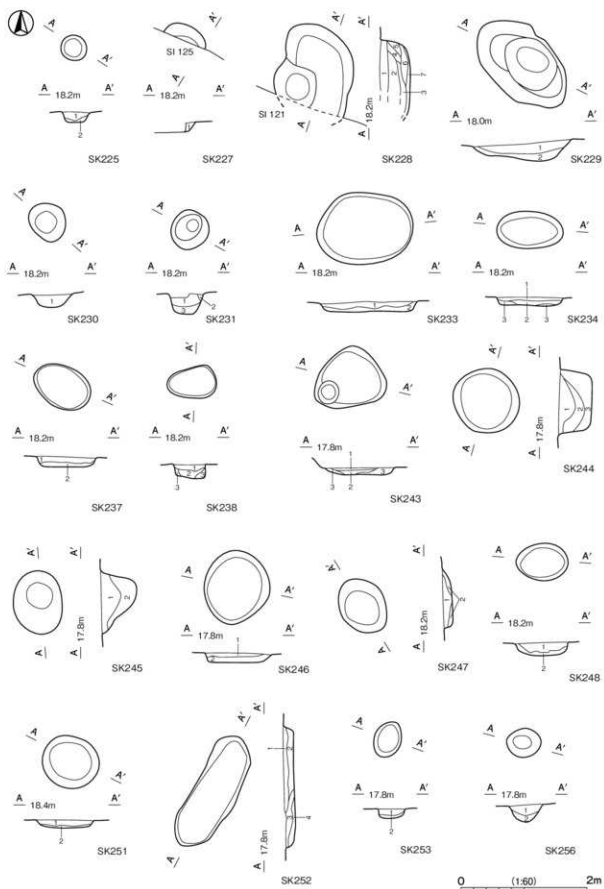
今回の調査で、時期や性格が不明な土坑 373 基を確認した。実測図 (第 343～356 図)、土層解説及び一覧表にて掲載する。第 184～194、676～688 号土坑は平成 24 年度調査、第 196～230 号土坑は平成 25 年度調査、第 231～374・376 号土坑は平成 26 年度調査、第 375・377～675・689 号土坑は平成 28 年度調査である。



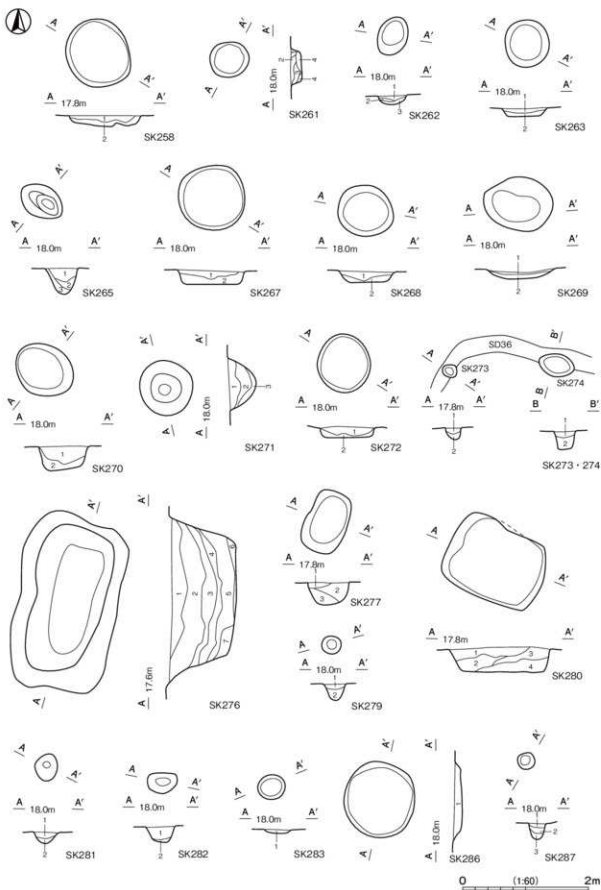
第 343 図 時期不明の土坑実測図 (1)



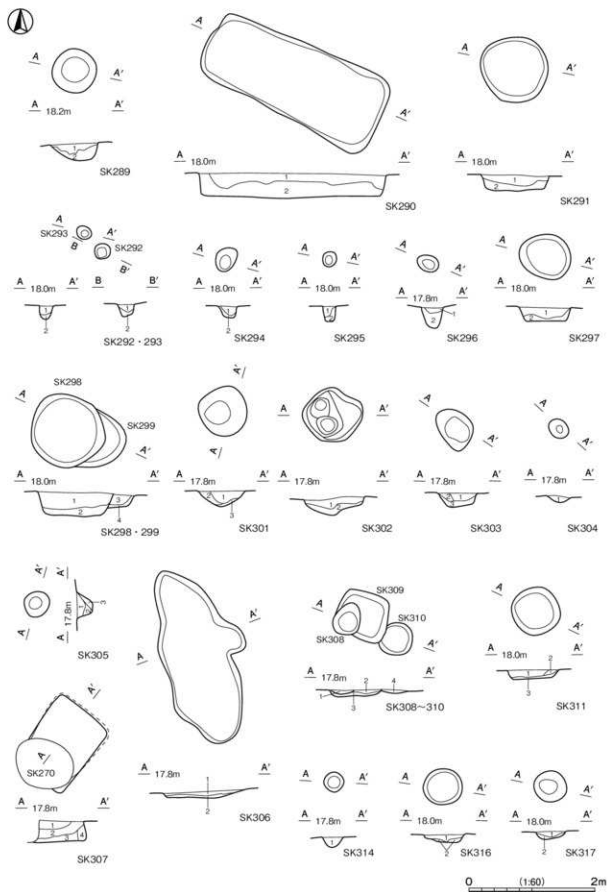
第 344 図 時期不明の土坑実測図 (2)



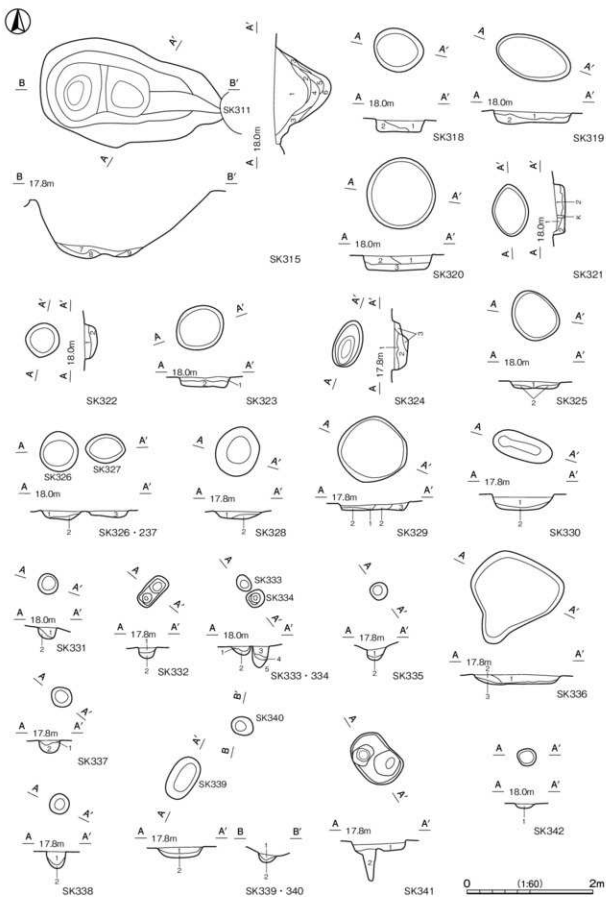
第 345 図 時期不明の土坑実測図 (3)



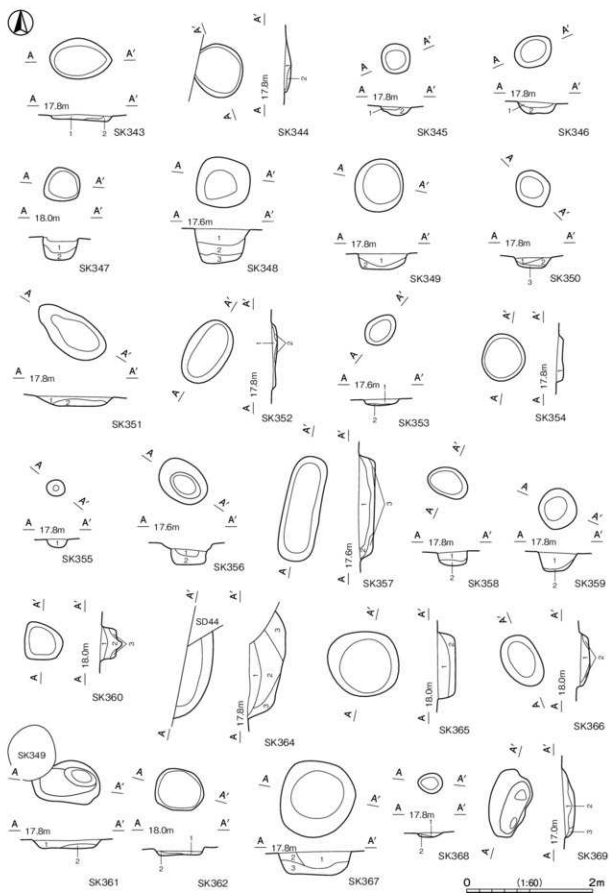
第 346 図 時期不明の土坑実測図 (4)



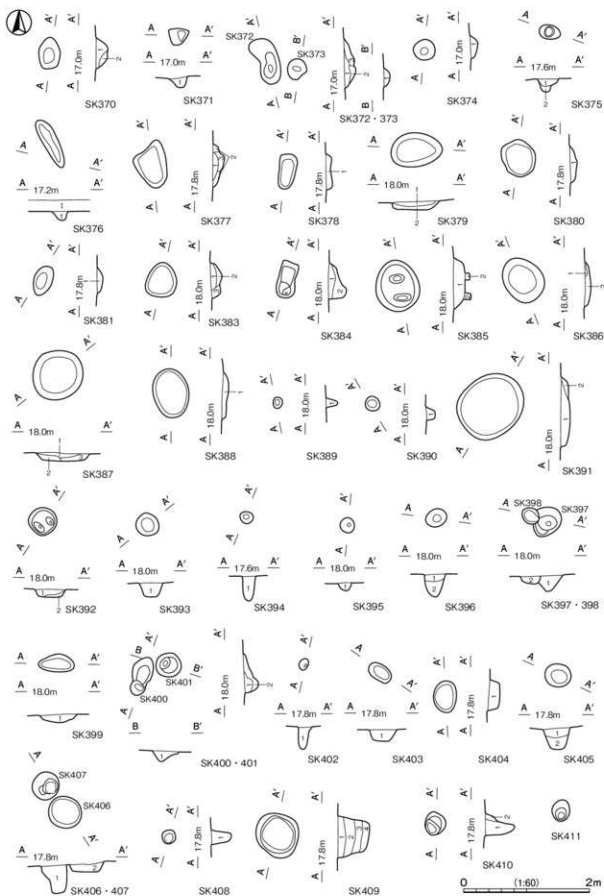
第 347 図 時期不明の土坑実測図 (5)



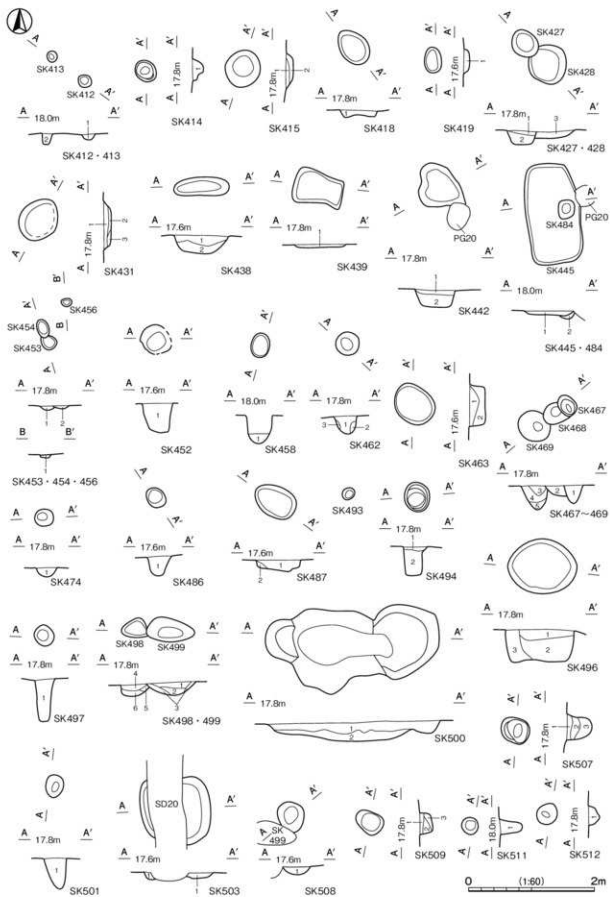
第348図 時期不明の土坑実測図 (6)



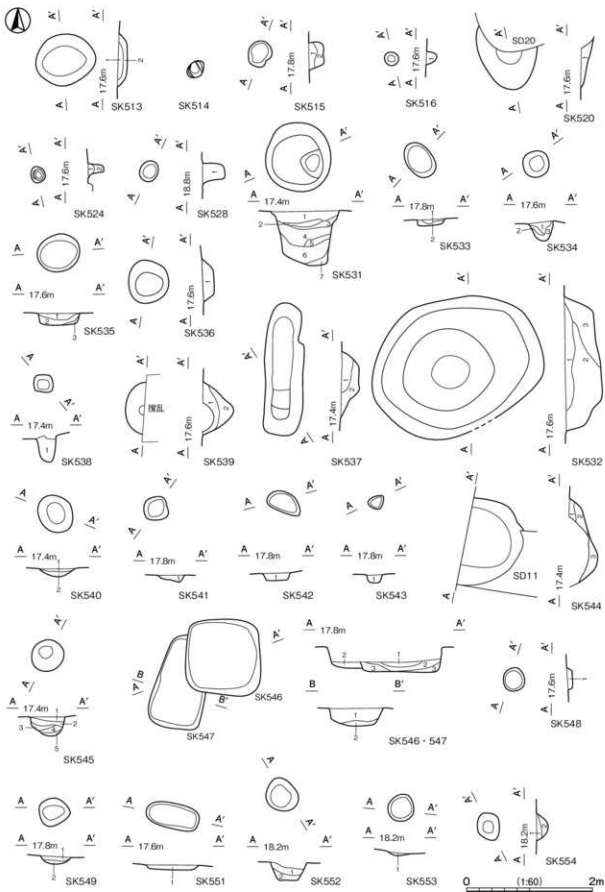
第 349 図 時期不明の土坑実測図 (7)



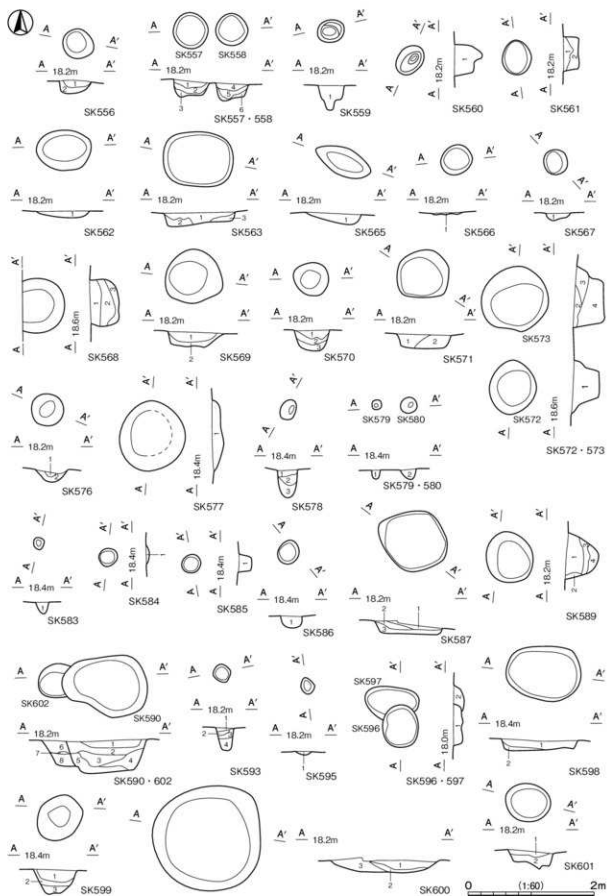
第350図 時期不明の土坑実測図 (8)



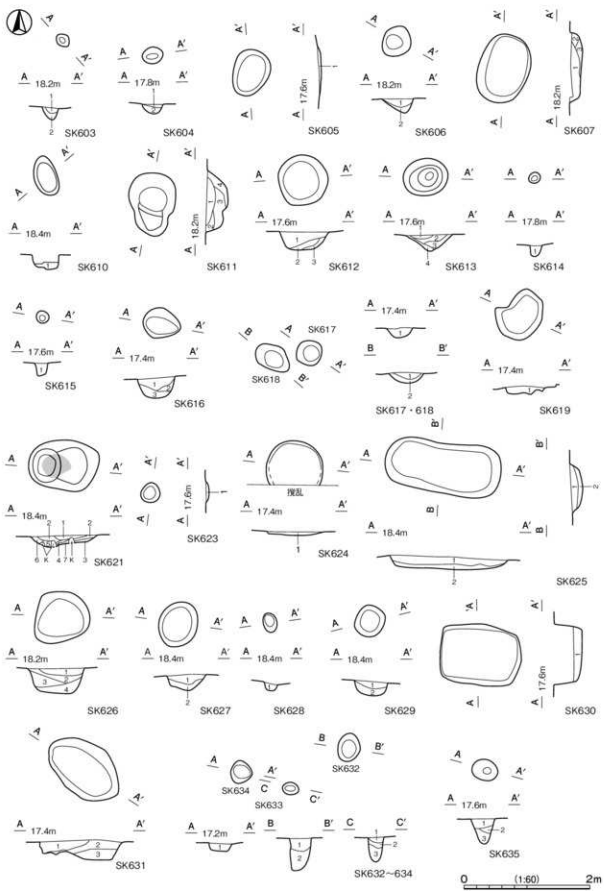
第351図 時期不明の土坑実測図 (9)



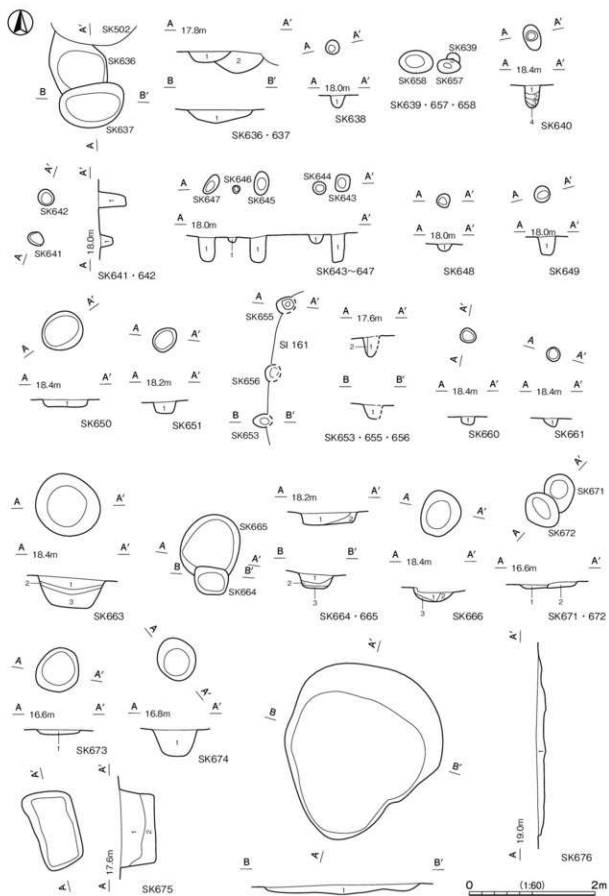
第 352 図 時期不明の土坑実測図 (10)



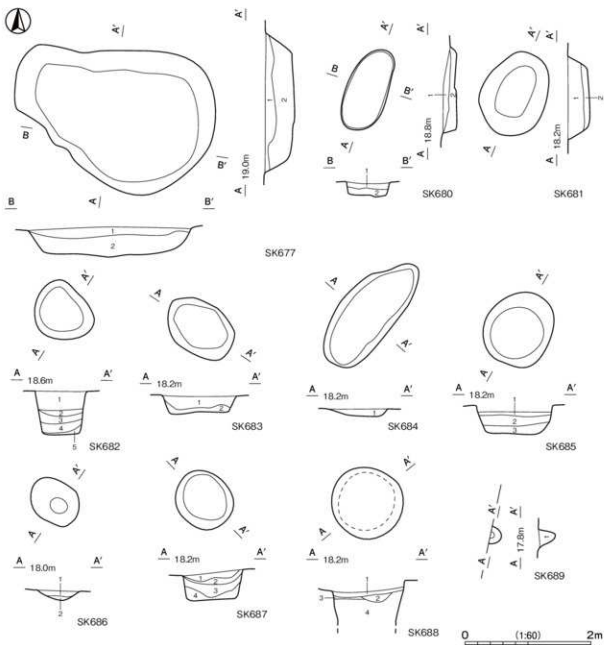
第353図 時期不明の土坑実測図 (11)



第 354 図 時期不明の土坑実測図 ⑫



第 355 図 時期不明の土坑実測図 (1:3)



第356図 時期不明の土坑実測図 (14)

第184号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量
- 2 褐色 シルト多量

第185号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量
- 2 褐色 シルト多量

第186号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量

第187号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 粘土ブロック少量

第188号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量

第190号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量、鉄分沈着少量

第193号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量、鉄分沈着少量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック微量、鉄分沈着少量

第194号土坑土層解説

- 1 黒色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量

第196号土壌層解説

- 1 黒色 灰層 焼土粒子中量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化物少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック少量

第197号土壌層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

第198号土壌層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック多量

第201号土壌層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 3 におい黄褐色 粘土ブロック多量
- 4 灰黄褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量
- 6 褐灰色 粘土ブロック微量
- 7 黒褐色 粘土ブロック少量

第202号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック多量

第203号土壌層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 炭化粒子多量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第204号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック多量
- 4 黒褐色 粘土ブロック微量

第205号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック微量
- 2 黒色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第206号土壌層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 3 におい黄褐色 粘土ブロック多量
- 4 暗褐色 粘土ブロック微量
- 5 黒褐色 粘土ブロック少量

第207・208・209号土壌層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック少量
- 6 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
- 7 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 粘土ブロック微量
- 9 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第210・211号土壌層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック多量
- 4 黒褐色 粘土ブロック少量
- 5 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 におい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 7 におい黄褐色 粘土ブロック多量
- 8 灰黄褐色 粘土ブロック少量
- 9 灰黄褐色 粘土ブロック中量

10 黒褐色 粘土ブロック微量**第214・215号土壌層解説**

- 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 4 黒褐色 粘土ブロック微量

第216号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土ブロック多量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量

第218号土壌層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、粘土ブロック少量、炭化物微量

第220号土壌層解説

- 1 におい黄褐色 粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック多量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック中量
- 5 暗褐色 粘土ブロック少量

第223号土壌層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子多量、粘土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 5 黒褐色 焼土粒子多量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量

第225号土壌層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量

第227号土壌層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量

第228号土壌層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
- 7 灰黄褐色 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第229号土壌層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量

第230号土壌層解説

- 1 黒色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・焼骨片微量

第231号土壌層解説

- 1 暗褐色 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黄灰色 青灰色粘土ブロック多量
- 3 黒褐色 青灰色粘土ブロック少量

第233号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化物微量、鉄沈着少量

第234号土壌層解説

- 1 におい黄褐色 青灰色粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 におい黄褐色 青灰色粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 青灰色粘土ブロック中量、鉄沈着微量

第 237 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量、焼土粒子微量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量、炭化粒子微量

第 238 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック、青灰色粘土ブロック、炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 焼土ブロック、青灰色粘土ブロック少量
- 3 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量

第 243 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量、焼土粒子微量、鉄分沈着少量
- 3 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量

第 244 号土坑土層解説

- 1 にいい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 にいい黄褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着微量
- 3 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着微量

第 245 号土坑土層解説

- 1 褐 色 青灰色粘土ブロック、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐 色 青灰色粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 246 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック、焼土粒子・鉄分沈着少量、炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック、焼土粒子少量、炭化粒子・鉄分沈着微量

第 247 号土坑土層解説

- 1 にいい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック少量、焼土粒子微量

第 248 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック、炭化物中量、焼土ブロック少量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック、炭化粒子微量

第 251 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック多量

第 252 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 3 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック、鉄分沈着微量
- 4 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着少量

第 253 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック少量、焼土粒子微量

第 256 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック、炭化物少量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量

第 258 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック、焼土粒子・炭化粒子微量、鉄分沈着少量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量

第 261 号土坑土層解説

- 1 にいい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量
- 2 灰 黄 褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 にいい黄褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 にいい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子微量

第 262 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 炭化物少量、焼土ブロック、粘土ブロック微量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック、炭化物微量
- 3 灰 黄 褐色 粘土ブロック多量

第 263 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、炭化物微量
- 2 褐 灰 色 粘土ブロック多量、炭化粒子少量

第 265 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック多量
- 3 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック多量

第 267 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量、炭化物微量、鉄分沈着少量
- 2 にいい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、焼土粒子・鉄分沈着微量

第 268 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック、鉄分沈着中量

第 269 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着少量

第 270 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック少量、炭化物微量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着微量

第 271 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量、焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着中量

第 272 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック少量、炭化物微量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化物微量、鉄分沈着少量

第 273 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック少量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量

第 274 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック少量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量

第 276 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
- 3 褐 灰 色 粘土ブロック中量
- 4 褐 灰 色 粘土ブロック多量
- 5 灰 黄 褐色 粘土ブロック多量
- 6 にいい黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
- 7 黒 褐 色 粘土ブロック、鉄分沈着中量

第 277 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量、炭化物・鉄分沈着微量
- 3 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック少量、焼土ブロック微量

第 279 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック、鉄分沈着中量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量

第280号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化物少量、焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック・鉄分沈着中量
- 3 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 4 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック・鉄分沈着少量

第281号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック多量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量

第282号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 青灰色粘土ブロック多量

第283号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量

第286号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量

第287号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量
- 3 灰黄褐色 ローム粒子少量

第289号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物少量

第290号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック多量、鉄分沈着中量

第291号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、粘土ブロック少量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化物少量

第292号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量

第293号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 焼土粒子中量
- 2 暗褐色 焼土ブロック中量

第294号土壌層解説

- 1 褐灰色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック多量、炭化物少量

第295号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量

第296号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量

第297号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 青灰色粘土ブロック多量

第298・299号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック中量、炭化物・粘土ブロック少量
- 2 にふい黄褐色 粘土ブロック中量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化物少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック中量、炭化物少量

第301号土壌層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量

- 2 灰黄褐色 炭化物中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量

第302号土壌層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック多量
- 2 褐灰色 粘土ブロック多量、鉄分沈着中量

第303号土壌層解説

- 1 黒褐色 青灰色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量
- 3 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化粒子微量

第304号土壌層解説

- 1 褐灰色 青灰色粘土ブロック多量、炭化粒子微量

第305号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック多量、炭化粒子・鉄分沈着微量
- 2 にふい黄褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着少量
- 3 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着微量

第306号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量、鉄分沈着中量
- 2 褐灰色 粘土ブロック多量、鉄分沈着中量

第307号土壌層解説

- 1 黒褐色 青灰色粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
- 2 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック多量
- 3 暗褐色 青灰色粘土ブロック多量
- 4 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック少量

第308・309・310号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化物中量、焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量
- 3 黒褐色 焼土粒子多量
- 4 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物中量

第311号土壌層解説

- 1 黒褐色 青灰色粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 3 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化粒子少量

第314号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量

第315号土壌層解説

- 1 褐色 青灰色粘土ブロック中量
- 2 にふい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量
- 3 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量
- 4 にふい黄褐色 青灰色粘土ブロック多量
- 5 にふい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化物少量
- 6 にふい黄褐色 青灰色粘土ブロック少量、炭化物微量
- 7 黒褐色 青灰色粘土ブロック中量
- 8 にふい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量
- 9 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量

第316号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック少量、焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 褐灰色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着微量

第317号土壌層解説

- 1 褐灰色 青灰色粘土ブロック多量、鉄分沈着微量
- 2 褐灰色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着少量

第318号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 にふい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着少量

第 319 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・青灰色粘土ブロック微量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着微量

第 320 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着微量
- 2 黒 褐 色 焼土ブロック・青灰色粘土ブロック・鉄分沈着微量
- 3 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック少量、炭化物・鉄分沈着微量

第 321 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック少量、焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量

第 322 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック中量、鉄分沈着微量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量

第 323 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 粘土ブロック少量、焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック・鉄分沈着中量

第 324 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗 褐色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 3 褐 灰 色 粘土ブロック多量、鉄分沈着少量

第 325 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 2 褐 灰 色 粘土ブロック多量、鉄分沈着少量

第 326・327 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック多量、鉄分沈着少量
- 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量、鉄分沈着多量

第 328 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着微量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着少量

第 329 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック中量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量

第 330 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量、鉄分沈着少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量、鉄分沈着微量

第 331 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック・焼土粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量

第 332 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土ブロック・青灰色粘土ブロック・炭化物少量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量

第 333・334 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 焼土ブロック・青灰色粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック多量
- 3 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック・炭化粒子少量
- 4 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック・炭化物少量
- 5 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック多量

第 335 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック多量

第 336 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 青灰色粘土ブロック・炭化物・鉄分沈着少量、焼土ブロック微量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化粒子・鉄分沈着微量
- 3 褐 灰 色 青灰色粘土ブロック中量、炭化粒子・鉄分沈着微量

第 337 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量、炭化物少量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量

第 338 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック・炭化物少量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック多量

第 339 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック少量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量

第 340 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量、焼土粒子少量
- 2 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック多量

第 341 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 2 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量

第 342 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒子・鉄分沈着微量

第 343 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・鉄分沈着微量
- 2 灰 褐 色 粘土ブロック少量、焼土粒子・鉄分沈着微量

第 344 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子少量、炭化物・鉄分沈着微量
- 2 褐 灰 色 ロームブロック中量、鉄分沈着少量

第 345 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量、鉄分沈着微量
- 2 灰 黄 褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・鉄分沈着少量、炭化物微量

第 346 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着少量
- 2 褐 灰 色 粘土ブロック・鉄分沈着中量

第 347 号土坑土層解説

- 1 褐 灰 色 粘土ブロック中量、鉄分沈着微量
- 2 にぶい灰色 粘土ブロック少量、鉄分沈着中量

第 348 号土坑土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、鉄分沈着微量
- 2 褐 灰 色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 3 暗 褐色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量

第 349 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・鉄分沈着少量、炭化粒子微量

第 350 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 灰 色 粘土ブロック少量、炭化粒子・鉄分沈着微量

第 351 号土坑土層解説

- 1 灰 黄 褐色 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 青灰色粘土ブロック中量

第352号土壌層解説

- 暗 褐色 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量

第353号土壌層解説

- 灰黄褐色 青灰色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- にぶい黄褐色 青灰色粘土ブロック中量

第354号土壌層解説

- にぶい黄褐色 ロームブロック、青灰色粘土ブロック、鉄分沈着少量

第355号土壌層解説

- 灰黄褐色 ロームブロック、鉄分沈着少量

第356号土壌層解説

- 灰黄褐色 ロームブロック、鉄分沈着微量
- 灰黄褐色 ローム粒子微量、鉄分沈着少量

第357号土壌層

- 褐 灰色 粘土ブロック微量、鉄分沈着少量
- 灰黄褐色 粘土ブロック、鉄分沈着微量
- 黒 褐色 粘土ブロック微量、鉄分沈着少量

第358号土壌層解説

- 明黄褐色 青灰色粘土ブロック多量、ロームブロック、炭化粒子少量
- 黒 褐色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量

第359号土壌層解説

- 灰黄褐色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 灰黄褐色 粘土ブロック、鉄分沈着微量

第360号土壌層解説

- 褐 色 粘土ブロック、ローム粒子、鉄分沈着少量、炭化粒子微量
- 黒 褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子、鉄分沈着微量
- 褐 灰色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子、鉄分沈着微量

第361号土壌層解説

- 褐 灰色 青灰色粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 褐 灰色 青灰色粘土ブロック少量、鉄分沈着中量

第362号土壌層解説

- 褐 灰色 ロームブロック、炭化物少量、焼土粒子、鉄分沈着微量
- 褐 灰色 ロームブロック多量、鉄分沈着微量

第364号土壌層解説

- 黒 褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子、鉄分沈着微量
- 灰黄褐色 ロームブロック、粘土ブロック少量、焼土粒子、炭化粒子、鉄分沈着微量
- にぶい黄褐色 ロームブロック、鉄分沈着少量、粘土ブロック、焼土粒子微量

第365号土壌層解説

- にぶい黄褐色 粘土ブロック少量、炭化物微量
- 褐 灰色 粘土ブロック、鉄分沈着中量

第366号土壌層解説

- 黒 褐色 焼土ブロック、粘土ブロック、炭化物少量
- 黒 褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量

第367号土壌層解説

- 黒 褐色 ロームブロック、粘土ブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 暗 褐色 ロームブロック中量

- 褐 灰 色 粘土ブロック中量、鉄分沈着微量

第368号土壌層解説

- にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 灰黄褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子、炭化粒子微量

第369号土壌層解説

- 暗 褐色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子少量

第370号土壌層解説

- 暗 褐色 ローム粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子少量

第371号土壌層解説

- 褐 色 ロームブロック少量

第372号土壌層解説

- 黒 褐色 ローム粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子少量

第373号土壌層解説

- 暗 褐色 ローム粒子少量

第374号土壌層解説

- 暗 褐色 ローム粒子微量

第375号土壌層解説

- 暗 褐色 ローム粒子微量
- 褐 色 ロームブロック微量

第376号土壌層解説

- 暗 褐色 ローム粒子微量(表土)
- 褐 色 ロームブロック、鉄分沈着微量

第377号土壌層解説

- 灰黄褐色 粘土ブロック微量
- 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 灰黄褐色 粘土ブロック少量

第378・380・381号土壌層解説(共通)

- にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子、鉄分沈着少量、炭化粒子微量

第379号土壌層解説

- 暗 褐色 粘土ブロック少量
- 灰黄褐色 粘土ブロック中量

第383号土壌層解説

- 暗 褐色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 暗 褐色 粘土ブロック、鉄分沈着少量
- 灰黄褐色 粘土ブロック多量、鉄分沈着微量

第384号土壌層解説

- 黒 褐色 鉄分沈着少量
- 暗 褐色 粘土ブロック、鉄分沈着少量

第385号土壌層解説

- 暗 褐色 粘土ブロック微量、鉄分沈着少量
- 暗 褐色 粘土ブロック、鉄分沈着少量

第386号土壌層解説

- 黒 色 炭化物中量、焼土粒子微量
- 暗 褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック、焼土粒子微量

第387号土壌層解説

- 暗 褐色 焼土粒子、炭化粒子微量
- 暗 褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 暗 褐色 粘土ブロック中量、炭化物微量、鉄分沈着少量

第388号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着中量

第389号土坑土層解説

1 暗褐色 炭化粒子・鉄分沈着微量

第390号土坑土層解説

1 暗褐色 鉄分沈着微量

第391号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック微量, 鉄分沈着少量

2 暗褐色 粘土ブロック少量, 鉄分沈着中量

第392号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック微量, 鉄分沈着中量

2 暗褐色 粘土ブロック少量, 鉄分沈着多量

第393号土坑土層解説

1 灰褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量, 炭化粒子微量

第394号土坑土層解説

1 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量

第395号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量, 鉄分沈着多量

第396号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

2 暗褐色 粘土ブロック少量, 鉄分沈着中量

第397・398号土坑土層解説

1 褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子微量, 鉄分沈着少量

2 にい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着少量

第399号土坑土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック・鉄分沈着微量

第400号土坑土層解説

1 にい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着少量

2 にい黄褐色 粘土ブロック・鉄分沈着中量, 炭化粒子微量

第401号土坑土層解説

1 にい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着微量

第402号土坑土層解説

1 暗褐色 炭化粒子・鉄分沈着微量

第403号土坑土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第404号土坑土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・鉄分沈着微量

第405号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック少量, 鉄分沈着中量

2 黒褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第406・407号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着中量, 炭化粒子少量

2 暗褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 鉄分沈着微量

第408号土坑土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

第409号土坑土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量, 粘土ブロック微量

2 暗褐色 炭化粒子・鉄分沈着少量

3 黒褐色 炭化粒子・鉄分沈着微量

4 褐色 炭化粒子微量

第410号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 鉄分沈着微量

2 暗褐色 粘土ブロック中量, 炭化粒子・鉄分沈着微量

第412・413号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着微量

2 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着微量

第414号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第415号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック微量, 鉄分沈着少量

2 灰黄褐色 粘土ブロック・鉄分沈着中量

第418号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第419号土坑土層解説

1 にい黄褐色 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量

第427・428号土坑土層解説

1 にい黄褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量, 炭化粒子微量

2 にい黄褐色 粘土ブロック・鉄分沈着中量, 炭化粒子少量

3 暗褐色 粘土ブロック中量, 鉄分沈着少量, 炭化粒子微量

第431号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック微量, 鉄分沈着少量

2 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 鉄分沈着少量

3 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第438号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量, 鉄分沈着微量

2 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

第439号土坑土層解説

1 褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第442号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量, 鉄分沈着少量

2 暗褐色 粘土ブロック微量, 鉄分沈着中量

第445・484号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量

第452号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック微量

第453・454号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

2 暗褐色 炭化粒子多量, 粘土ブロック・焼土粒子少量

第456号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

第458号土坑土層解説

1 にい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着微量

第462号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着少量

2 にい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量, 鉄分沈着少量

3 にい黄褐色 粘土ブロック多量, 炭化粒子微量, 鉄分沈着少量

第463号土坑土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・鉄分沈着微量

2 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量, 炭化粒子微量

第467・468・469号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック微量、鉄分沈着中量
- 3 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着少量、焼土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 5 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第474号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第486号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第487号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック多量

第494号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック多量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック少量

第496号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・炭化物・鉄分沈着少量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック中量、炭化粒子・鉄分沈着少量
- 3 にふい黄褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子・鉄分沈着微量

第497号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量

第498・499号土坑土層解説

- 1 にふい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量
- 2 にふい黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 粘土ブロック多量
- 4 暗 褐 色 粘土ブロック多量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 5 暗 褐 色 粘土ブロック少量
- 6 黒 褐 色 粘土ブロック多量

第500号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック中量、炭化物少量

第501号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量

第503号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量

第507号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量
- 3 灰黄褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック微量

第508号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着少量

第509号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量、粘土ブロック・鉄分沈着微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック・炭化物少量、鉄分沈着微量
- 3 暗 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着微量

第511号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第512号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子少量、粘土ブロック・鉄分沈着微量

第513号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量、鉄分沈着中量
- 2 にふい黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、鉄分沈着微量

第515号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量
- 2 にふい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

第516号土坑土層解説

- 1 にふい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着少量

第520号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック微量、鉄分沈着少量

第524号土坑土層解説

- 1 にふい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

第528号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第531号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 2 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック微量、鉄分沈着中量
- 3 黒 褐 色 砂粒中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
- 4 暗 褐 色 粘土ブロック微量、鉄分沈着中量
- 5 灰黄褐色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量
- 6 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着微量
- 7 暗 褐 色 砂粒少量、粘土ブロック微量

第532号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック少量、鉄分沈着中量
- 3 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第533号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック少量

第534号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量、鉄分沈着少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・鉄分沈着微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量、鉄分沈着中量

第535号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着中量、焼土ブロック少量
- 2 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック・鉄分沈着少量
- 3 にふい黄褐色 粘土ブロック中量、鉄分沈着少量

第536号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量

第537号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 粘土ブロック・鉄分沈着少量

第538号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量

第539号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化粒子少量、鉄分沈着微量

第540号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 にふい黄褐色 粘土ブロック中量

第541号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量

第542号土坑土層解説

- 1 にふい黄褐色 ロームブロック微量、鉄分沈着少量

第543号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック少量

第 544 号土坑土層解説

- 1 褐色 粘土ブロック少量、鉄分沈着微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 に近い黄褐色 粘土ブロック中量

第 545 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子中量
- 2 褐色 炭化粒子多量、粘土ブロック・焼土粒子微量
- 3 に近い黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量
- 4 灰黄褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子・鉄分沈着少量
- 5 に近い黄褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック・鉄分沈着少量

第 546 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック・鉄分沈着少量

第 547 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
- 2 に近い黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量

第 548 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・鉄分沈着少量、焼土粒子微量

第 549 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、鉄分沈着少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、鉄分沈着少量

第 551 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、鉄分沈着微量

第 552 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 553 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 554 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量（1より明）

第 556 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・鉄分沈着微量

第 557・558 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・鉄分沈着微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 に近い黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 に近い黄褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物微量

第 559 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

第 560 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、鉄分沈着微量

第 561 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック・鉄分沈着中量

第 562 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ローム粒子少量

第 563 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ロームブロック・焼土粒子・鉄分沈着微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、鉄分沈着微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、鉄分沈着少量

第 565 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鉄分沈着少量

第 566 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第 567 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、鉄分沈着微量

第 568 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

第 569 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量、鉄分沈着少量

第 570 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 に近い黄褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量

第 571 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第 572・573 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 576 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 577 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、鉄分沈着微量

第 578 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第 579・580 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 に近い黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 583 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第 584 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第 585 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第 586 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量、鉄分沈着少量

第 587 号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 に近い黄褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 灰黄褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量、鉄分沈着少量

第 589 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第590・602号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量
- 4 にふい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量
- 6 にふい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 7 にふい黄褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子少量
- 8 にふい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量

第593号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第595号土壌土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・鉄分沈着少量

第596・597号土壌土層解説（共通）

- 1 褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック・炭化粒子少量、鉄分沈着中量
- 2 にふい黄色 ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子・鉄分沈着少量、焼土粒子微量

第598号土壌土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子・鉄分沈着微量
- 2 にふい黄褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量

第599号土壌土層解説

- 1 褐灰色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 にふい黄褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 褐灰色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量

第600号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 にふい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

第601号土壌土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第603号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第604号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第605号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第606号土壌土層解説

- 1 褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック少量、鉄分沈着微量

第607号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第610号土壌土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量

第611号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 にふい黄褐色 ロームブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

第612号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 2 褐灰色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 褐灰色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

第613号土壌土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 褐灰色 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 4 褐灰色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

第614号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第615号土壌土層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第616号土壌土層解説

- 1 褐色 炭化粒子微量、鉄分沈着少量
- 2 明褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
- 3 褐色 炭化粒子微量、粘土ブロック少量

第617号土壌土層解説

- 1 褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック・鉄分沈着少量

第618号土壌土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・鉄分沈着少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・鉄分沈着少量、炭化粒子微量

第619号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、鉄分沈着微量

第621号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 にふい黄褐色 ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 5 にふい赤褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量

第623号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第624号土壌土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量

第625号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にふい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量

第626号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 にふい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子多量、ローム粒子中量、粘土ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、粘土ブロック少量

第627号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量
- 2 黄褐色 ローム粒子中量

第628号土壌土層解説

- 1 にふい黄褐色 ローム粒子中量

第 629 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

第 630 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量

第 631 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 炭化物中量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・鉄分沈着少量
- 2 におい黄褐色 焼土粒子中量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鉄分沈着少量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子・鉄分沈着少量

第 632 号土坑土層解説

- 1 褐灰色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・鉄分沈着微量
- 2 灰白色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量、鉄分沈着少量

第 633 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、鉄分沈着微量
- 2 褐灰色 粘土ブロック中量、炭化物・鉄分沈着微量
- 3 褐灰色 粘土ブロック少量、焼土粒子・鉄分沈着微量

第 634 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 粘土ブロック微量、鉄分沈着少量

第 635 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・鉄分沈着少量
- 2 褐灰色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物・鉄分沈着微量
- 3 褐灰色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物・鉄分沈着微量

第 636・637 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

第 638 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量

第 640 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 におい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第 641～649 号土坑土層解説 (共通)

- 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量

第 650 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・鉄分沈着少量

第 651 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第 653 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量

第 655 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック微量

第 660 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第 661 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 663 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
- 3 におい黄褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 664 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 におい黄褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量

第 665 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 666 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 におい黄褐色 ローム粒子少量

第 671・672 号土坑土層解説

- 1 褐灰色 褐灰色粘土ブロック少量
- 2 褐灰色 褐灰色粘土ブロック微量

第 673 号土坑土層解説

- 1 褐灰色 粘土ブロック少量

第 674 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

第 675 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 ローム粒子中量、鉄分沈着少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第 676 号土坑土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第 677 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量
- 2 におい黄褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量

第 680 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 2 におい黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量

第 681 号土坑土層解説

- 1 褐灰色 粘土ブロック多量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量

第 682 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 におい黄褐色 粘土ブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量

第 683 号土坑土層解説

- 1 褐灰色 粘土ブロック多量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量

第 684 号土坑土層解説

- 1 褐灰色 粘土ブロック多量

第 685 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック多量

第 686 号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量
2 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量

第 687 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量
2 暗褐色 粘土ブロック少量
3 灰黄褐色 粘土ブロック多量
4 黒褐色 粘土ブロック少量

第 688 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量
3 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量

第 689 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量、鉄分沈着少量

表 19 時期不明の土坑一覧表

番号	位置	経度	方位	平面形	概 概		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
184	P 4d2	1	N-33°-E	楕円形	1.48×1.26	22	平坦	外傾	自然	土師器	
185	P 4d2	1	-	円形	1.42×1.28	42	平坦	外傾	自然	土師器	
186	R 3g8	1	N-82°-W	楕円形	1.94×1.20	72	平坦	直立	人為		
187	O 4d4	1	-	円形	0.73×0.67	28	平坦	直立	人為		
188	O 4d9	1	N-66°-E	楕円形	0.45×0.39	7	平坦	縦斜	自然		
190	O 4d4	1	N-61°-W	楕円形	0.81×0.45	12	平坦	縦斜	自然		
193	Q 3i9	1	N-44°-E	楕円形	5.76×4.43	44	平坦	外傾	人為	土師器	
194	R 3h1	1	N-50°-W	楕円形	0.64×0.48	12	平坦	外傾	人為		
196	R 3f2	1	N-51°-W	楕円形	0.55×0.48	36	平坦	直立	人為		
197	R 3e1	1	N-85°-E	楕円形	0.59×0.44	30	平坦	外傾 縦斜	自然		
198	Q 3i2	1	-	隅丸方形	0.54×0.54	15	圓状	外傾 縦斜	人為		
201	R 3c3	1	N-76°-W	隅丸長方形	1.30×0.95	37	平坦	直立	人為	土師器	
202	R 3d3	1	N-46°-W	[楕円形]	(1.48)×(0.20)	10	平坦	外傾	自然		本跡→SI13、SK688
203	R 3d3	1	-	不整形円形	1.08×1.02	10	平坦	外傾	自然		SI113→本跡
204	R 2e0	1	N-28°-E	楕円形	2.96×1.78	17	平坦	外傾	自然		SI112→本跡 →SK205
205	R 2e0	1	-	円形	0.98×0.91	21	平坦	外傾	自然	土師器	SI112、SK304→本跡
206	R 2e0	1	-	円形	1.03×0.95	45	平坦	直立	自然	土師器	SI112→本跡
207	R 3i2	1	N-64°-E	楕円形	0.96×0.79	22	圓状	外傾 縦斜	自然		SK208→本跡
208	R 3i2	1	N-60°-W	[楕円形]	1.42×1.28	23	圓状	縦斜	自然	土師器	本跡→SK207、209
209	R 3i2	1	N-56°-E	楕円形	0.64×0.58	34	平坦	外傾	自然	土師器	SK208→本跡
210	R 3d4	1	N-65°-E	不整形楕円形	2.04×0.97	36	平坦	外傾	自然	土師器	SK211→本跡
211	R 3d4	1	N-23°-E	[長方形]	2.29×1.64	50	平坦	直立	自然	土師器	SI114→本跡 →SK210、212
212	R 3d4	1	N-4°-E	[楕円形]	[1.26]×[1.07]	10	平坦	縦斜	自然	土師器	SK211→本跡
214	R 3a3	1	N-16°-W	[楕円形]	(1.60)×1.29	23	凹凸	外傾 縦斜	自然	土師器	本跡→SK215、216
215	R 3a3	1	-	円形	0.59×0.54	22	圓状	縦斜	自然	土師器	SK214→本跡
216	R 3a3	1	N-61°-W	隅丸方形	1.18×1.17	18	平坦	縦斜	自然	土師器	SK214、217→本跡
217	R 3a3	1	N-40°-W	楕円形	0.55×0.39	18	圓状	外傾 縦斜	不明		本跡→SK216
218	R 3j1	1	N-79°-W	[楕円形]	(0.81)×0.94	6	平坦	縦斜	人為	土師器、須恵器	
220	R 2a0	1	N-48°-W	[方形]	(2.44)×(2.42)	62	平坦	直立	人為		本跡→SK209、SE11
222	R 3e2	1	N-36°-W	楕円形	1.02×0.88	4	平坦	縦斜	不明		SI115→本跡
223	R 2d9	1	N-82°-W	楕円形	0.78×0.70	18	圓状	縦斜	人為		
225	R 3a1	1	-	円形	0.42×0.40	16	平坦	外傾	人為		
227	Q 3e2	1	N-32°-W	楕円形	0.72×(0.28)	16	平坦	外傾	自然		本跡→SI125
228	Q 3i4	1	N-3°-W	[楕円形]	(1.42)×1.25	50	平坦	外傾	人為	土師器	SI121→本跡
229	Q 3i4	1	N-45°-W	楕円形	1.72×1.02	32	圓状	縦斜	自然	土師器	SI121→本跡
230	Q 3e4	1	N-50°-W	楕円形	0.62×0.54	20	平坦	外傾	自然		
231	O 4a1	1	-	円形	0.61×0.56	42	圓状	外傾	人為	土師器	SI120→本跡

番号	位置	幅	長径方向	平面形	規 規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
233	O 3 b6	1	N - 84° - E	楕円形	1.53 × 1.14	16	平坦	外傾	自然	土師器	
234	N 3 f7	1	N - 84° - W	楕円形	1.04 × 0.60	12	平坦	外傾	自然		
237	N 3 e0	1	N - 59° - W	楕円形	0.94 × 0.66	14	平坦	外傾			
238	N 3 d9	1	N - 83° - E	楕円形	0.78 × 0.50	22	平坦	直立	人為	土師器	
243	P 3 g8	2	N - 59° - E	不整形楕円形	1.12 × 0.98	15	平坦	緩斜	自然	土師器	
244	P 3 e6	2	-	円形	1.08 × 1.02	54	平坦	直立	人為	土師器	
245	P 3 d7	2	N - 4° - W	楕円形	0.98 × 0.80	58	凹状	直立 緩斜	人為	土師器	
246	P 3 b7	2	N - 16° - E	楕円形	1.14 × 1.04	15	平坦	外傾 緩斜	自然		
247	O 3 e8	1	N - 31° - W	楕円形	0.93 × 0.75	15	平坦	緩斜	自然	土師器	SD34 → 本跡
248	O 3 e9	1	N - 85° - E	楕円形	0.82 × 0.58	23	平坦	外傾	自然	土師器	SD34 → 本跡
251	N 4 j2	1	-	円形	0.92 × 0.84	12	平坦	緩斜	自然		
252	P 3 d4	2	N - 28° - E	楕円形	1.95 × 0.69	16	平坦	外傾	人為	土師器	
253	P 3 b4	2	N - 10° - E	楕円形	0.56 × 0.43	16	平坦	外傾	自然	土師器	SK143 → 本跡
256	Q 3 g6	2	N - 81° - E	楕円形	0.54 × 0.45	30	凹状	外傾	自然		
258	Q 3 e1	2	-	円形	1.14 × 1.04	18	凹状	外傾	自然		
261	R 3 a3	2	-	円形	0.60 × 0.58	14	平坦	外傾	人為	土師器	
262	R 3 b3	2	N - 20° - W	楕円形	0.63 × 0.45	14	凹状	外傾	人為		SK150 → 本跡
263	R 3 b3	2	-	円形	0.74 × 0.70	14	平坦	緩斜	人為		
265	Q 3 j2	2	N - 49° - W	楕円形	0.74 × 0.52	48	凹状	外傾	人為		
267	R 2 c0	2	-	円形	1.08 × 1.05	22	平坦	外傾	人為		
268	R 3 c2	2	N - 62° - W	楕円形	0.92 × 0.82	16	平坦	外傾	自然		
269	R 2 c0	2	N - 69° - W	楕円形	1.12 × 0.84	14	凹状	緩斜	自然		
270	R 3 b1	2	N - 50° - W	楕円形	0.98 × 0.80	32	平坦	直立	人為	熱燗	SK307 → 本跡
271	R 2 d0	2	-	円形	0.88 × 0.86	44	凹状	外傾	人為		
272	R 3 h2	2	N - 3° - W	楕円形	0.93 × 0.83	15	平坦	直立	人為	土師器	
273	Q 3 b3	2	N - 51° - W	楕円形	0.24 × 0.19	18	凹状	直立	自然		SD36 → 本跡
274	Q 3 b4	2	N - 77° - W	楕円形	0.56 × 0.35	29	平坦	直立	自然		SD36 → 本跡
276	Q 3 e2	2	N - 12° - E	楕丸長方形	2.85 × 1.63	114	平坦	外傾	人為	土師器	
277	Q 3 e4	2	N - 20° - E	楕丸長方形	1.01 × 0.66	35	平坦	外傾	人為		
279	R 2 h9	2	-	円形	0.31 × 0.29	25	凹状	直立	自然		
280	R 3 d1	2	N - 72° - W	長方形	1.60 × 1.22	34	平坦	直立 外傾	人為	土師器、陶器	
281	R 3 c1	2	N - 13° - E	楕円形	0.44 × 0.40	18	凹状	外傾	自然		
282	R 2 f8	2	N - 68° - E	楕円形	0.48 × 0.34	26	平坦	外傾	人為		
283	R 3 i3	2	N - 64° - E	楕円形	0.46 × 0.40	6	平坦	緩斜	自然	土師器	
286	R 3 d3	2	-	円形	1.16 × 1.12	10	平坦	外傾	自然		
287	R 3 g3	2	-	円形	0.28 × 0.28	28	凹状	直立	自然		
289	R 3 h	2	-	円形	0.72 × 0.68	26	凹状	外傾	人為		
290	R 3 j3	2	N - 67° - W	楕丸長方形	2.98 × 1.30	40	平坦	直立	人為	土師器	
291	R 3 b4	2	-	円形	1.08 × 1.07	24	平坦	外傾	人為		
292	R 3 b4	2	-	円形	0.28 × 0.28	24	平坦	外傾	自然		
293	R 3 b4	2	N - 61° - W	楕円形	0.26 × 0.22	22	凹状	直立	人為		
294	R 3 b3	2	N - 42° - E	楕円形	0.42 × 0.32	22	平坦	外傾	自然		
295	R 3 b3	2	-	円形	0.24 × 0.24	24	平坦	直立	人為		
296	R 3 a4	2	N - 63° - W	楕円形	0.36 × 0.26	36	凹状	外傾	人為		
297	Q 3 i3	2	N - 75° - W	楕円形	0.82 × 0.69	20	平坦	外傾	人為	土師器、鉄滓	
298	R 3 b5	2	-	円形	1.18 × 1.12	32	平坦	直立	人為	土師器	SK299 → 本跡
299	R 3 b5	2	N - 65° - W	[楕円形]	(0.30) × (0.94)	18	平坦	外傾	人為		本跡 → SK288

番号	位置	幅	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
301	Q 346	2	-	円形	0.80 × 0.78	26	皿状	外様	人為		SI148 → 本跡
302	R 210	2	N - 71° - E	不整形円形	0.98 × 0.84	28	皿状	直立	人為	須恵器	
303	Q 341	2	N - 31° - W	楕円形	0.70 × 0.50	14	平皿	外様 直立			
304	Q 345	2	N - 49° - W	楕円形	0.34 × 0.28	10	皿状	外様			
305	Q 345	2	N - 33° - E	楕円形	0.42 × 0.38	25	皿状	外様	人為		
306	R 341	2	N - 18° - W	不定形	2.88 × 1.38	10	平皿	縦斜	自然	石器 (磁石)	
307	R 341	2	N - 40° - E	[長方形]	[1.40] × 0.98	34	平皿	直立	人為		本跡 → SK270
308	R 344	2	N - 20° - E	楕円形	0.52 × 0.42	6	平皿	縦斜	自然	土師器	SK309 → 本跡
309	R 344	2	N - 72° - W	[長方形]	0.81 × 0.75	10	平皿	縦斜	人為	土師器	SK310 → 本跡 → SK308
310	R 344	2	-	円形	0.56 × 0.52	6	皿状	縦斜	人為		本跡 → SK309
311	Q 345	2	-	円形	0.79 × 0.77	17	平皿	外様	人為	土師器	SK315 → 本跡
314	Q 344	2	-	円形	0.32 × 0.32	14	平皿	直立	自然	土師器	
315	Q 344	2	N - 28° - W	[楕円形]	(2.95) × 1.64	102	皿状	外様 縦斜	自然	土師器	本跡 → SK311
316	M 412	1	-	円形	0.61 × 0.58	12	平皿	外様	自然		
317	M 412	1	-	円形	0.53 × 0.50	12	皿状	縦斜	自然		
318	N 349	1	N - 81° - W	楕円形	0.80 × 0.66	20	平皿	直立 外様	人為	熊手壇	
319	N 441	1	N - 70° - W	楕円形	1.23 × 0.65	21	平皿	直立	自然		
320	N 441	1	-	円形	1.12 × 1.09	26	平皿	直立	人為	土師器	
321	N 441	1	N - 5° - W	楕円形	0.82 × 0.55	20	平皿	直立	人為		
322	M 412	1	-	円形	0.53 × 0.51	19	平皿	外様	自然		
323	M 443	1	N - 56° - E	楕円形	0.80 × 0.70	16	平皿	外様	自然		
324	M 349	1	N - 19° - E	楕円形	0.76 × 0.44	28	平皿	外様	自然		
325	M 441	1	N - 43° - W	楕円形	0.82 × 0.68	9	平皿	外様 縦斜	自然		
326	M 442	1	-	円形	0.62 × 0.61	14	平皿	縦斜	自然		
327	M 442	1	N - 88° - E	楕円形	0.61 × 0.44	10	平皿	縦斜	自然		
328	M 441	1	N - 20° - E	楕円形	0.78 × 0.66	10	皿状	外様	自然		
329	M 442	1	-	円形	1.10 × 1.04	10	平皿	外様	人為	土師器	
330	M 340	1	N - 72° - W	楕円形	0.96 × 0.39	25	皿状	外様	自然		
331	Q 343	2	-	円形	0.32 × 0.31	20	皿状	直立	人為		
332	Q 343	2	N - 43° - E	長方形	0.55 × 0.27	17 - 23	凹凸	直立	自然		
333	Q 345	2	N - 38° - W	楕円形	0.28 × 0.20	15	皿状	外様 縦斜	自然		
334	Q 345	2	-	円形	0.30 × 0.28	33	皿状	直立	人為		
335	Q 345	2	-	円形	0.27 × 0.26	17	皿状	外様	自然		
336	Q 344	2	N - 28° - E	不定形	1.48 × 1.36	15	平皿	縦斜	自然	土師器	
337	Q 345	2	N - 56° - W	楕円形	0.34 × 0.30	22	皿状	外様	自然		
338	Q 345	2	-	円形	0.32 × 0.32	28	皿状	外様	自然		
339	Q 346	2	N - 33° - E	楕円形	0.72 × 0.42	18	平皿	外様	自然		
340	Q 346	2	N - 59° - W	楕円形	0.36 × 0.30	14	皿状	外様	自然		
341	M 340	1	N - 41° - W	楕円形	0.89 × 0.62	93	凹凸	直立	人為	土師器、陶器、土製品	
342	N 443	1	-	円形	0.30 × 0.29	8	皿状	縦斜	自然		
343	M 441	1	N - 89° - E	楕円形	0.98 × 0.64	6	平皿	外様 縦斜	人為		
344	M 449	1	N - 21° - W	[楕円形]	0.86 × 0.78	9	平皿	外様	自然		
345	M 444	1	-	円形	0.48 × 0.48	13	皿状	縦斜	自然	土師器、焼成粘土塊	SI157 と同一不明
346	M 444	1	N - 63° - E	楕円形	0.61 × 0.49	16	平皿	外様	自然		SI157 と同一不明
347	M 445	1	-	不整形円形	0.60 × 0.57	35	平皿	直立	自然		
348	M 340	1	N - 65° - W	隅丸方形	0.85 × 0.78	52	平皿	直立	自然		
349	M 443	1	N - 4° - E	楕円形	0.87 × 0.75	25	平皿	外様	自然	土師器	SK361 → 本跡 SI157 と同一不明

番号	位置	幅	長短方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
330	M3a1	1	N-45°-W	楕円形	0.60×0.52	14	平坦	外傾	自然		
331	Q3a3	2	N-58°-W	楕円形	1.23×0.64	15	平坦	外傾	人為	土師器	
332	Q3a4	2	N-30°-E	楕円形	1.05×0.76	6	平坦	緩斜	自然		
333	P3a2	2	N-40°-E	楕円形	0.56×0.42	10	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器	
334	O3a6	2	-	円形	0.72×0.66	8	平坦	緩斜	自然	土師器	
335	O3a4	2	N-68°-W	楕円形	0.30×0.26	13	平坦	緩斜	自然	土師器	SD45 遺跡B→ 本跡
336	O3c7	2	N-57°-W	楕円形	0.83×0.61	35	平坦	外傾	人為		
337	N3e7	2	N-11°-E	楕円形	1.70×0.59	23	平坦	外傾	自然	土師器	
338	O3a1	2	N-64°-W	楕円形	0.65×0.45	22	平坦	直立	自然	土師器	SD45 遺跡C→ 本跡
339	N3e7	2	-	円形	0.64×0.60	34	平坦	外傾	自然		
340	N4a1	2	-	不整形四角	0.70×0.66	36	凹凸	外傾	人為		
341	M4c4	1	N-88°-W	楕円形	1.08×0.67	13	平坦	緩斜	人為	土師器、焼成粘土塊	
342	M4b1	1	N-73°-W	楕円形	0.77×0.65	10	平坦	外傾	自然		本跡→SK349 SD157土器出土不明
343	M3e9	1	N-12°-E	[楕円形]	(1.50×0.44)	44	皿状	外傾	人為		本跡→SD44
344	M4b1	1	N-35°-W	楕円形	0.87×0.57	18	平坦	緩斜	自然	土師器	
345	N4b1	1	N-27°-W	楕円形	0.86×0.57	17	平坦	外傾	自然		
346	N3a0	1	N-42°-E	楕円形	1.27×1.15	35	平坦	外傾	人為	石器(磁石)	
347	N4b1	2	N-82°-W	楕円形	0.39×0.33	7	皿状	緩斜	自然		
348	M4b1	2	N-16°-E	楕円形	1.10×0.74	32	凹凸	緩斜	人為		
349	M4b1	2	N-9°-E	楕円形	0.51×0.34	22	皿状	外傾 緩斜	人為		
350	M4b2	2	N-68°-E	不定形	0.31×0.27	17	皿状	緩斜	自然		
351	M4b2	2	N-40°-W	不整形円形	0.80×0.30	36	皿状	外傾	人為		
352	M4b2	2	-	円形	0.32×0.32	12	皿状	緩斜	自然	土師器	
353	M4c2	2	-	円形	0.36×0.36	12	皿状	外傾	自然		
354	L4b4	1	N-80°-W	楕円形	0.35×0.23	22	皿状	外傾	自然		
355	M4c1	2	N-27°-W	楕円形	0.84×0.23	30	皿状	外傾	自然		
356	M4a1	1	N-2°-E	不整形円形	0.76×0.53	18	皿状	緩斜	自然		
357	M4a1	1	N-14°-E	楕円形	0.55×0.29	8	平坦	緩斜	自然		
358	M4b3	1	N-84°-E	楕円形	0.82×0.53	15	平坦	緩斜	自然		
359	M3a0	1	N-24°-W	楕円形	0.57×0.50	12	皿状	緩斜	自然	土師器、須恵器	
360	M4b1	1	N-20°-E	楕円形	0.47×0.30	10	皿状	緩斜	自然	土師器	PG19P7→本跡
361	L4b5	1	N-15°-E	楕円形	0.54×0.48	14	凹凸	外傾	人為		SD50→本跡
362	M4a6	1	N-15°-E	隅丸長方形	0.56×0.30	27	皿状	直立 外傾	自然		
363	L4a6	1	N-11°-W	楕円形	0.81×0.69	25	凹凸	外傾	自然		
364	L4b3	1	N-39°-W	楕円形	0.73×0.62	8	平坦	緩斜	自然		
365	L4b3	1	-	円形	0.83×0.78	10	平坦	緩斜	人為		
366	L4a4	1	N-13°-W	楕円形	0.76×0.56	7	平坦	外傾	自然		
367	L4b3	1	-	円形	0.18×0.16	18	皿状	外傾	自然		
368	L4b3	1	-	円形	0.24×0.24	15	平坦	外傾	自然		
369	L4f7	1	N-30°-E	楕円形	1.12×0.98	15	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器	
370	L4a7	1	N-41°-E	隅丸方形	0.43×0.42	16	凹凸	緩斜	自然		
371	L4f7	1	-	円形	0.38×0.35	29	平坦	外傾	自然	土師器	
372	M3a0	1	-	円形	0.21×0.20	38	皿状	直立	自然		
373	L4b5	1	-	円形	0.23×0.23	12	皿状	外傾	自然		
374	L4c4	1	N-60°-E	楕円形	0.34×0.28	36	皿状	外傾	自然		
375	L4c4	1	N-33°-E	[楕円形]	0.51×0.42	33	皿状	緩斜	自然		本跡→SK388
376	L4c4	1	N-46°-W	楕円形	0.28×0.24	15	皿状	外傾 緩斜	自然		SK397→本跡

番号	位置	種別	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
399	L 4 c3	1	N-88'-W	楕円形	0.58×0.28	14	皿状	外傾 縦斜	自然	土師器	
400	L 4 e4	1	N-23'-E	不整楕円形	0.62×0.34	22	皿状	外傾 縦斜	自然		
401	L 4 e4	1	-	円形	0.40×0.38	16	皿状	縦斜	自然		
402	L 4 c3	1	N-14'-E	楕円形	0.19×0.16	35	皿状	直立	自然		
403	L 4 f2	1	N-49'-W	楕円形	0.41×0.24	17	平皿	外傾 縦斜	自然		
404	L 4 f1	1	N-5'-W	楕円形	0.48×0.38	16	平皿	外傾	自然		
405	L 4 g2	1	N-66'-W	楕円形	0.42×0.36	36	平皿	直立	自然		
406	L 4 e4	1	-	円形	0.53×0.50	11	平皿	外傾	自然		
407	L 4 e4	1	-	円形	0.44×0.42	45	平皿	直立	自然		
408	L 4 f2	1	-	円形	0.22×0.22	24	皿状	外傾	自然		
409	L 4 h1	1	N-32'-W	楕円形	0.75×0.66	48	傾斜	直立	自然		
410	L 4 e4	1	-	円形	0.36×0.33	42	皿状	直立	自然	SD61→本跡	
411	L 4 e6	1	N-24'-E	楕円形	0.34×0.28	50	皿状	外傾 直立	不明	SD61と新旧不明	
412	L 4 a4	1	-	円形	0.21×0.20	8	皿状	縦斜	自然		
413	L 4 a4	1	-	円形	0.18×0.18	17	平皿	外傾	自然		
414	L 4 a5	1	N-35'-W	楕円形	0.36×0.32	16	皿状	外傾	自然		
415	L 4 a7	1	-	円形	0.60×0.55	12	平皿	縦斜	自然	土師器	
418	K 4 j5	1	N-37'-W	楕円形	0.60×0.44	12	平皿	外傾	自然		
419	L 4 a3	1	N-5'-W	楕円形	0.40×0.26	10	平皿	縦斜	自然		
427	K 4 j1	1	N-40'-W	楕円形	0.50×0.38	22	平皿	外傾		SK428→本跡	
428	K 4 j5	1	-	円形	0.64×0.62	10	皿状	縦斜		本跡→SK427	
431	K 4 j5	1	N-37'-E	楕円形	0.70×0.60	12	平皿	外傾			
438	K 4 j4	1	N-88'-E	楕円形	0.88×0.29	28	皿状	直立 縦斜			
439	K 4 j4	1	N-76'-W	隅丸長方形	0.79×0.56	6	平皿	縦斜			
442	K 4 j4	1	N-50'-W	不定形	0.61×0.43	17	平皿	外傾		SA10P1→本跡 →PG20P19	
445	L 4 a4	1	N-5'-W	隅丸長方形	1.59×0.90	8	平皿	縦斜		SK484→本跡 →PG20P20	
452	L 4 b4	1	N-35'-W	方形	0.49×0.46	47	平皿	直立	自然	第10号大塚施設 →本跡	
453	L 4 i1	1	N-57'-W	楕円形	0.26×0.22	7	皿状	外傾	自然	本跡→SK454	
454	L 4 i1	1	N-14'-W	楕円形	0.30×0.18	5	皿状	外傾	自然	SK453→本跡	
456	L 4 i1	1	N-86'-W	楕円形	0.16×0.12	4	平皿	外傾	自然		
458	L 4 f3	1	N-15'-E	楕円形	0.38×0.30	44	皿状	直立	自然	SI159→本跡	
462	K 4 j5	1	-	円形	0.36×0.36	30	皿状	外傾	自然		
463	K 4 f3	1	N-48'-W	楕円形	0.70×0.58	27	平皿	直立	自然		
467	L 4 b4	1	N-35'-W	楕円形	0.34×0.25	24	皿状	外傾	自然	SK468→本跡	
468	L 4 b4	1	N-51'-E	[楕円形]	[0.36×0.30]	18	皿状	外傾 縦斜	自然	SK469→本跡 →SK467	
469	L 4 b4	1	N-34'-W	[楕円形]	[0.54×[0.45]]	36	皿状	外傾	自然	本跡→SK468	
474	K 4 b4	1	N-84'-E	楕円形	0.30×0.26	14	皿状	外傾	自然		
484	L 4 a4	1	N-4'-E	隅丸方形	0.31×0.25	13	皿状	外傾	自然	本跡→SK445	
486	L 4 a2	1	N-36'-W	楕円形	0.36×0.28	30	皿状	外傾 直立	自然		
487	L 4 i1	1	N-62'-W	楕円形	0.68×0.47	19	平皿	縦斜	自然		
493	K 4 f8	1	N-63'-E	楕円形	0.22×0.18	12	平皿	縦斜	自然	SD20→本跡	
494	K 4 f8	1	N-17'-W	楕円形	0.47×0.41	46	平皿	外傾 直立	自然	SD20→本跡	
496	K 4 f8	1	N-85'-W	楕円形	1.08×0.86	50	平皿	直立	自然	土師器	SD20→本跡
497	K 4 f8	1	N-39'-W	楕円形	0.35×0.28	65	平皿	直立	自然	SD20→本跡	
498	L 4 j1	1	N-82'-E	楕円形	0.40×0.33	19	皿状	外傾	自然	本跡→SK499	
499	L 4 j1	1	N-80'-W	楕円形	0.76×0.37	17	皿状	縦斜	自然	SK498,508→本跡	
500	L 4 i1	1	N-87'-E	不定形	2.75×1.31	30	平皿	縦斜	人為	土師器	

番号	位置	構設面	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
501	L 4 e2	1	N - 17° - E	楕円形	0.38 × 0.28	54	皿状	直立	自然		SD65 → 本跡
503	K 4 d8	1	N - 4° - E	隅丸方形	1.11 × 1.06	10	平坦	緩斜	自然		本跡 → SD20
507	L 4 e2	1	N - 62° - W	楕円形	0.45 × 0.38	40	皿状	外傾	自然		SD65 → 本跡
508	L 4 i1	1	N - 11° - W	楕円形	0.48 × 0.43	12	皿状	緩斜	自然		本跡 → SK499
509	L 4 e2	1	N - 57° - W	楕円形	0.45 × 0.34	22	平坦	直立	自然		
511	L 4 b3	1	-	円形	0.27 × 0.26	38	皿状	直立	自然		SD63 → 本跡
512	L 4 d3	1	-	円形	0.35 × 0.32	36	皿状	緩斜	自然		
513	K 4 d6	1	N - 80° - E	楕円形	0.96 × 0.82	15	平坦	緩斜	人為		
514	L 4 a2	1	N - 44° - E	楕円形	0.32 × 0.24	30	平坦	直立	不明	土師器	
515	L 4 a4	1	N - 18° - E	楕円形	0.42 × 0.35	24	平坦	直立	自然		
516	K 4 d3	1	-	円形	0.22 × 0.21	17	皿状	外傾	自然		
520	K 4 e5	1	N - 27° - W	[楕円形]	(1.10) × 0.90	18	皿状	緩斜	自然		SD66 → 本跡 → SD20
524	K 4 e6	1	N - 9° - W	楕円形	0.36 × 0.22	28	皿状	直立	自然		SD20 → 本跡
528	K 4 e5	1	N - 26° - E	楕円形	0.35 × 0.29	39	平坦	直立	自然		
531	J 4 e7	1	-	円形	1.09 × 1.03	83	凹凸	直立	人為		
532	K 4 d7	1	N - 77° - E	楕円形	2.75 × 2.13	67	皿状	外傾	人為	土師器	SD20 → 本跡
533	L 4 j2	1	N - 41° - W	楕円形	0.60 × 0.41	11	平坦	外傾	自然		
534	E 5 j5	1	-	円形	0.43 × 0.41	32	皿状	外傾	人為		
535	J 4 d9	1	N - 58° - E	楕円形	0.70 × 0.58	20	平坦	外傾	自然		SD65 → 本跡
536	J 4 f0	1	-	円形	0.67 × 0.67	21	平坦	外傾	自然		SD65 → 本跡
537	K 4 d8	1	N - 6° - E	隅丸長方形	2.10 × 0.62	22 - 30	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器	SD67 - 168, SD68 → 本跡
538	K 4 d8	1	N - 88° - W	隅丸方形	0.30 × 0.28	42	平坦	直立	自然		SD67 → 本跡
539	J 4 e0	1	N - 5° - E	[楕円形]	0.81 × (0.29)	48	皿状	外傾	自然		SD11 → 本跡
540	K 4 d8	1	N - 38° - W	楕円形	0.63 × 0.54	16	皿状	緩斜	自然		SD67 - 168 → 本跡
541	L 4 f2	1	-	隅丸方形	0.40 × 0.40	10	平坦	緩斜	自然		
542	L 4 e2	1	N - 65° - W	不整楕円形	0.56 × 0.32	9	皿状	緩斜	自然		
543	L 4 e2	1	N - 40° - E	楕円形	0.34 × 0.21	10	皿状	外傾	自然		
544	J 4 c7	1	N - 33° - E	[楕円形]	(1.46) × (0.94)	45	皿状	緩斜	自然		SD62 → 本跡 → SD11
545	K 4 c8	1	-	円形	0.52 × 0.50	30	皿状	外傾	自然	土師器	SD67 - 168 → 本跡
546	L 4 b3	1	N - 2° - E	方形	1.21 × 1.19	39	平坦	外傾	自然	土師器	SD63, SK547 → 本跡
547	L 4 b3	1	N - 12° - E	長方形	1.51 × 0.85	32	平坦	外傾	自然		SD63 - 171, 第 12 号火葬施設 → 本跡 → SK546
548	J 5 b1	1	-	円形	0.38 × 0.35	8	平坦	外傾	自然	土師器	
549	E 5 j5	1	N - 85° - E	楕円形	0.50 × 0.42	5	皿状	緩斜	自然		
551	F 5 j5	1	N - 77° - W	隅丸長方形	0.84 × 0.40	12	平坦	外傾	自然		
552	E 5 e5	1	N - 78° - W	楕円形	0.53 × 0.48	27	平坦	外傾	人為	緑釉陶器	SD176 → 本跡
553	D 5 g7	1	N - 22° - E	楕円形	0.44 × 0.40	10	皿状	緩斜	自然	土師器	
554	D 5 e7	1	N - 25° - W	楕円形	0.44 × 0.36	16	皿状	外傾	自然		
556	D 5 i7	1	-	円形	0.50 × 0.46	20	平坦	外傾	自然		
557	D 5 j6	1	-	円形	0.56 × 0.56	20	平坦	直立	自然	土師器	
558	D 5 j6	1	-	円形	0.50 × 0.50	25	平坦	外傾 直立	自然	土師器、焼成粘土塊	
559	E 5 a6	1	N - 65° - E	楕円形	0.43 × 0.36	52	傾斜	直立	自然		
560	E 5 a7	1	N - 44° - E	楕円形	0.52 × 0.38	44	V字状	外傾 直立	自然		
561	D 5 i6	1	N - 2° - W	楕円形	0.54 × 0.46	24	平坦	直立	人為	土師器、縄文土器	
562	D 5 d6	1	N - 87° - E	楕円形	0.88 × 0.62	10	平坦	緩斜	自然		
563	D 5 e7	1	N - 86° - W	楕円形	1.10 × 0.86	20	平坦	直立	人為	土師器、縄文土器	
565	C 5 j9	1	N - 66° - W	楕円形	0.94 × 0.44	16	皿状	緩斜	自然		
566	D 5 新	1	N - 20° - E	楕円形	0.51 × 0.46	3	皿状	緩斜	自然	土師器	

番号	位置	幅	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
567	D 5a7	1	-	円形	0.40 × 0.37	11	皿状	外傾	自然		
568	C 5e6	1	-	[円形・楕円形]	0.85 × (0.66)	45	平皿	直立	人為	土師器	
569	C 5d9	1	-	不整円形	0.93 × 0.85	24	平皿	外傾	自然		
570	C 5h8	1	-	円形	0.56 × 0.52	36	皿状	外傾	人為		
571	D 5a7	1	-	円形	0.85 × 0.82	21	平皿	外傾	人為	土師器	
572	D 5e6	1	N-5°-E	楕円形	0.84 × 0.73	40	平皿	外傾	人為	土師器、土製品	SI178 → 本跡
573	D 5e6	1	-	円形	1.08 × 1.01	47	平皿	外傾	人為	土師器、縄文土器	SI178 → 本跡
576	E 5f5	1	-	円形	0.51 × 0.51	20	皿状	縦斜	自然		
577	C 5g7	1	-	円形	1.08 × 1.01	18	平皿	縦斜	自然		
578	C 5e7	1	N-26°-E	楕円形	0.33 × 0.23	48	皿状	直立	人為		
579	C 5b7	1	-	円形	0.15 × 0.15	14	皿状	外傾	自然		
580	C 5b7	1	-	円形	0.26 × 0.26	16	皿状	外傾	自然		
583	C 5b7	1	-	円形	0.17 × 0.16	16	皿状	直立	自然		
584	C 5a7	1	N-52°-E	楕円形	0.34 × 0.24	8	平皿	外傾	自然		
585	C 5a7	1	-	円形	0.30 × 0.30	20	平皿	直立	自然		
586	C 5g7	1	N-19°-E	楕円形	0.28 × 0.32	17	平皿	直立	自然		
587	D 5e0	1	N-63°-W	不整楕円形	1.13 × 0.96	20	平皿	外傾	自然		
589	D 5b9	1	-	円形	0.78 × 0.74	53	皿状	外傾	人為	土師器	SI190・193 → 本跡
590	C 5f8	1	N-84°-W	不整楕円形	1.37 × 0.98	50	傾斜	外傾	人為	土師器	SI185、SI6002 → 本跡
593	B 5f8	1	-	円形	0.30 × 0.28	38	平皿	直立	自然		
595	B 5h8	1	N-19°-W	楕円形	0.26 × 0.20	6	皿状	縦斜	自然		
596	D 5b0	1	N-3°-E	楕円形	0.68 × 0.58	15	凹凸	直立	自然	縄文土器	SI190、SI997 → 本跡
597	D 5b0	1	N-82°-W	楕円形	0.88 × (0.52)	16	皿状	外傾	自然	土師器、縄文土器、被熱燻	SI190 → 本跡 → SK296
598	C 5e7	1	N-80°-W	楕円形	1.20 × 0.89	15	平皿	外傾	自然		SI191 → 本跡
599	C 5e7	1	N-45°-E	楕円形	0.76 × 0.66	35	平皿	外傾	人為	土師器、須恵器	SI191 → 本跡
600	D 5b9	1	-	円形	1.80 × 1.78	22	平皿	縦斜	自然	土師器、須恵器	SI190 → 本跡
601	D 5e9	1	N-70°-W	楕円形	0.72 × 0.60	22	凹凸	外傾	自然	土師器	
602	C 5f8	1	N-30°-E	[楕円形]	0.60 × 0.54	39	傾斜	直立	自然	土師器	SI185 → 本跡 → SK290
603	B 5f8	1	N-43°-W	楕円形	0.22 × 0.20	30	皿状	外傾	自然		
604	B 5d7	1	N-80°-E	楕円形	0.32 × 0.28	14	皿状	外傾	自然		
605	B 5d7	1	N-25°-E	楕円形	0.76 × 0.58	8	平皿	外傾	自然		
606	E 5f5	1	N-30°-E	楕円形	0.51 × 0.45	23	傾斜	縦斜	自然	土師器	
607	C 5f6	1	N-5°-E	楕円形	1.10 × 0.82	16	平皿	外傾	人為	土師器	SI184 と新田不明
610	C 5b7	1	N-21°-W	楕円形	0.64 × 0.36	23	平皿	直立	自然	土師器	SI182・183 → 本跡
611	C 5e8	1	N-2°-E	不整楕円形	1.00 × 0.75	36	平皿	外傾	人為	土師器、被熱燻	SI185 → 本跡
612	L 3f0	2	-	円形	0.80 × 0.79	29	平皿	外傾	自然		
613	L 3f0	1	N-71°-E	楕円形	0.72 × 0.60	32	皿状	外傾	自然		SI162 → 本跡
614	L 4e2	2	N-24°-E	楕円形	0.19 × 0.17	17	皿状	外傾	自然		
615	L 4e1	2	-	円形	0.23 × 0.21	21	皿状	直立	自然		
616	J 4b9	2	N-72°-W	楕円形	0.60 × 0.49	35	皿状	直立	自然		
617	J 4a0	2	-	円形	0.43 × 0.41	15	皿状	外傾	自然		SI192 → 本跡
618	J 4a0	2	N-55°-W	楕円形	0.59 × 0.42	16	皿状	外傾	自然		
619	J 4a0	2	N-35°-E	不整楕円形	0.80 × 0.70	16	凹凸	外傾	自然		
621	D 5b6	1	N-82°-W	楕円形	1.11 × 0.78	18	皿状	縦斜	人為		SI180 → 本跡
623	F 5f5	1	-	円形	0.31 × 0.30	5	平皿	縦斜	自然		
624	G 5a4	1	-	[円形]	0.91 × (0.78)	6	平皿	縦斜	自然		
625	D 5f6	1	N-81°-W	楕円形	1.86 × 0.80	19	平皿	縦斜	自然	土師器	

番号	位置	横断面	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
626	C 5 e7	1	-	円形	0.92 × 0.90	44	平坦	直立	自然	土師器、金属製品(鉄釘)	SI185-186 → 本跡
627	D 5 e6	1	N - 18° - E	楕円形	0.84 × 0.60	25	屈状	外傾	自然		
628	C 5 a8	1	N - 15° - W	楕円形	0.30 × 0.20	15	平坦	外傾 直立	自然	土師器	
629	C 5 d9	1	N - 35° - E	隅丸長方形	0.52 × 0.45	22	平坦	外傾	自然	土師器	
630	L 4 b2	1	N - 84° - W	長方形	1.28 × 0.96	45	平坦	直立	自然	土師器	SI161 → 本跡
631	J 4 a0	2	N - 55° - W	楕円形	1.30 × 0.83	32	平坦	外傾 緩斜	人為		SI192 → 本跡
632	J 4 b9	2	N - 18° - E	楕円形	0.44 × 0.35	51	傾斜	直立	自然		
633	J 4 b9	2	N - 79° - W	楕円形	0.26 × 0.20	42	屈状	直立	自然		
634	J 4 b9	2	-	不整形円形	0.36 × 0.34	11	平坦	外傾	自然		
635	L 4 a3	2	N - 75° - W	楕円形	0.43 × 0.33	38	屈状	外傾	自然		
636	L 3 10	1	N - 13° - W	楕円形	(0.95) × 0.88	36	屈状	緩斜	自然	土師器	本跡 → SK502・637
637	L 3 10	1	N - 85° - E	楕円形	1.02 × 0.66	20	屈状	外傾	自然		SK636 → 本跡
638	K 4 c7	2	-	円形	0.23 × 0.22	19	屈状	外傾	自然		
639	J 5 a1	2	-	[円形]	0.23 × 0.12	28	屈状	直立 外傾	不明	土師器	SI192 → 本跡 → SK657
640	D 5 b6	2	N - 50° - W	楕円形	0.42 × 0.26	38	屈状	直立	自然	土師器、灰釉陶器、土製品	
641	K 4 e8	2	N - 54° - W	楕円形	0.27 × 0.20	20	平坦	直立	自然		
642	K 4 e8	2	-	円形	0.28 × 0.26	42	平坦	直立	自然		
643	K 4 e8	2	N - 10° - E	隅丸長方形	0.27 × 0.22	45	平坦	直立	自然		
644	K 4 e8	2	-	円形	0.21 × 0.21	13	屈状	外傾	自然		
645	K 4 e7	2	N - 7° - E	楕円形	0.36 × 0.24	42	平坦	直立	自然		
646	K 4 e7	2	-	円形	0.14 × 0.13	10	屈状	直立	自然		
647	K 4 e7	2	N - 32° - E	楕円形	0.35 × 0.20	39	屈状	直立	自然		
648	K 4 e7	2	-	不整形円形	0.22 × 0.21	12	屈状	外傾	自然		
649	K 4 e6	2	-	円形	0.26 × 0.25	28	平坦	直立	自然		
650	D 5 a6	1	N - 56° - E	楕円形	0.69 × 0.60	12	平坦	外傾 緩斜	自然		SI180 → 本跡
651	D 5 b9	1	N - 50° - E	楕円形	0.44 × 0.32	19	屈状	外傾 緩斜	自然		SI190 → 本跡
653	L 4 b1	1	N - 90° - E	楕円形	[0.31] × 0.20	22	平坦	外傾	自然		SI161 → 本跡
655	L 4 b1	1	N - 60° - E	[楕円形]	[0.32] × [0.27]	30	屈状	外傾	自然		SI161 → 本跡
656	L 4 b1	1	N - 14° - E	[楕円形]	[0.29] × [0.25]	22	屈状	外傾	自然		SI161 → 本跡
657	J 5 a1	2	N - 90° - E	楕円形	0.36 × 0.23	14	屈状	外傾	自然		SI192 SK639 → 本跡
658	J 5 a1	2	N - 86° - W	楕円形	0.54 × 0.34	17	平坦	外傾	自然	土師器	SI192 → 本跡
660	D 5 i7	1	-	円形	0.26 × 0.24	12	平坦	外傾	自然		
661	D 5 i6	1	-	円形	0.24 × 0.22	13	屈状	直立	自然	縄文土器	
663	C 5 e8	1	-	円形	1.00 × 0.95	44	傾斜	外傾	自然	土師器、焼成粘土	
664	C 5 f7	1	N - 83° - W	隅丸長方形	0.53 × 0.44	28	平坦	直立	自然		SK665 → 本跡
665	C 5 e7	1	N - 28° - E	[楕円形]	1.02 × 0.92	25	平坦	直立	自然	土師器、焼成粘土	本跡 → SK664
666	E 5 e5	1	N - 12° - E	楕円形	0.72 × 0.64	20	平坦	外傾 緩斜	人為		SI176 → 本跡
671	K 4 f6	2	N - 7° - E	楕円形	0.59 × 0.48	8	平坦	緩斜	自然		本跡 → SK672
672	K 4 f5	2	N - 41° - W	楕円形	0.60 × 0.52	5	平坦	緩斜	自然		SK671 → 本跡
673	K 4 f5	2	N - 48° - E	楕円形	0.74 × 0.66	8	屈状	緩斜	自然		
674	J 4 j7	2	N - 32° - W	楕円形	0.70 × 0.60	42	平坦	外傾	人為		
675	C 5 i9	1	N - 14° - W	隅丸長方形	1.29 × 0.76	56	平坦	直立	人為	縄文土器	
676	R 3 f9	1	N - 14° - E	不整形円形	2.83 × 2.45	15	平坦	緩斜	自然		
677	R 3 e0	1	N - 63° - W	不整形円形	3.30 × 2.39	48	平坦	緩斜	人為	土師器	
680	Q 3 j8	1	N - 15° - E	楕円形	1.32 × 0.64	22	平坦	直立	自然	土師器	
681	P 4 c4	1	N - 20° - E	楕円形	1.38 × 1.04	32	平坦	外傾	自然		
682	R 3 h7	1	N - 60° - W	楕円形	0.98 × 0.86	70	平坦	直立	自然	土師器、須恵器	SK79 → 本跡

番号	位置	確認面	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
					長径×短径 (m)	深さ (cm)					
683	P 4 b5	1	N-39°-W	楕円形	1.20×0.88	28	平相	外傾	自然		
684	P 4 c3	1	N-43°-E	楕円形	2.02×0.90	12	平相	破斜	自然		
685	R 2 e0	1	N-38°-E	楕円形	1.20×1.07	43	平相	直立	自然		SI112→本跡
686	Q 3 e1	1	N-46°-W	楕円形	0.85×0.66	15	皿状	破斜	人為		SI125→本跡
687	R 3 d2	1	N-42°-W	楕円形	0.95×0.86	42	平相	直立	自然	土師器、石器(砥石)	
688	R 3 d3	1	-	円形	1.12×1.08	(50)	不明	直立	自然		SI113、SK202→本跡
689	L 4 d2	1	-	[円形・楕円形]	0.28×(0.16)	29	皿状	外傾	自然		SE23→本跡

(6) ビット群

今回の調査で、時期や性格が不明なビット群 11 か所を確認した。以下、実測図は平面図のみと、ビット計測表を掲載する。

第8号ビット群 (第357図)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

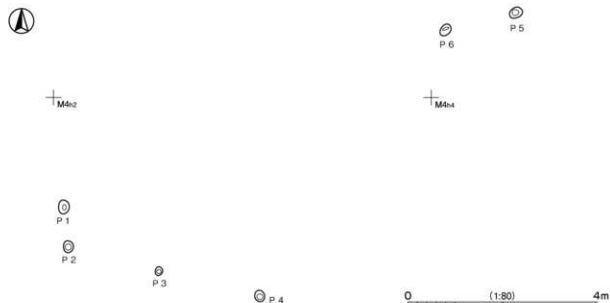
位置 調査Ⅲ区中央部のM 4 g2～M 4 i4区、標高18mの平坦部に東西98m、南北6.2mの範囲からビット6か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径19～28cm、短径17～24cmの円形または楕円形で、深さは13～24cmである。

所見 ビットの分布がまばらである状況から、建物跡は想定できない。P 5・P 6は第13号柱穴列が隣接しており、関連のあるビットの可能性はある。時期や性格は不明である。

表20 第8号ビット群ビット計測表

ビット番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	M 4 b2	楕円形	28	24	14
2	M 4 b2	円形	24	24	13
3	M 4 b2	楕円形	19	17	15
4	M 4 i3	円形	24	22	24
5	M 4 g4	楕円形	28	21	23
6	M 4 g4	楕円形	26	20	22



第357図 第8号ビット群実測図

第9号ビット群 (第358図)

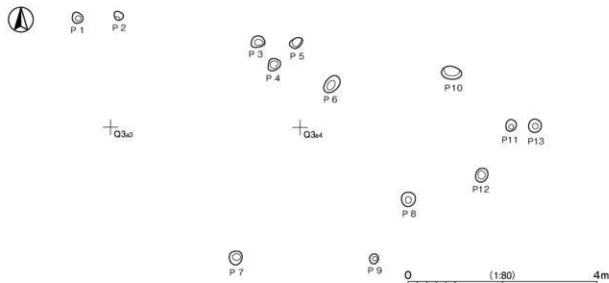
調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のP3j2～Q3a5区、標高18mの平坦部に東西10.0m、南北5.4mの範囲からビット13か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径20～43cm、短径19～30cmの円形または楕円形で、深さは5～31cmである。

所見 ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。時期や性格は不明である。



第358図 第9号ビット群実測図

表21 第9号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	P3j2	円形	23	23	12	6	P3j4	楕円形	40	27	12	11	P3j5	楕円形	25	22	5
2	P3j3	円形	20	19	11	7	Q3a3	円形	29	28	5	12	Q3a4	円形	28	26	11
3	P3j3	楕円形	30	23	16	8	Q3a4	円形	30	30	15	13	P3j5	円形	28	27	7
4	P3j3	楕円形	27	24	8	9	Q3a4	円形	21	20	16						
5	P3j3	楕円形	27	21	-	10	P3j4	楕円形	43	28	31						

第11号ビット群 (第359図)

調査年度 平成26年度

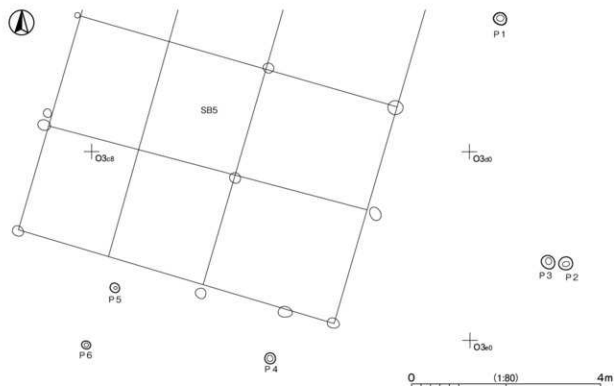
確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のO3c7～O3e0区、標高18mの平坦部に東西10.5m、南北7.3mの範囲からビット6か所を確認した。

重複関係 第45号溝跡を掘り込んでいる。

規模と構造 平面形は径17～31cmの円形で、深さは4～36cmである。

所見 ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。付近に中世と考えられる第5号掘立柱建物跡があり、関連のあるものと考えられる。



第359図 第11号ビット群実測図

表22 第11号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	O 3c6	円形	27	25	15	3	O 3d0	円形	30	28	36	5	O 3d8	円形	21	20	7
2	O 3d0	円形	31	30	33	4	O 3e8	円形	24	23	4	6	O 3d7	円形	19	17	4

第12号ビット群 (第360図)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

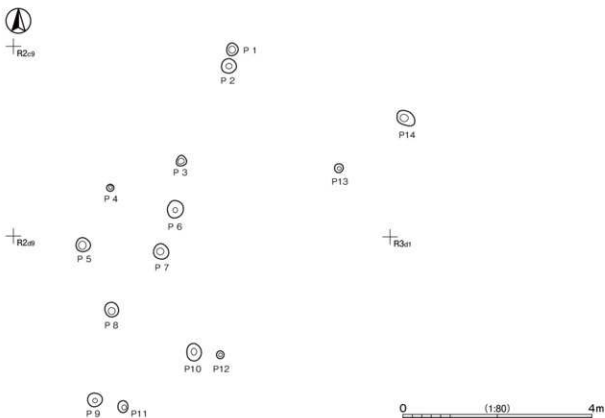
位置 調査Ⅲ区南部のR 2c9～R 3d1区、標高18mの平坦部に東西72m、南北78mの範囲からビット14か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径16～37cm、短径15～32cmの円形または楕円形で、深さは5～37cmである。

所見 ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。P1～P3・P6～P9は北東方向に一列に並ぶ可能性も考えられるが、柱間隔が不規則であることや柱筋がずれることから、ビット群とした。時期や性格は不明である。

表23 第12号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	R 2e0	円形	35	25	22	6	R 2c9	楕円形	37	32	35	11	R 2d9	楕円形	25	20	13
2	R 2e0	円形	31	30	24	7	R 2d9	円形	34	32	33	12	R 2d0	円形	17	16	10
3	R 2c9	楕円形	23	20	19	8	R 2d9	円形	31	29	37	13	R 2e0	円形	18	17	5
4	R 2c9	円形	16	15	15	9	R 2d9	楕円形	31	27	24	14	R 3c1	楕円形	39	28	13
5	R 2d9	円形	30	28	27	10	R 2d9	楕円形	36	32	18						



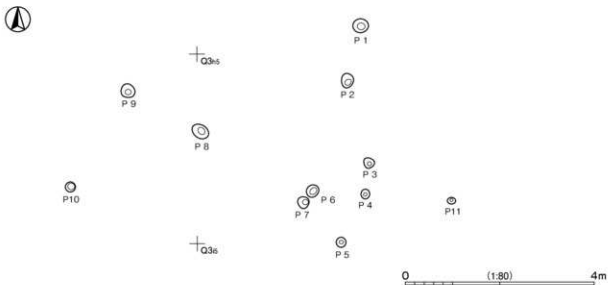
第 360 図 第 12 号ピット群実測図

第 13 号ピット群 (第 361 図)

調査年度 平成 26 年度

確認面 第 2 次面

位置 調査Ⅲ区南部の Q 3g4 ~ Q 3j6 区、標高 18m の平坦部に東西 8.2m、南北 4.8m の範囲からピット 11 か所を確認した。



第 361 図 第 13 号ピット群実測図

規模と構造 平面形は長径18～35cm、短径17～29cmの円形または楕円形で、深さは15～22cmである。

所見 ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。時期や性格は不明である。

表24 第13号ビット群ビット計測表

ビット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ビット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Q 3g5	楕円形	32	28	21	5	Q 3h5	円形	23	23	20	9	Q 3h4	円形	30	28	19
2	Q 3h5	円形	30	28	18	6	Q 3h5	円形	28	26	20	10	Q 3h4	円形	22	21	15
3	Q 3h5	円形	25	22	15	7	Q 3h5	円形	27	27	20	11	Q 3h6	円形	18	17	18
4	Q 3h5	円形	24	21	22	8	Q 3h5	楕円形	35	29	21						

第14号ビット群 (第362図)



調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のM 4j1～N 4b2区、標高18mの平坦部に東西27m、南北6.4mの範囲からビット4か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径24～27cm、短径20～25cmの円形または楕円形で、深さは18～32cmである。

所見 ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。時期や性格は不明である。

表25 第14号ビット群ビット計測表

ビット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	N 4b2	円形	25	24	30
2	N 4a1	楕円形	27	20	31
3	N 4j2	円形	27	25	18
4	N 4j1	楕円形	24	21	32



第362図 第14号ビット群実測図

第15号ビット群 (第363図)

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

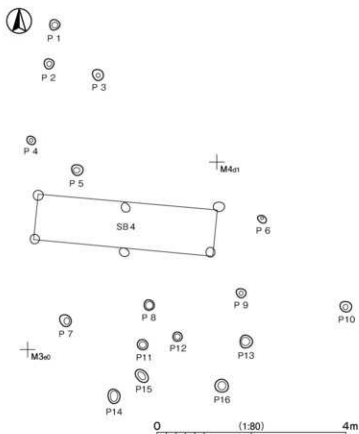
位置 調査Ⅲ区南部のM 3c0～M 4e1区、標高18mの平坦部に東西6.8m、南北8.1mの範囲からビット16か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径19～38cm、短径13～36cmの円形または楕円形で、深さは10～57cmである。

所見 中央部に第4号掘立柱建物跡が確認されており、その周辺に密集するように分布している。柱の規模なども類似していることから、関係するビット群と考えられる。時期や性格は不明である。

表26 第15号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	M 3c0	円形	22	22	22
2	M 3c0	円形	22	21	29
3	M 3c0	楕円形	25	21	20
4	M 3c0	楕円形	19	17	36
5	M 3d0	円形	25	24	16
6	M 4d1	楕円形	20	13	29
7	M 3d0	楕円形	26	24	57
8	M 3d0	円形	24	23	13
9	M 4d1	円形	20	19	27
10	M 4d1	楕円形	23	20	28
11	M 3d0	円形	21	21	11
12	M 3d0	円形	20	20	15
13	M 4d1	円形	28	27	10
14	M 3e0	楕円形	32	27	10
15	M 3e0	楕円形	30	25	11
16	M 4e1	楕円形	38	36	22



第363図 第15号ピット群実測図

第16号ピット群 (第364図)

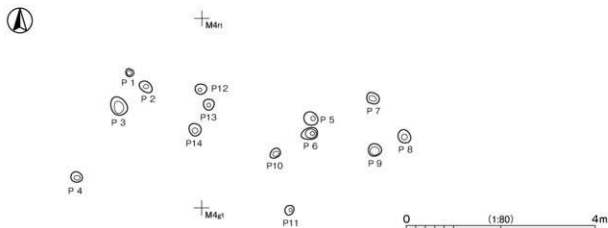
調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のM 3f0～M 4g2区、標高18mの平坦部に東西7.2m、南北3.2mの範囲からピット14か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径18～40cm、短径16～34cmの円形または楕円形で、深さは13～70cmである。

所見 ピットの分布状況から、柱穴列の可能性はあるが、建物跡は想定できない。時期や性格は不明である。



第364図 第16号ピット群実測図

表27 第16号ビット群ビット計測表

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	M 3f0	楕円形	18	16	13	6	M 4f1	楕円形	34	23	70	11	M 4g1	楕円形	21	19	31
2	M 3f0	楕円形	30	22	56	7	M 4f1	楕円形	27	22	17	12	M 3f0	楕円形	26	21	37
3	M 3f0	楕円形	40	34	52	8	M 4f2	楕円形	28	25	23	13	M 4f1	円形	24	23	33
4	M 3f0	円形	24	22	61	9	M 4f1	円形	27	25	15	14	M 3f0	円形	27	25	63
5	M 4f1	楕円形	32	27	65	10	M 4f1	楕円形	23	19	21						

第17号ビット群 (第365図)

調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

位置 調査Ⅲ区南部のN 3d0～O 4c1区、標高18mの平坦部に東西6m、南北36mの範囲からビット12か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径18～23cm、短径18～22cmの円形または楕円形で、規模は比較的揃っている。深さは7～25cmである。

所見 P5～P7の付近に第2号掘立柱建物跡が確認されており、関係するビットの可能性はある。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。時期や性格は不明である。

表28 第17号ビット群ビット計測表

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	N 4h1	楕円形	20	18	12	5	O 4b1	円形	23	21	10	9	N 4h2	円形	21	21	13
2	N 4h1	円形	18	18	19	6	O 3c0	円形	20	20	10	10	N 4e1	円形	20	20	10
3	N 4h1	円形	19	18	13	7	O 3c0	楕円形	21	19	10	11	N 4d2	楕円形	21	18	8
4	N 4g2	円形	20	20	25	8	N 4h2	円形	20	19	7	12	N 4f2	円形	22	22	8

第18号ビット群 (第366図)

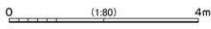
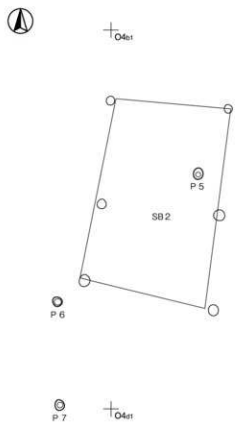
調査年度 平成26年度

確認面 第2次面

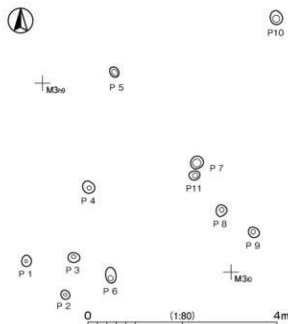
位置 調査Ⅲ区南部のM 3g8～M 3i0区、標高18mの平坦部に東西5.6m、南北6.1mの範囲からビット11か所を確認した。

規模と構造 平面形は長径20～32cm、短径18～27cmの円形または楕円形で、深さは8～28cmである。

所見 ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。時期や性格は不明である。

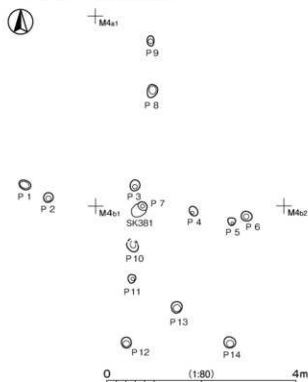


第 365 図 第 17 号ピット群実測図



第366図 第18号ビット群実測図

第19号ビット群 (第367図)



第367図 第19号ビット群実測図

表29 第18号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	M 3 b8	円形	23	22	10
2	M 3 b9	円形	20	19	8
3	M 3 b9	楕円形	27	21	28
4	M 3 b9	円形	25	24	19
5	M 3 g9	楕円形	24	18	13
6	M 3 b9	楕円形	32	23	22
7	M 3 b9	円形	28	27	11
8	M 3 b9	円形	26	25	21
9	M 3 b0	楕円形	25	21	16
10	M 3 g0	円形	27	26	22
11	M 3 b9	円形	21	20	8

調査年度 平成26年度

確認面 第1次面

位置 調査Ⅲ区南部のM 3 a0～M 4 b1区、標高18 mの平坦部に東西5.0 m、南北6.6 mの範囲からビット14か所を確認した。

重複関係 P 7が第381号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 平面形は長径16～27 cm、短径15～23 cmの円形または楕円形で、規模は比較的揃っている。深さは13～58 cmである。

所見 ビットの分布状況から、柱穴列の可能性はあるが、建物跡は想定できない。時期や性格は不明である。

表30 第19号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	M 3 a0	楕円形	25	21	35
2	M 3 a0	円形	20	20	36
3	M 4 a1	円形	21	20	30
4	M 4 b1	楕円形	20	16	58

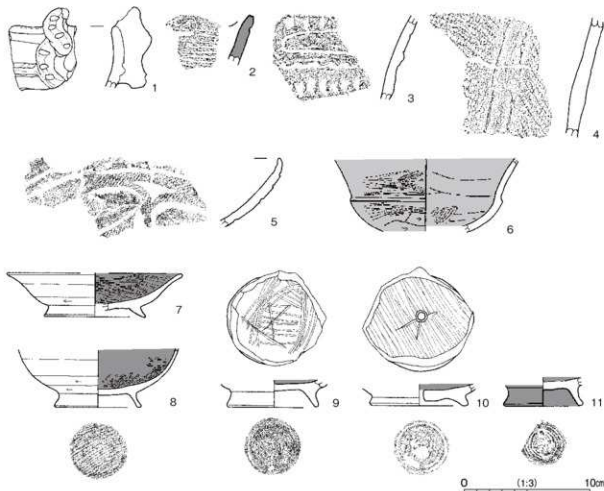
ビット番号	位置	形状	規模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規模 (cm)			ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
5	M 4 b1	円形	16	15	27	9	M 4 a1	楕円形	20	15	13	13	M 4 b1	円形	25	23	22
6	M 4 b1	楕円形	24	20	43	10	M 4 b1	[楕円形]	(25)	(15)	21	14	M 4 b1	円形	24	23	16
7	M 4 b1	楕円形	25	20	38	11	M 4 b1	円形	17	17	24						
8	M 4 a1	楕円形	27	19	28	12	M 4 b1	円形	22	21	23						

表 31 時期不明のピット群一覧表

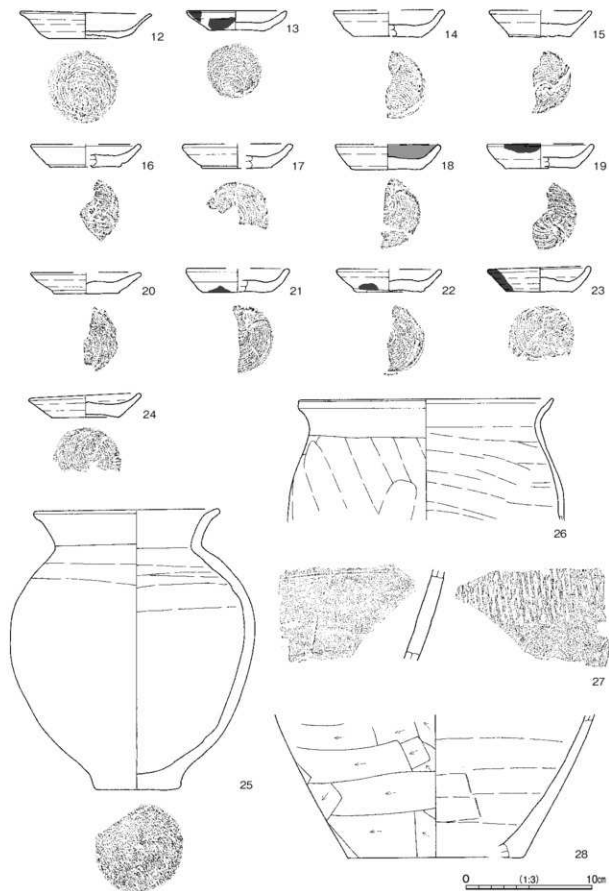
番号	位置	層位	範囲	柱 穴				主な出土遺物	備 考
				柱穴数	平面形	長径 (cm)	短径 (cm)		
8	M 4g2 ~ M 414	1	東西 9.8 m, 南北 6.2 m	6	円形・楕円形	19 ~ 28	17 ~ 24	13 ~ 24	SA13 と関連あり
9	P 3g2 ~ Q 3a5	2	東西 10.0 m, 南北 5.4 m	13	円形・楕円形	20 ~ 43	19 ~ 30	5 ~ 31	
11	O 3c7 ~ O 3e0	1	東西 10.5 m, 南北 7.3 m	6	円形	19 ~ 31	17 ~ 30	4 ~ 36	SD5 → 本跡 SB5 と関連あり
12	R 2c9 ~ R 3d1	2	東西 7.2 m, 南北 7.8 m	14	円形・楕円形	16 ~ 37	15 ~ 32	5 ~ 37	
13	Q 3g4 ~ Q 3i6	2	東西 8.2 m, 南北 6.4 m	11	円形・楕円形	18 ~ 35	17 ~ 29	15 ~ 22	
14	M 4j1 ~ N 4b2	1	東西 2.7 m, 南北 6.4 m	4	円形・楕円形	24 ~ 27	20 ~ 25	18 ~ 32	
15	M 3e0 ~ M 4e1	1	東西 6.8 m, 南北 8.1 m	16	円形・楕円形	19 ~ 38	13 ~ 36	10 ~ 57	SB 4 と関連あり
16	M 3d9 ~ M 4g2	1	東西 7.2 m, 南北 3.2 m	14	円形・楕円形	18 ~ 40	16 ~ 34	13 ~ 70	
17	N 3d0 ~ O 4c1	2	東西 6.0 m, 南北 36.0 m	12	円形・楕円形	18 ~ 23	18 ~ 22	8 ~ 25	SB 2 と関連あり
18	M 3g8 ~ M 3i0	2	東西 5.6 m, 南北 6.1 m	11	円形・楕円形	20 ~ 32	18 ~ 27	8 ~ 28	
19	M 3a0 ~ M 4b1	1	東西 5.0 m, 南北 6.6 m	14	円形・楕円形	16 ~ 27	15 ~ 23	13 ~ 58	本跡 → SK381

5 遺構外出土遺物

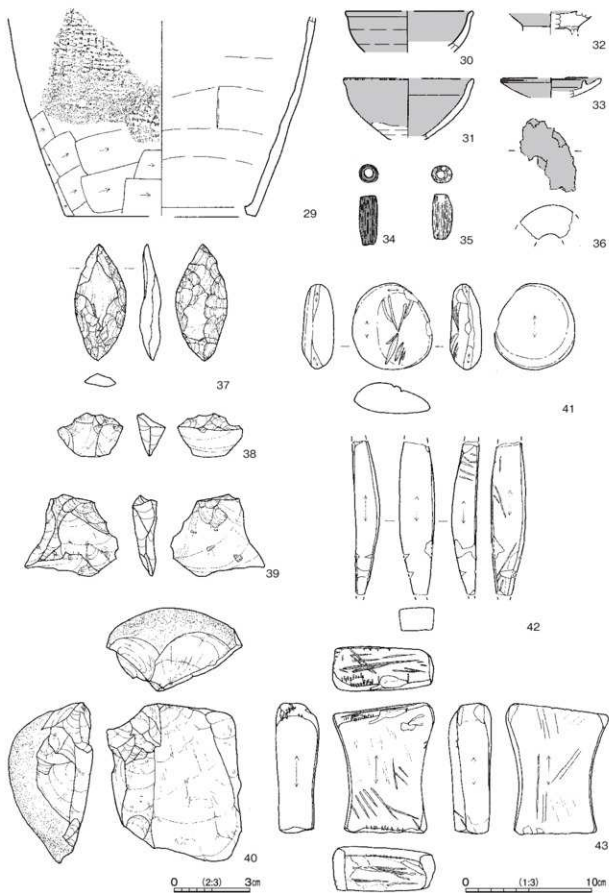
今回の調査で遺構に伴わない遺物については、実測図（第 368 ~ 371 図）及び観察表を掲載する。



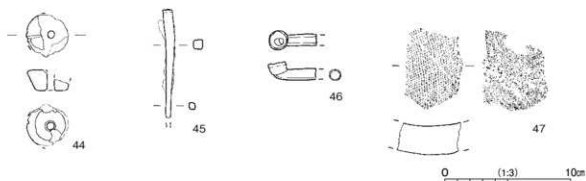
第 368 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 369 图 遺構外出土遺物実測図 (2)



第370图 遺構外出土遺物実測図(3)



第371図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表(第368~371図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤肌	普通	口縁部隆帯脇に一糸の角押文 内面ナデ	表探	5% PL1 b
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい黄肌	普通	胴部外面磨り赤文 R 内面ナデ	表探	5% PL1 b
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい肌	普通	外面ヒダ状圧痕文 隆帯脇に一糸の角押文 内面ナデ	表探	5% PL1 b
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	外面隆帯貼付け後LR縄文 内面磨き	表探	5% 加賀川正立
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	にぶい黄肌	普通	外面沈視 無筋 L 縄文 無文部磨き 内面磨き	SD45	5% 直溝式
6	土師器	坏	-	(39)	-	長石・石英	明赤肌	普通	体部外・内面磨き ナデ 外・内面赤肌	表探	20%
7	土師器	高台付杯	[140]	3.4	[80]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面口クロナデ 下端回転ヘラ磨り 内面ヘラ磨き 黒色処理	表探	70%
8	土師器	高台付碗	-	(49)	(6.7)	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	体部外面口クロナデ 下端回転ヘラ磨り 内面ヘラ磨き 黒色処理 底部ヘラ磨き	表探	70%
9	土師器	高台付杯	-	(22)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	底部内面ヘラ磨き 黒色処理	SK210	10% 複製「女」
10	土師器	高台付杯	-	(1.7)	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰肌	普通	底部内面ヘラ磨き 黒色処理 底部穿孔	SK589	10% PL47 40%複製用 複製「x」
11	土師器	高台付杯	-	(22)	(6.2)	長石・石英	暗褐色	普通	外・内面口クロナデ 黒色処理 底部回転糸切り	表探	5% 外・内面付着物
12	土師器	小皿	10.3	20	5.5	長石・石英・雲母・繊維	明赤肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	100% PL43 12世紀代
13	土師器	小皿	8.0	1.6	4.3	長石・石英	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	100% PL43 外面磨付着 40%複製用 複製「x」
14	土師器	小皿	[88]	2.1	(5.6)	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	50% 12世紀代
15	土師器	小皿	[80]	2.2	[48]	長石・石英・赤色粒子	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	50% 12世紀代
16	土師器	小皿	[88]	1.8	(5.5)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	50% 12世紀代
17	土師器	小皿	[88]	1.9	(5.6)	長石・石英	灰肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	50% 12世紀代
18	土師器	小皿	[80]	2.0	(5.4)	長石・石英・赤色粒子	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ 内面黒色処理 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	40% 12世紀代
19	土師器	小皿	[85]	1.9	(5.6)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	40% 12世紀代
20	土師器	小皿	[88]	1.7	(5.2)	長石・石英・雲母	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	40% 12世紀代
21	土師器	小皿	[80]	1.9	(5.4)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ ナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	40% 12世紀代
22	土師器	小皿	[82]	1.8	(5.2)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	40% 12世紀代
23	土師器	小皿	8.2	2.0	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	80% PL43 外面磨付着 12世紀代
24	土師器	小皿	8.4	1.9	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り	表探 (SD6付近)	60% PL43 12世紀代
25	土師器	甕	14.7	22.2	6.4	長石・石英・繊維	橙	普通	体部外・内面横位のナデ	2次面	80% PL45
26	土師器	甕	20.2	(9.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄肌	普通	体部外面ヘラナデ 内面一部ヘラ磨き状のナデ	表探	30%
27	須恵器	甕	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰肌	普通	体部外面平行印文 内面ヘラナデ	表探	5% 新治産
28	須恵器	甕	-	(11.4)	[140]	長石・石英	灰黄肌	普通	体部外面横位のヘラ磨り 内面ヘラナデ	表探	30% 新治産
29	須恵器	瓶	-	(16.3)	[152]	長石・石英	にぶい黄肌	普通	体部外面上部積子目印。下位ヘラ磨り 内面ヘラナデ	表探	30% 新治産

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪楽	産地	出土位置	備考
30	縁輪陶器	小碗	[100]	(3.2)	-	緻密・灰オリーブ	ロクロナデ 外・内面施釉	刷毛塗り	狭段窯	SK552	5%
31	陶器	碗	[102]	[4.8]	-	緻密・オリーブ焼	ロクロナデ	漬け掛け	瀬戸・美濃	表採	30%
32	陶器	碗	-	(1.6)	-	緻密にふい表焼	ロクロナデ 外面ハケ目	漬け掛け	唐津	表採	10%
33	陶器	灯明皿	[7.8]	(1.6)	-	緻密・明赤焼	外・内面施釉	漬け掛け	不明	表採	30%
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
34	管状土師	3.9	1.4 ~ 1.5	0.6	(8.61)	長石・石英	黒焼	外面全面磨き、黒色処理	SK640	95%	
35	管状土師	3.5	1.4 ~ 1.6	0.5	7.81	長石・石英	にふい焼	外面全面磨き、擦頭痕	SK572	100%	
36	羽口	(5.4)	(4.1)	[1.4]	(41.31)	長石・石英	にふい焼	外面ナデ調整、擦頭痕	表採	5%	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
37	矢頭部	4.6	2.0	0.9	6.12	頁岩	木葉形 種状割離割片 両面押入割離	表採	PL50		
38	割片	1.5	2.5	1.1	2.34	黒曜石	上部からの割離による横長割片 上部：前後端の割離	表採	PL50 高屋山産。		
39	割片	3.2	3.7	1.1	6.34	黒曜石	前面に多方向からの細かい割離痕 裏面上部割離時の微細割離痕	表採	PL50 高屋山産。		
40	石核	6.2	5.3	3.3	109.69	黒色ガラス質 安山岩	上部を打点として縦長割片を割離 裏面に元断面を残す	表採	PL50		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
41	砥石	6.8	6.3	2.5	141.5	安山岩	砥面全面及び埋線部 表面に擦切痕	SD40			
42	砥石	(12.2)	2.8	2.1	(91.34)	凝灰岩	砥面全面 上・下端部欠損 側面・裏面擦切痕	表採	PL51		
43	砥石	10.4	8.2	3.6	450.3	凝灰岩	砥面全面 側面以外に擦切痕	SK306	PL51		
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
44	紡錘車	(3.3)	1.7	0.6	(18.01)	粘板岩	表面に沈線	SD40			
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
45	釘	(8.6)	0.8	1.0	(20.13)	鉄	断面方形 先端部欠損	SK626			
46	樽管	(3.8)	1.5	1.4	(5.60)	銅	羅字樽管 火皿・壺首部のみ残存	表採 (SK552付託)	PL52		
番号	種別	器種	瓦当高	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	瓦	平瓦	(4.9)	2.8	(6.7)	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	凸面削り 凹面有目肌、糸切痕	表採	

第4章 総 括

1 はじめに

大堀東遺跡は、下妻市南東部に位置し、小貝川右岸の微高地に立地している。周辺には、鬼怒川・小貝川両河川によって沖積低地が形成されている。鬼怒川・小貝川は氾濫や洪水を繰り返し、流路はさまざまに変遷をし、その痕跡は現在の地形図や航空写真でも確認できるものもある。

今回の調査では、縄文時代中期前葉の陥し穴1基、土坑2基、平安時代の竪穴建物跡116棟（9世紀前～中葉1棟、9世紀中葉1棟、9世紀後葉27棟、10世紀前葉46棟、10世紀中葉36棟、10世紀後葉2棟、10世紀後葉～11世紀初頭3棟）、井戸跡21基（9世紀後葉1基、9世紀後葉以降1基、9世紀後葉～10世紀前葉1基、10世紀前葉以前1基、10世紀前葉3基、9世紀後葉～10世紀中葉12基、10世紀中葉以降2基）、火葬墓1基（10世紀前葉）、墓坑1基（10世紀前葉以前）、溝跡2条（10世紀前葉以降）、土坑23基（9世紀後葉以前1基、9世紀後葉1基、9世紀後葉～10世紀前葉1基、9世紀後葉～10世紀中葉1基、10世紀前葉7基、10世紀中葉10基、10世紀中葉～後葉2基）、中世の掘立柱建物跡1棟、火葬施設12基、地下式坑2基（15世紀前半）、井戸跡5基、溝跡7条、土坑2基、ピット群1か所のほか、時期不明の掘立柱建物跡4棟、井戸跡5基、柱穴列9条、溝跡27条、土坑373基、ピット群11か所を確認した。

当遺跡は、平成16・17年に発掘調査が行われ、その成果は平成18年度に、『茨城県教育財団文化財調査報告』第269集¹⁾として報告されている。今回の調査区は、前回の調査ⅡA区の北側（調査Ⅲ区北部）及び、調査ⅡB区の西部・南部（調査Ⅲ区中央部・南部）にあたり、小貝川の現流路に沿って南北に約760mと長い調査区となっている。ここでは、各時代の様相に触れ、主となる平安時代については特徴的な遺物・遺構についても触れていきたい。また、前回の報告においては、遺物や遺構について触れられてはいるものの、集落変遷については述べられていなかったため、前回の調査報告分と合わせて集落変遷について触れ、若干の考察を加えてまとめたい。また、今回報告する平成26・28年度においては、1次面と2次面に分けて調査が行われているが、これはあくまで調査時の確認面ということである。旧地形の形状が一部影響して1次面・2次面が局所的に確認できる箇所があることは考えられるが、当時の生活面としての調査ではないことが遺構の検出状況や1次面と2次面における遺構の時期の前後関係によって捉えることができた。したがって、総括における全体図としては、1次面・2次面の遺構をまとめて掲載する。

2 旧石器時代

前回の報告の中で、表採遺物であるチャートの尖頭器未製品と頁岩の剥片が確認されているほか、今回の調査区からも、頁岩の尖頭器と黒色ガラス質安山岩の石核が表採遺物で確認されている。平成28年度の調査時には、尖頭器が表採された調査Ⅲ区北部のC5B～C5B0区にかけて約30cmの深さで調査を行ったが、製品・剥片・チップは確認できなかった。市内でも、桜井遺跡等で尖頭器が確認されているなど旧石器時代の遺物は各所で確認されており²⁾、周辺にも石器集中地点などが存在する可能性はあるが、川沿いの遺跡の表採遺物であるため、河流によって運ばれてきた遺物の可能性もあり、当遺跡に帰属するものかは明確ではない。

3 縄文時代

今回の調査では、縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅳ期にかけて）の陥し穴1基、土坑2基を確認した。前回報告された調査Ⅰ区から遺物は出土していないが、陥し穴2基、土坑1基と調査ⅡA区から縄文時代中期

葉の周溝状遺構1基と土坑39基が確認されている。調査ⅡA区と調査Ⅲ区北部の地山は、途中から灰白色の粘土から黄褐色のロームになっており、周辺地形に比べ高く自然堤防状になっていたものと考えられる。当遺跡からはロームの微高地において縄文時代の遺構が確認されているが、当時の景観復元は難しく明確ではないため、集落跡が周辺にどのように広がっていたのかは不明である。前回の調査と合わせて、陥し穴・土坑が確認されていることから、狩猟場として土地利用がなされていたものと考えられる。調査Ⅲ区の2次面下にも黄褐色のローム層が堆積しており、縄文時代の遺構が確認できる可能性があったため、北部・中央部の各箇所にてトレンチを設定して確認調査を行ったが、前期から中期の土器片が少量確認できたものの、遺構は確認できなかった。

4 平安時代

(1) 出土遺物

ア) 出土土器の編年

今回報告する平安時代の竪穴建物跡116棟からは、9世紀後葉から10世紀代の特徴を示す土器群が出土している。9世紀後葉から10世紀代の土師器の土器編年については、明確なものがあまりないため、竪穴内から出土した土器を中心として遺構の重複関係や、土器の器種構成及び形態的特徴や手法から、9世紀後葉から10世紀後葉以降にかけての編年案を作成し、これに基づいて遺構の時期分類を行った。編年案の作成には赤井博之氏³⁾、稲田義弘氏⁴⁾、小島敏氏⁵⁾、前回報告の成果などを参考に行った。また、前回報告の中でも簡易的な土器の特徴が述べられ時期分類が行われているが、10世紀代が前半の時期分類に留まっているため、今回の分類に合わせて時期の再検討を行った。また、坏・碗・皿・小皿の器種分類においては、以下の分類に基づいて器種分けを行った。特に、坏・碗については明確に差がないものが多く、細かな分類は意味をなさないため、簡易的な基準に留めた。

坏…体部が直線的で、深さが5cm以下のもの

碗…体部に丸みを持ち（口縁部から体部にかけての角度が30°以下）、口縁部が外反するもので、深さが5cm以上のもの

皿…口径13cm以上で器高3cm以下のもの

小皿…口径13cm以下で器高3cm以下のもの

第Ⅰ期（9世紀後葉）

器種構成は、土師器の坏、碗、高台付坏・碗、皿、甕、瓶、須恵器の坏、甕、瓶である。土師器の構成の割合としては、坏・碗類が比較的多くみられる。坏・碗類は、須恵器坏の製作技法を模している、体部外面下端に手持ちヘラ削りが施されているものがみられる。また、内面黒色処理とヘラ磨きが施されるものの割合が高い。高台付坏・碗類は、底径6.5～8cmと比較的広いものが大半を占め、高台は低く、直線的なものが多い。甕類は、口径14～30cmほどのもので構成されており、口縁部はつまみあげられ、沈線が巡っているものがほとんどである。須恵器は新治窯のものが大半を占め、少量であるが三和窯、下総地域産のものが見受けられる。ほとんどが酸化焙焼成のような茶褐色をした焼きのあまりよくない須恵器である。

第Ⅱ期（10世紀前葉）

器種構成は土師器の小皿、坏、碗、高台付坏・碗、甕、瓶、羽釜、片口鉢で、須恵器は甕の細片が出土するのみで、ほとんどなくなる。土師器では、小皿が出現し羽釜も破片が確認できるようになる。また、高台付坏・碗類が増加し始める。小皿は、口径約9～12cmで、器高25～28cmの比較的大形なも

	小皿	坏 椀	高台付坏・椀	甕類	その他
I 期 (9世紀後葉)					
II 期 (10世紀前葉)					
III 期 (10世紀中葉)					
IV 期 (10世紀後葉)					

第 372 図 出土土器編年図

のが大半で、小形な坏とも捉えられる。底部はヘラ切りと糸切りのものが混在しているが、ヘラ切りが割合的には多かった。高台付坏・椀類は、坏部が前段階に比べ深くなり始め、口縁部が前段階に比べて外反する。甕類は9世紀後葉に多く見られた口縁部に沈線が巡るものと、沈線が巡らず断面が四角形や丸みを帯びるものとが混在するようになる。

第Ⅲ期（10世紀中葉）

器種構成は、土師器の小皿、坏、椀、高台付坏・椀、高台付小皿、甕、甌、羽釜、鉢、壺で、前段階とはほぼ変わらない。須恵器は、混入と思われる細片が出土するのみである。小皿、高台付坏・椀類が増え、坏・椀類が前段階よりさらに減少する。小皿は、口径8～10cm、器高1.5～2cmほどで、前段階に比べ、小形化が進んでいく。坏・椀類では内面に黒色処理が施されなくなり、扁平で口縁部が大きく外反するものが見られるようになる。高台付椀類は体部が丸みを帯び、脚部が低く断面が三角形状のものが見られる。体部外面下端には、回転ヘラ削りが施される。甕類は、口縁部に沈線が巡るものが見られなくなり、口縁部の断面が四角くなる。高台付小皿は、第174号堅穴建物跡から出土している6・7・8のみで、特殊な器種と言える。上に坏・椀類をのせて使用するなどの用途が考えられるが、いずれも一般的な供膳具ではなく祭祀的な用途が想定される。

第Ⅳ期（10世紀後葉以降）

今回の調査区からはあまり遺構は確認できず、前回の調査区から多く確認されている。器種構成としては坏・椀類は破片は確認されるものの主体ではなくなり、小皿の割合がさらに増え、高台付椀が増加する。小皿はさらに小形化し、底部はほとんどが回転糸切りである。胎土が、硬質で赤褐色になり、形状は中世の土師質土器に類似してくる。高台部は断面が丸みを帯びてさらに低くなるものと、反対に足高台と呼ばれる高台部が高くなるものがあり、椀部が大きくなって体部は丸みを帯びている。高台付坏・椀類の黒色処理の割合が、低くなる。

以上、各期の土器の様相に触れ、特徴を述べてきた。高台付坏・椀の高台部の形態にはバリエーションが多く時期によって細分することは難しいため、器種構成の割合や坏部の形状、甕の口縁部などの特徴などが今回の時期分類には有効であると言える。また全期を通して、内面ヘラ磨きが単位ごとではなく、器を回転台で回転させながら磨きを施したようになっているのが当遺跡での特徴である。

イ) 灰軸陶器・緑軸陶器

今回の調査区の堅穴建物跡10棟（第81・88・91・94・113・115・119・148・163・174号堅穴建物跡）のほか、溝跡や表採などで、猿投産産及び東濃産の灰軸陶器の椀・皿・瓶などが出土している。10世紀前葉から中葉にかけての遺構から確認され、また、前回の調査ⅡA・B区の8棟（第30・33・34・37・42・43・57・77号堅穴建物跡）からも灰軸陶器の椀・皿の破片が出土している。鬼怒川以西の皆葉遺跡⁶⁾や諏訪前遺跡⁷⁾、当遺跡から下流1kmに位置する小貝川川底遺跡⁸⁾などからも、灰軸陶器は確認されており、猿投産産のものが最も多く、三河・遠江地域産が一定量含まれているようである⁹⁾。今回は猿投産産が多く確認されているほか、東濃地域産が一定量含まれていた。また、第115号堅穴建物跡から出土した3は、割れたものを朱墨の転用硯として利用している。また、第122号堅穴建物跡、土坑や溝跡などから緑軸陶器の皿・椀が出土している。特に第122号堅穴緑軸陶器の出土量は周辺遺跡からも少なく、市内では皆葉遺跡¹⁰⁾、一本木遺跡、諏訪前遺跡から椀や皿が少量出土しているのみである。当遺跡の下流には「子飼之渡」の推定地がある。「子飼之渡」は小貝川の渡河地点であるとともに水上交通の要所であることが想定されており、周辺遺跡からも施軸陶器が確認されていることから、当地域

周辺でも交易があったものと思われる。当地域を含め、周辺地域は鬼怒川・小貝川両河川が存在が大き
く、水上交通によって灰釉陶器・緑釉陶器がもたらされていたと考えられる。

ウ) 刻書・ヘラ書き・墨書

今回の調査区から、ヘラ書き・刻書土器は21点、墨書土器が2点出土している。前回の調査区から
も、墨書土器2点、ヘラ書き・刻書土器4点が出土しており、合わせて詳細は以下の表に示した。墨書
土器は前回報告分と合わせて2点出土しており、「要₉」「財₉」という文字が見てとれる。今回は刻書・
ヘラ書きが多くみられ、その中でもいくつか共通するものがある。最も多いものは「×」で8点（「十」
も「×」と同じ）、続いて「大₉」3点で、「女₉」は2点である。「女₉」と「大₉」は同一の記号の可能
性もある。「井」は2点で、そのほか不明な記号を確認した。「井」の字は、九字切りなどの魔除けの意
味合いが考えられ、第174号竪穴建物跡から出土した「井」のヘラ書きのある高台付小皿は一般
的な供膳具としての使用は想定しにくい。「井」の字と合わせて、集落内での祭祀的な意味合いがあっ
た土器と考えられる。これらは10世紀前葉から中葉にかけて多くみられる。この時期にヘラ書き・刻
書が集落内で主に使用されていたものと考えられる。ヘラ書き・刻書土器は、当遺跡の下流に位置する
小貝川川底遺跡¹¹⁾からも多く確認されており、今回確認できた「×」や「大」。「井」といった共通す
るものがある。小貝川川底遺跡（A～D地点）は発掘調査は行われておらず、上流域から流れついた
遺物が表採されていることもあるため、当遺跡の遺物が流れ着いている可能性は十分に考えられる。

表 32 墨書・ヘラ書き・刻書遺物一覧

番号	出土遺物	器物番号	文字・記号	種類	種別	器種	部位	出土位置	時期	備考
1	SI41	259	「風」	墨書	土師器	坏	体部外面	覆土下層	10世紀中葉	前回報告
2	SI48	320	「穴之」	墨書	土師器	高台付碗	体部外面	床面	10世紀後葉	前回報告
3	SI49	345	「十」	ヘラ書き	土師器	高台付碗	底部内面	竈内	10世紀後葉	前回報告
4	SK65	559	「十」	ヘラ書き	土師器	高台付碗	底部	覆土中	10世紀前葉～ 11世紀前葉	前回報告
5	遺構外	619	「米」	ヘラ書き	土師器	高台付碗	底部	L 5 d4	10世紀代	前回報告
6	遺構外	630	「」(不明)	刻書	土師器	高台付碗	底部内面 底部	F 5 g5	10世紀代	前回報告
7	SI90	2	「月」	刻書	土師器	坏	体部外面	約竈穴土層	9世紀後葉	
8	SI92	5	「井」	刻書	須恵器	皿	底部	竈支脚	9世紀後葉	
9	SI96	1	「×」	刻書	土師器	高台付碗	底部内面	竈覆土中層 覆土中層	9世紀後葉	
10	SI97	2	「」	ヘラ書き	土師器	碗	底部	覆土下層	9世紀後葉	
11	SI99	2	「要」	墨書	土師器	碗	体部外面	覆土下層 竈覆土中層	10世紀前葉	
12	SI119	1	「大」	刻書	土師器	坏	体部外面	覆土上層	10世紀前葉	
13	SI122	7	「×」	刻書	土師器	高台付碗	体部外面	覆土中層	10世紀前葉	
14	SI130	5	「×」	刻書	土師器	高台付碗	体部外面	覆土中	10世紀前葉	
15	SI132	2	「大」	刻書	土師器	高台付碗	底部内面	床面	10世紀前葉	
16	SI134	3	「女」	刻書	土師器	高台付碗	底部内面	覆土下層	10世紀前葉	
17	SI139	2	「×」	刻書	土師器	高台付碗	底部内面	床面	10世紀中葉	
18	SI142	1	「×」	刻書	土師器	高台付碗	底部内面	竈覆土下層	10世紀前葉	
19	SI147	1	「井」	ヘラ書き	土師器	高台付坏	底部内面	竈覆土下層	10世紀中葉	
20	SI148	1	「大」	ヘラ書き	土師器	碗	体部外面	P 3 覆土中	10世紀中葉	
21	SI150	3	「井」	ヘラ書き	土師器	高台付碗	底部内面	覆土下層	10世紀前葉	
22	SI154	2	「大」	ヘラ書き	土師器	高台付碗	底部内面	覆土下層	10世紀中葉	
23	SI174	8	「井」	ヘラ書き	土師器	高台付小皿	体部外面、底部	覆土上層	10世紀中葉	
24	SI182	7	「財」	墨書	土師器	高台付坏	体部外面	覆土中	10世紀中葉	
25	SE12	1	「高」	ヘラ書き	土師器	坏	体部外面	覆土中層	10世紀前葉	
26	SE12	5	「賀」	ヘラ書き	土師器	高台付坏	体部外面	覆土中層	10世紀前葉	
27	SK192	1	「×」	ヘラ書き	土師器	高台付坏	体部外面	底部	10世紀前葉	
28	遺構外	9	「女」	刻書	土師器	高台付坏	底部内面	表採	10世紀中葉	
29	遺構外	10	「×」	刻書	土師器	高台付坏	底部内面	表採	10世紀中葉	紡錘車転用

エ) 鋳型・埴塼

第80号堅穴建物跡から、鏡と思われる鋳型片が出土したほか、第550号土坑から廃棄されたと思われる鋳型片が多数出土している。鏡は、梵音具の一種で柄の片側に先端に鈴のような構造が付属する「金鏡」とシンバルのような形を呈する「銅鏡」とよばれるものがある。これは、本来陣中で鼓を中止するためや陣を退却する合図に音を鳴らして使用されたもので、のちに法具に転化したものと考えられている¹²⁹。今回確認された鋳型は、形状から鈴状の構造物が付属する形状の鏡の鋳型と考えられる。古代から近世にかけて出土例が確認されており、同様な鋳型としては、土浦市の日枝神社付近から出土したとされている鎌倉時代のものがあり¹³⁰、形状も類似している。また、第550号から出土した鋳型片は、形状や大きさから小銅仏の可能性も考えられるが、破砕されていることから何の製品の鋳型であったかは明確ではない。破片の焼成具合・形状から3個体以上の製品が想定され、破片の量・大きさからいざれも小形な製品が製作されていたものと考えられる。第550号土坑から出土した埴塼片に付着した鉛滓3点を自然科学分析を行った結果、ろう付け材料とスズ・鉛の合金が使用されていた可能性があげられた。ろう付けは湯鏡や鋳損じなどの補修に使用されていたとされており、当遺跡でも製品製作時にろう付けが行われていたようである。前回の調査区ⅡB区からは、10世紀後葉の第1号鍛冶工房跡が確認されており、銅が付着した埴塼が複数確認されている。今回出土した鋳型片もこういった工房跡に関連のあるものと考えられ、小形の銅製品が当遺跡で製作されていたことが分かった。

オ) 金属製品

今回、7種の堅穴建物跡(第119・121・138・142・146・159・180号堅穴建物跡)から8点の鉄鏃と馬具の鍔り金具1点が出土している。鉄鏃のうち、6点は鉄鏃分類の長三角形Ⅱ式に分類されるもの¹³¹で、2点は、雁又式であった。鏃矢は、9世紀後半から10世紀代に北関東地方では三角形Ⅲ式・長三角形Ⅲ式が継続して、雁又式と拮抗した数比となって出土するとされており¹³²、今回出土した鉄鏃の様相とも合致する。第119号堅穴建物跡から出土した鍔り金具は木製の鍔に付属する吊金具で、上部と接続する鎖部分が巻きついて残存している。鍔をとめる鋸も若干残っている。また、鍔り金具や、堅穴建物跡の覆土中から馬歯が出土していることから、馬に関わる集団の存在も想定される。今回の調査区に比べ、10世紀中葉以降の遺構が多い前回の調査区からの金属製品の出土は少なく、出土した遺構の年代からも9世紀後葉から10世紀前葉にかけて金属製品は主に使用されていたものと考えられる。

(2) 遺構

今回の調査区で確認できた堅穴建物跡116棟と、前回報告分の73棟(第1号鍛冶工房跡を含む)を合わせてみると、共通することは、住居の規模は1辺5mを越えるものは少なく、3～4mほどの小形なもので構成されていることや、明確に柱穴が確認できないものが多いことが挙げられる。県内でもこの時期は堅穴建物跡の大きさが小形化していく傾向であり、同様に当遺跡でも小形な堅穴建物の集落が営まれている。以下、当遺跡で特徴的な遺構について述べてゆきたい。

今回の調査区で特徴的なものとしては、北東壁隅・北西壁隅に張り出し部をもつ堅穴建物跡がまず挙げられる。張り出し部を持つのは全部で15棟(第110・114・127・138・142・148・150・154・155・158・159・162・163・179・183号堅穴建物跡)で、張り出し部に貯蔵穴が付設されているものがそのうち7棟(第110・127・138・148・163・179・183号堅穴建物跡)確認でき、張り出し部に貯蔵穴が付設される形態が多く確認された。張り出し部の位置は北東隅に確認できるものが15棟中11棟で多い。時期は、9世紀後葉が4棟、10世紀前葉が6棟、10世紀中葉が5棟であり、時期によって張り出し部をもつ遺構の

増減は確認できなかった。こういった張り出し部を持つ竪穴建物跡は、結城市の下り松道跡¹⁰、油内遺跡¹¹、小次郎内遺跡¹²、八千代町の一本木道跡で確認されている。これらも9世紀後葉から10世紀代にかけての集落で、当遺跡の時期と共通することからも、この時期に特徴的な形状であると言える。また、当遺跡の竈は奥まって付設され、火床面が煙道部側に寄り、壁のラインより外へ張り出してしまいう位置で確認されるものが多い。これらの形状から、竈の両脇に棚状施設が付設する構造が想定される。今回明確に棚状施設であると確認できたものは、9世紀後葉の第91号竪穴建物跡、10世紀前葉の第131・162号竪穴建物跡の3棟のみである。しかし、地山面が固い粘土質で掘り残しても崩れにくい点や、確認される竪穴建物跡の大きさが小形なもので、建物内の空間を有効的に使用できる点などから、張り出し部を持つものや竈の火床面が煙道部側へ寄って壁外へ張り出しているものに関しても、同様に棚状施設が付設される構造である可能性が考えられる。今回は遺構の掘り込みが浅く、上部はかなり削平を受けている可能性があり、検出されなかったものも多いと考えられる。

竈の袖・煙道部・支脚に関しても共通する特徴が確認できた。まず、竈の袖は地山を掘り残して構築されるものが多いことである。粘土は貼り付けの袖部が確認できたものは数棟程度で、多くは地山掘残しの袖部である。前回の報告書の中でも地山を掘り残して袖を構築するものが多く、これは粘土質の地山であることが要因で、立地的な特徴であると言える。煙道部が崩落せずに残存しているものが多いことにも共通する。ただし、袖部が確認できないものも多く、もともと袖が存在しない構造及び、覆土との違いが明確ではなく、掘削されてしまった可能性がある。

竈の煙道部では、細く長い形状をしているものが多く確認されている。第85・91・114・117・120・138・143・149・152・160・165・183号竪穴建物跡の竈の煙道部が顕著で、煙道部が一般的な竈の倍ほどの長さで、先端部に向かってかなりすぼまる形状をしている。煙道部が長い竈の例としては、県北地域の太子町橋元遺跡と同様な形状の竈が確認されているが、地域の特徴であるとされている。これは東北地方で確認される煙道部の長い竈との関連があるものと考えられるが、当遺跡は立地的に東北地方の影響とは考えにくい。橋元遺跡も当遺跡と同様に地山が粘土質であることから、立地条件あるいは周辺地域の例との関連性を考えた方が妥当であるが、今回は明確にできなかった。

最後は、支脚として坏類を重ねて使用しているという特徴である。遺跡全体として支脚が確認できたのは十数棟程度で、支脚自体の使用は低調であったものと考えられる。最も多いのは石の支脚であったが、坏類が使用されるものも多く、第92・143・159号竪穴建物跡や前回調査区の第43号竪穴建物跡では、5個体以上の土器が逆位で重ねられて使用されている例が確認できた。多くは破損した土器を、転用したもので、当時の人々の生活の工夫を知ることができる。当遺跡では、こういった竈構造に特徴を持つ竪穴建物跡が多く確認されており、今後は立地条件や地域的な検討が必要になるものと考えられる。

(3) 集落の様相

竪穴建物跡は南北に長い調査区の標高18～19mの平坦部に立地しており、中央部と北部に一部空白地があるほかは、今回報告分の116棟と、前回調査区の74棟（第1号鍛冶工房跡を含む）の合わせて190棟が調査区全体から確認されている。今回の土器編年によって分類した遺構（9世紀後葉～10世紀後葉）について配置や特徴などを確認し、変遷を記述したい。また、前回調査区の遺構については、今回の土器編年案に基づき、時期の再分類を行った。

ア) I期 (9世紀後葉)

今回の調査区から確認された9世紀後葉の堅穴建物跡は27棟(第79・80・83～85・88～92・94～97・99・104・105・107・109・110・114・125・158・159・169・172・195号堅穴建物跡)である。そのほか、9世紀前葉から中葉にかけての堅穴建物跡が1棟(第106号堅穴建物跡)、9世紀中葉が1棟(第198号堅穴建物跡)確認されており、当期より若干古いものと考えられる。前回の調査ⅡA・B区の5棟(第12・14・19・38・44号堅穴建物跡)を合わせて当該期の堅穴建物跡は34棟である。調査区が南北に長い西側への広がりには明確ではないものの、遺構は主に調査区南部の東側に集中しており、中央部および北部にかけてはほとんど確認されない。堅穴建物跡の形態は方形と長方形が同量程度で、1辺が3～4mの小形である。竈は北壁に付設されるものが34棟中27棟と多い傾向にある。主軸方向は、北東方向のものと東方向のもので、若干のずれはあるもの、おおむね揃っている。当期より、本格的に当遺跡で集落が営まれるようになる。

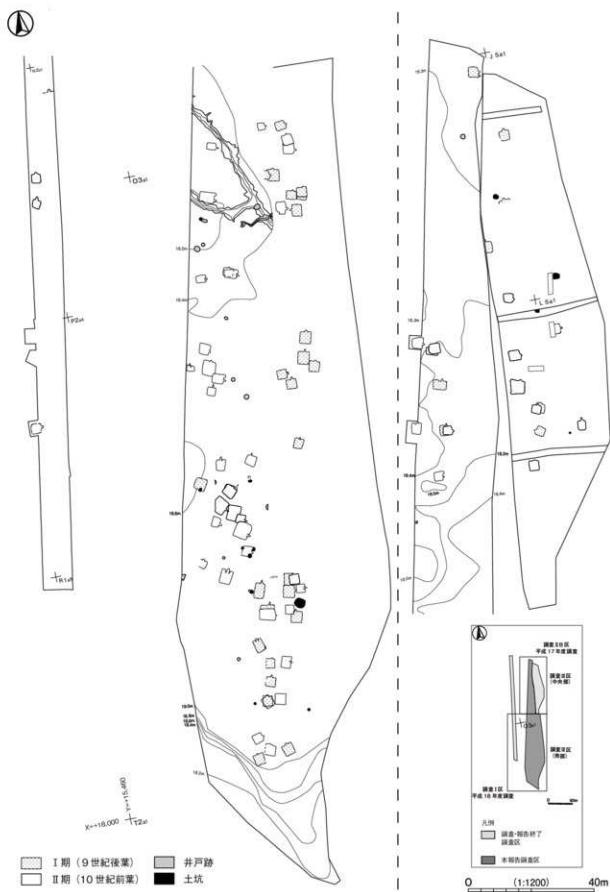
イ) II期 (10世紀前葉)

今回の調査区からは最も多い46棟(第81・82・86・87・98・100・101・103・108・111・115・117～124・129～134・138・140・142・143・146・149・150・153・155・156・161・162・164・170・171・180・183・186・188・196・197号堅穴建物跡)が確認されている。前回の調査Ⅰ区からは4棟(第3・4・6・8号堅穴建物跡)、調査ⅡA・B区から7棟(第27・29・30・33・37・39・43号堅穴建物跡)を合わせると、当該期の堅穴建物跡は57棟である。前段階に比べて堅穴建物跡が増加する。

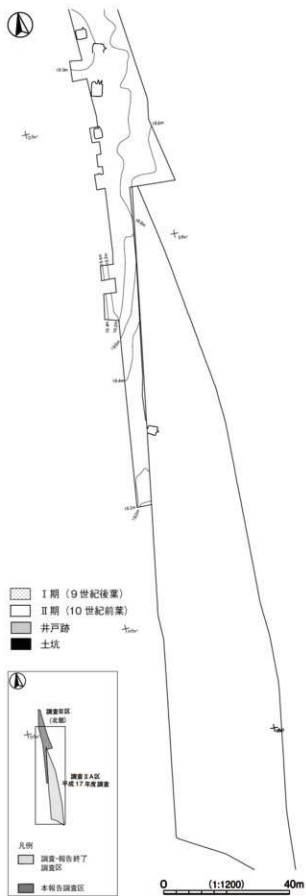
堅穴建物跡は調査Ⅲ区の北部に4棟のみ確認されているが、主になるのは調査区南部および中央部である。特に南部に集中しており、前段階に比べ西側へ広がっていく。大きさは、前段階に引き続き1辺3～4mほどの小形なものが主であるが、長軸方向が5mほどの他のものに比べ少し大形なものが数棟確認されるようになる。竈は、北壁と東壁に付設されるものがあるが、東壁に付設されるものが若干増えてくる。次期差がほとんど見られない重複が激しく、南部の第119・121・124・153号堅穴建物跡は4棟が重複している。主軸方向がほぼ一致していることから、同一の集団が建物の作り替えを行ったものと考えられる。同様なことは、前段階の第80・107号堅穴建物跡と重複する第81・82号堅穴建物跡と、次段階の堅穴建物跡建物と重複する調査区北部の4棟に関しても当てはまるものと考えられる。

調査Ⅲ区中央部からは、第34・45号溝跡が確認されている。第2次面の第45号溝跡の底面からは8世紀代の土器が出土しており、10世紀前葉以降には堅穴建物跡が建てられるようになることから、10世紀はじめ頃までに機能していたようである。自然流路と考えられ、地形的には西から東への流れが想定でき、西側には支流が存在していたか、小貝川の流路が変わっていた可能性がある。また、8世紀代の土器が出土していることから、上流(調査区外)には今回確認された遺構より古い時代の集落の存在が窺われる。

調査Ⅲ区の南部からは火葬墓が1基確認され、須恵器の長頸瓶の頸を打ち欠き、体部中央に外面からの穿孔が見られる骨蔵器と土師器の小皿を蓋として利用したものが出土している。土師器の小皿から、10世紀前葉と考えられるが、須恵器の長頸瓶とは時期差がある。今回のような骨蔵器に穿孔が施されるものは関東でも8世紀から9世紀代に類例が確認されている¹³⁾。この頃、当地域にも火葬の風習があったことを示す例であるとともに集落内に墓域の存在が確認できた。



第373図 I・II期変遷図(1)



第374図 I・II期変遷図 (2)

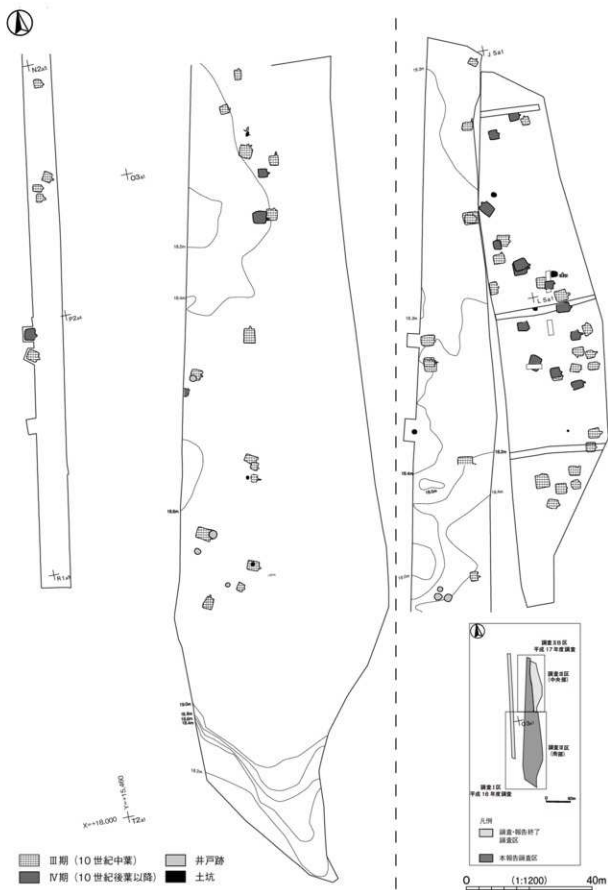
ウ) III期 (10世紀中葉)

今回の調査区からは、36棟(第93・102・112・113・116・127・128・137・139・141・147・148・151・152・154・157・160・163・165～168・173・～176・178・179・182・184・185・187・189・191～193号堅穴建物跡)が確認されている。前回の調査I区から5棟(第1・5・7・9・10号堅穴建物跡)、調査II A・B区の26棟(第11・16・17・20・25・26・31・34～36・40～42・46・48・52～54・58・64・66・67・73～75・77号堅穴建物跡)を合わせて、堅穴建物跡は67棟で、最盛期を迎える。

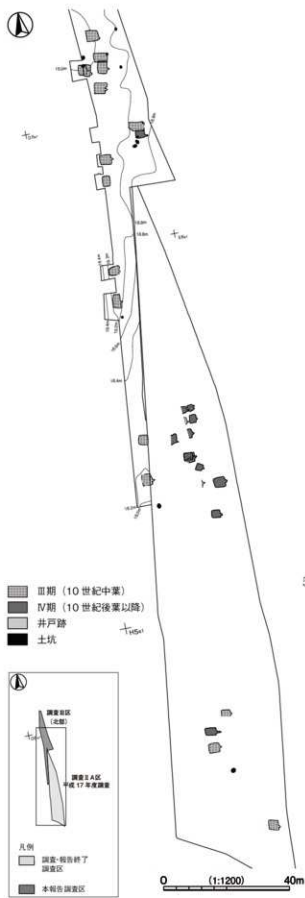
遺構の分布としては、調査区南部にも数棟確認されているものの、中央部および北部にかけて多く確認されていることから集落は北へ推移していくようになる。堅穴建物跡の規模は前段階に比べ1辺4mほどのものが若干増えて大きくなる傾向が見られるが、基本5m以上になるものは少なく、小形なものが主である。竈は北壁に付設するものが残るが、東壁に付設されるものが67棟中45棟と大半を占めている。重複は前段階に比べ、減少する。前段階と同様に主軸方向や規模が類似する建て替えと考えられるものも確認できるが、前段階と比べて重複は少なく、2棟重複がみられるのみである。

エ) IV期 (10世紀後葉以降)

今回の調査区で確認できたのは調査区中央部および北部から4棟(第135・136・144・190号堅穴建物跡)のみで、前回の調査I区から1棟(第2号堅穴建物跡)、調査II A・B区から26棟(第13・15・18・21・23・24・28・45・47・49～51・55～57・59～61・63・65・68～72号堅穴建物跡、第1号鍛冶工房跡)が確認されており、合わせると当該期の堅穴建物跡は31棟である。前段階に比べ減少傾向になる。遺構の分布は調査区の南部にはほとんど確認されず、中央部東側から北部にかけて多く確認され、集落がさらに北東部へ推移している様子が見てとれる。堅穴建物跡



第 375 图 Ⅲ・Ⅳ期変遷図 (1)



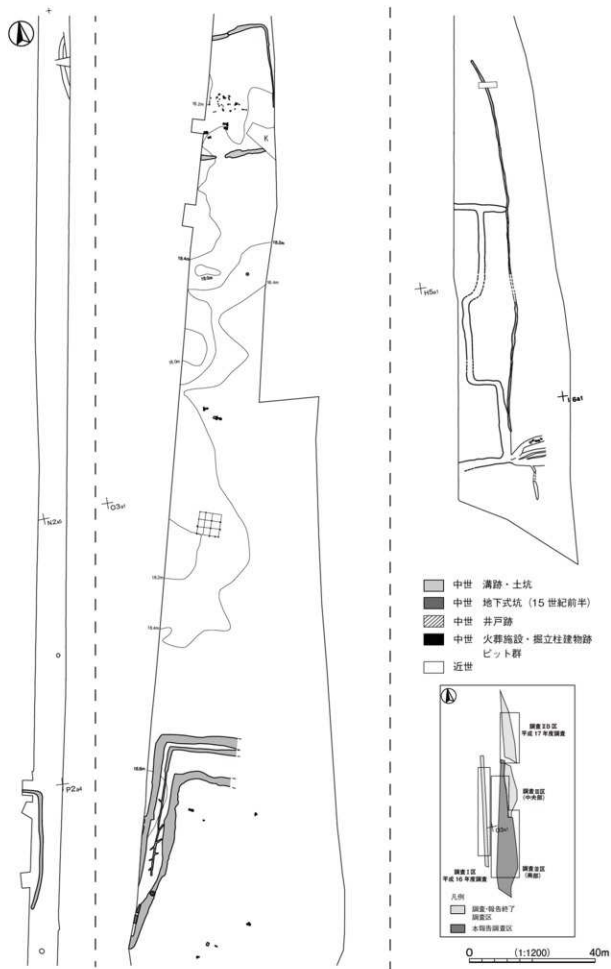
第376図 第Ⅲ・Ⅳ期変遷図 (2)

の規模は、1辺25～35mほどで前段階より小形なものが増加し、竈は東壁へ付設されるものがほとんどで、主軸方向もほぼ揃っている。

以上、集落の変遷を述べてきたが、大堀東遺跡においては、Ⅰ期から集落が営まれ始め、Ⅱ期にかけて竪穴建物跡が増加し、集落のピークはⅡ期にあったことが分かる。それ以降は11世紀前半までで集落は衰退してしまう。また、竪穴建物跡の変遷から、集落は時期が下るごとに南東部から北東部へ推移していくことが分かった。また、Ⅱ・Ⅲ期にかけては、近接した場所に同じような建て替えが行われたものと考えられ、主軸方向や大きさが揃った竪穴建物跡の重複が多くみられる。今回、覆土中には氾濫堆積のようなものは確認できなかったが、この時期には建て替えが行われるような要因があったことが想定される。南北に長い調査区のため、集落の変遷をさらに見るためには、調査区の西側の調査が待たれるが、今回は南北における集落の様相を確認することができた。第35・45号溝跡から、集落跡よりも古い8世紀代の遺物が確認されていることから、溝跡の上流(西側)にはこの時代の集落が営まれていた可能性がある。

5 中世

今回の調査区から確認できた中世の遺構は、掘立柱建物跡1棟、火葬施設12基、地下式坑2基、溝跡7条(うち4条は一連のものと考えられる)、土坑2基である。特徴的な遺構は、火葬施設で、粘土質の地山であるため、12基のうち、3基は天井部が残存した状態で確認されているほか比較的良好な状態で確認されている。形状は、T字形の形状をしているものが5基、呂字形が5基、燃焼部の不整形長方形のみが確認できたものが2基である。燃焼部は長軸0.68～1.36m、短軸0.26～0.77mの長方形を呈しており、比較的小形である。燃焼部からは多量の炭化材が出土しており、燃料材の残りである。燃焼部の形状が小形であることから、燃焼部の上部に燃焼材を組んだ上で火葬したことが想定される。県内でも中世の火葬施設は県南



第 377 図 中・近世遺構配置図

地域を中心に多く分布が確認されており、同様な形状のものは、つくば市熊の山遺跡や、土浦市諏訪久保遺跡²⁰、東出遺跡、神出遺跡²¹などからも確認されている。火葬施設から、遺物が出土する例は稀で、県内でもつくばみらい市の前田村遺跡J区の第3084号土坑（火葬施設）から骨片・焼土・炭化物とともに内耳鍋が底面から出土したほか、第3278号土坑（火葬施設）²²から土製数珠玉が出土している。そのほかに土浦市の諏訪久保遺跡の第1号火葬施設から銅銭5枚が出土しているものが確認されているが、その他時期決定が可能な遺物を伴って出土することはかなり少なく、帰属時期は大きく中世という表現にとどまっているものが多い。今回、調査区から確認された中世の遺構としては、地下式坑と井戸跡から出土した遺物から15世紀前半に比定できる。火葬施設に関しても同様な時期であることが想定され、関東地方では中世の後半から火葬施設の確認例が増加するという傾向にも合致することから、15世紀～16世紀のうちに取まる時期のものであると考えられる。また火葬後に拾骨するため、骨が骨片しか残らないものや、火葬後そのまま埋葬施設として利用されるものがある。今回確認できた火葬施設は骨格の全体量からみると非常に少量である骨片しか出土していないことから、すべて拾骨が行われているものと考えられる。前回と今回の調査区内からは中世に帰属する墓坑は確認できなかったことから、調査区域外には墓域が存在するものと考えられる。

また、溝跡が7条確認されており、うち調査区南部の3条は平成25年度調査区の1次面からL字状に確認されているが、平成24年度調査区からは確認できなかったため途中で途切れてしまっている。これは平成24年度の調査は確認面が高かったため、遺構が明確に確認できておらず、本来はさらに東側へ延びていくものと想定できるものである。3条が並行して存在していることから、同時期のもので、これらの溝跡は形状から区画の溝と推測される。また、調査区中央部の第20・51・56・59号溝跡は途切れてはいるものの、方形に巡る形状をしているものと考えられ、その中にはピット群・火葬施設が存在することから、こちらも区画のような機能が推測される。以上から、中世には当遺跡は墓域に関わる土地利用がなされていたことが分かった。これ以降は、前回報告の調査ⅡB区より、五輪塔を使用した近世の石組み遺構や溝跡が確認されている以外は明確ではない。確認できた小規模な掘立建物跡やピット群が関連する可能性はあるが、明確ではない。おそらく、中世遺構、当地における土地利用があまりなされなかったものと考えられる。

6. おわりに

遺物・遺構・今回確認できた平安時代の堅穴建物跡はおおむね9世紀後葉から11世紀前葉の枠に取まるもので、県内でも、7世紀代から9世紀代にかけて継続的に営まれる集落跡は多いものの、9世紀後葉から集落が営まれ始め、10世紀代の堅穴建物跡がこれほど集中して確認された例は少ない。9世紀後葉から10世紀代は、全国的に律令制度が弛緩し、各地に私営田領主が現れ地方の自立性が高まっていく時期である。この時期に限定して集落が営まれているということはこういった社会的背景が関係しているものと考えられる。また、この時代周辺地域では『将門記』に現れるように将門が活躍した時期とも合致する。当遺跡からは、明確に将門と関連のある遺物・遺構というものは確認できなかったものの、立地的にも当時の情勢や歴史的事実は少なからず関わってきているものと考えられる。

以上、旧石器時代から中世にかけて遺構・遺物に触れ様相を概観した。当地は縄文時代には、狩猟の場として土地利用がなされ、主となる平安時代では、9世紀後葉から10世紀後葉にかけて集落が営まれていた。中世では火葬施設や溝・井戸跡が確認できたことから墓域に関わる土地利用がなされ、それ以降は当地での土地利用はあまりなされていなかったものと考えられる。当遺跡の調査は、河川改修工事に伴うもので、小貝川に沿って南北に長い範囲での調査であり、東西への広がりは今回明確に確認できなかったところが多い。遺跡の全容を明らかにするには不十分であるが、遺跡の画期や特徴を明らかにすることができた。しかし、

当地域における古代の様相はまだまだ不明瞭な点が残っており、小貝川・鬼怒川流路や当時の自然環境、地形、政治情勢・歴史的背景を踏まえ、更に検討が必要である。今回検討不十分な点も含めて今後の課題としたい。

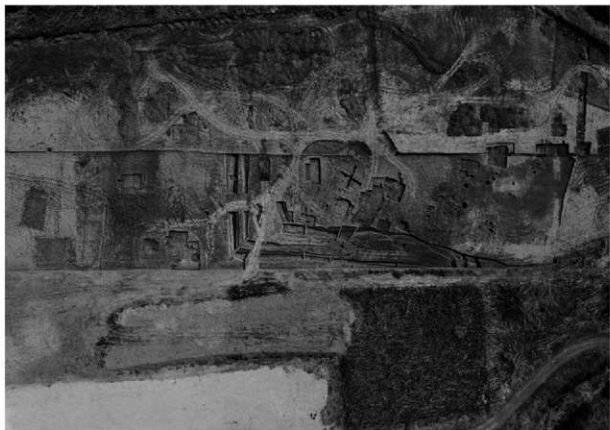
註

- 1) 近藤恒重 田月淳一「大塚東遺跡 小貝川中流部河道掘削事業地内埋蔵文化財調査報告書1」茨城県教育財団文化財調査報告第269集 2007年3月
- 2) 下妻市史編さん委員会「下妻市史 上」下妻市役所 1994年11月
- 3) 千代田村史編纂委員会「村史 千代田村生活史 第5巻 前近代通史」千代田村 2003年3月
- 4) 稲田義弘「熊の山遺跡出土の平安時代の土器様相-土師器を中心として-」『領域の研究-阿久津久先生選評記念論集-』阿久津久先生選評記念事業実行委員会 2003年4月
- 5) 小島敏「つくば市熊の山遺跡の10世紀遺構の土器様相-平成8年度調査の成果から-」『研究ノート7号』財団法人茨城県教育財団 2007年6月
- 6) 千代田村委員会「菅葉遺跡発掘調査報告書-1級村道9号線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-」千代田村埋蔵文化財発掘調査報告書第9集 千代田村教育委員会 2003年3月
- 7) 下妻市「諏訪前遺跡(第2地点)」下妻市埋蔵文化財調査報告書第7集 下妻市 2012年3月
- 8) 註3に同じ
- 9) 註3に同じ
- 10) 註3に同じ
- 11) 註3に同じ
- 12) 香取忠彦「新版仏教考古学講座」5 1976年3月
- 13) 霞ヶ浦町郷土資料館「第23回特別展 祈りの造形-中世霞ヶ浦の金工品-」霞ヶ浦町郷土資料館 2000年10月
- 14) 津野仁「古代・中世の鉄鏡-東國の出土品を中心にして-」『物質文化』第54号 物質文化研究会 1990年3月
- 15) 津野仁「中世鉄鏡の形成過程と北方系の鉄鏡」『土曜考古』第25号 土曜考古学研究会 2001年5月
- 16) 結城市教育委員会「下り松」結城市教育委員会 2014年3月
- 17) 川津法伸 平石尚和「一般国道50号結城バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 下り松遺跡 油内遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第145集 1999年3月
- 18) 八千代町教育委員会 株式会社 地域文化財コンサルタント「小次郎内遺跡発掘調査報告書-農業集落排水事業川西南部地区処理施設建設に伴う遺跡の発掘調査-」八千代町埋蔵文化財調査報告12 八千代町 2007年9月
- 19) 吉澤悟「穿孔骨磁器にみる古代火葬墓の造営理念」『日本考古学』12号 日本考古学協会 2001年10月
- 20) 土浦市教育委員会「諏訪久保遺跡-保育園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」土浦市教育委員会 2007年4月
- 21) 土浦市教育委員会「家出・神出・中居遺跡-宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書-」土浦市教育委員会 1999年4月
- 22) 小林孝 飯島一生「伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 前田村遺跡」・K区」茨城県教育財団文化財調査報告第147集 1999年3月

写 真 图 版



平成24年度調査区全景



平成25年度調査区全景

PL2



平成26年度調査区1次面全景



平成26年度調査区2次面全景

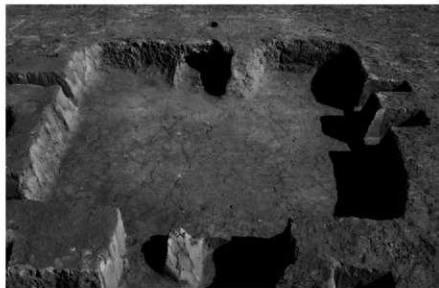


平成28年度調査区中央部全景



平成28年度調査区北部全景

PL4



第82号竖穴建物跡



第90号竖穴建物跡



第92号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第92号竖穴建物跡



第99号竖穴建物跡



第102号竖穴建物跡

PL6



第107号竖穴建物跡



第114号竖穴建物跡
第210~212号土坑



第115号竖穴建物跡



第117号竖穴建物跡



第123号竖穴建物跡



第127号竖穴建物跡

PL8



第128号竖穴建物跡



第129号竖穴建物跡



第130号竖穴建物跡



第132号竖穴建物跡



第134号竖穴建物跡



第135号竖穴建物跡

PL10



第135号竖穴建物跡竈



第136号竖穴建物跡



第137号竖穴建物跡
竈遺物出土状況

第138号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第139号竖穴建物跡



第142号竖穴建物跡



PL12



第143号竖穴建物跡



第148・149号竖穴建物跡



第150号竖穴建物跡



第151号竖穴建物跡

第152号竖穴建物跡
遺物出土状況

第154号竖穴建物跡

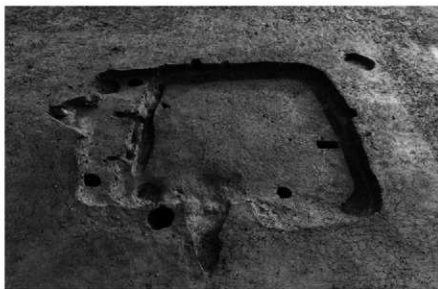
PL14



第155号竖穴建物跡



第157号竖穴建物跡



第158・164号竖穴建物跡



第159号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第159号竖穴建物跡



第160号竖穴建物跡

PL16



第160号竖穴建物跡竈



第161号竖穴建物跡



第162号竖穴建物跡



第163号竖穴建物跡



第165号竖穴建物跡



第166号竖穴建物跡



第169号竖穴建物跡



第172号竖穴建物跡
遺物出土状況



第174号竖穴建物跡
遺物出土状況



第174号竖穴建物跡



第175号竖穴建物跡

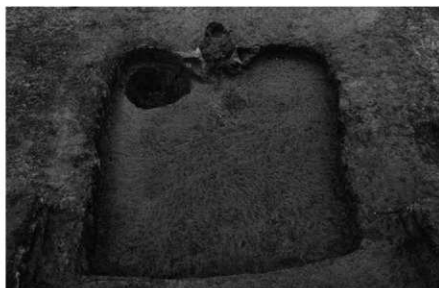


第179号竖穴建物跡
遺物出土状況

PL20



第179号竖穴建物跡
竈遺物出土状況



第179号竖穴建物跡



第180号竖穴建物跡



第182号竖穴建物跡



第183号竖穴建物跡



第183号竖穴建物跡竈

PL22



第184号竖穴建物跡



第187号竖穴建物跡



第188号竖穴建物跡



第 34 号 沟 迹



第 45 号 沟 迹



第 56 号 沟 迹

PL24



第5号掘立柱建物跡
第11号ピット群



第1号火葬施設
遺物出土状況
(炭化材・骨)



第2号火葬施設



第 3 号火葬施設



第 5 号火葬施設



第 7 号火葬施設

PL26



第9号火葬施設



第10号火葬施設



第11号火葬施設



第12号火葬施設



第1号火葬墓
遺物出土状況



第1号地下式坑



第12号井戸跡遺物出土状況



第13号井戸跡



第14号井戸跡



第16号井戸跡



第17号井戸跡



第20号井戸跡



第22号井戸跡



第30号井戸跡



第32号井戸跡



第34号井戸跡



第1号墓坑遺物出土状況 (歯)



第192号土坑遺物出土状況



第264号土坑遺物出土状況



第288号土坑遺物出土状況（炭化材・骨）



第300号土坑



第550号土坑



第574号土坑遺物出土状況



第608号土坑遺物出土状況



第84·88·91·99号竖穴建物跡，第45号溝跡出土土器

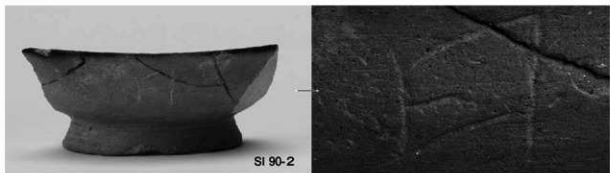




第124·127·134·138·141·146·153·159号竖穴建物跡出土土器



第86・92・159・172・173・182・195号竖穴建物跡，第226号土坑出土土器



第90・96・111・113・114・116・119号竖穴建物跡出土土器





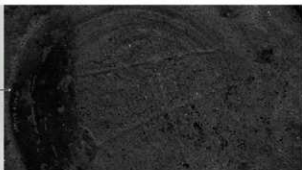
第141·143·147·149·150·153·155·158号竖穴建物跡出土土器





第179・182・197号竖穴建物跡，第255・264号土坑，第12号井戸跡出土土器

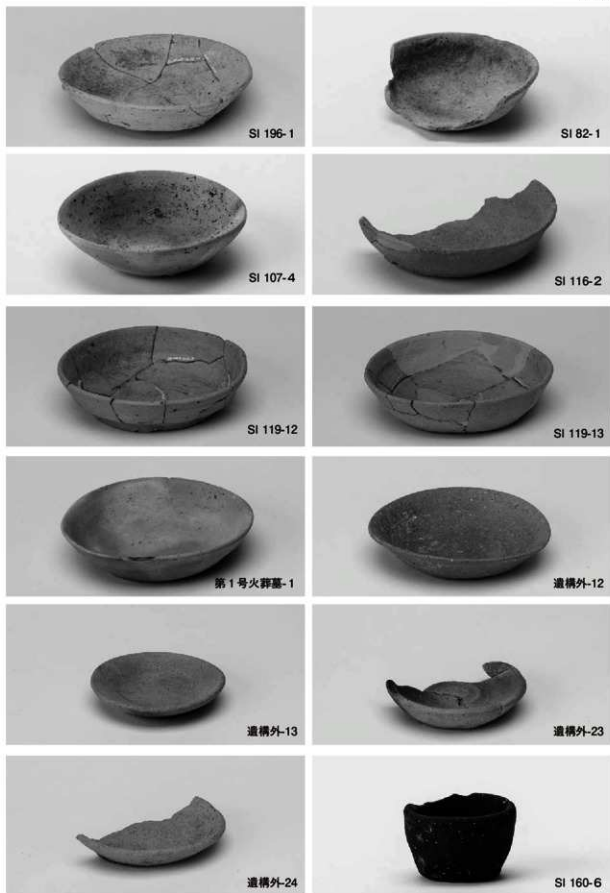
PL40



第91・92・174号竖穴建物跡，第12・30・32号井戸跡出土土器







第82・107・116・119・160・196号竖穴建物跡，第1号火葬墓，遺構外出土器

PL44

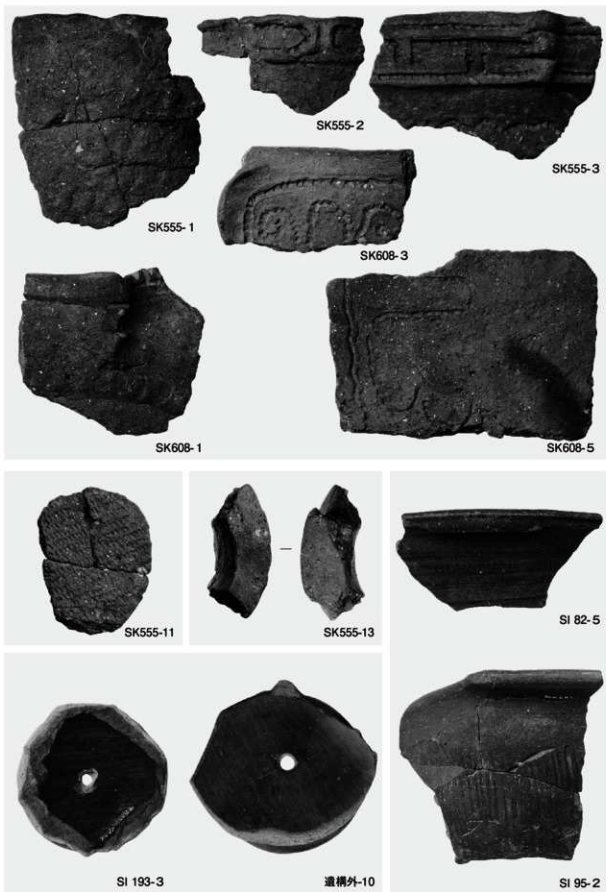


第88・90・91・173号竖穴建物跡出土土器



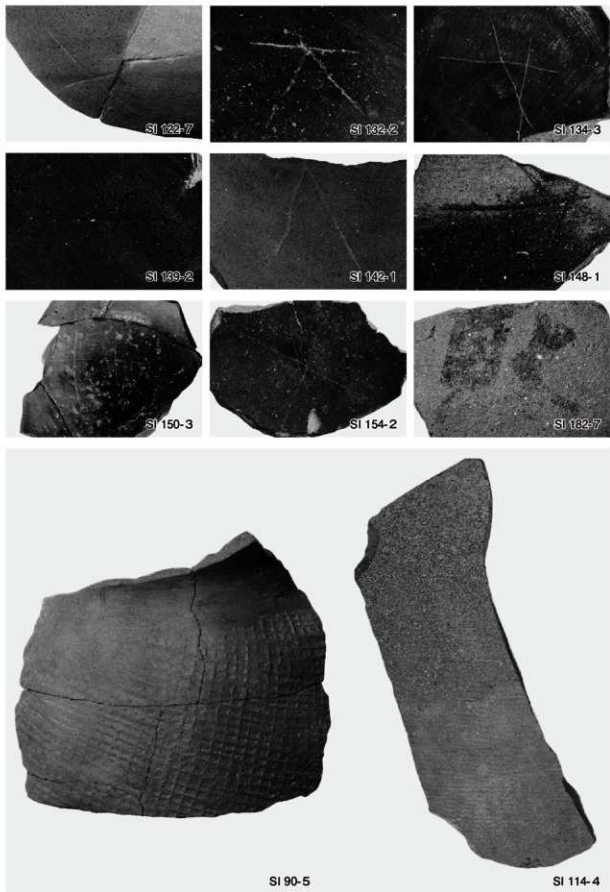
第92・108・112・127・184号竪穴建物跡，遺構外出土土器



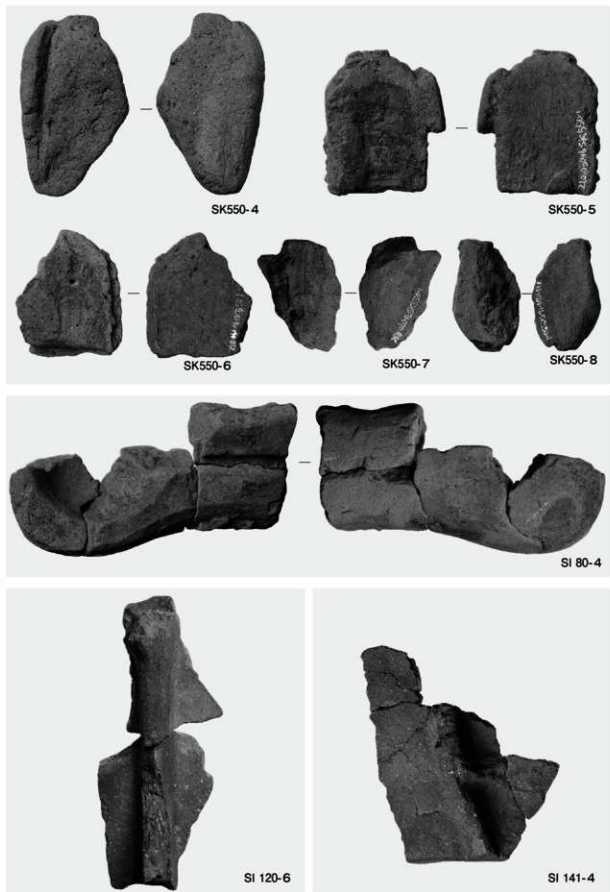


第82・95・193号豎穴建物跡，第555・608号土坑，遺構外出土土器

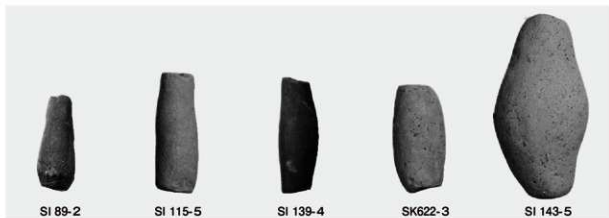
PL48



第90·114·122·132·134·139·142·148·150·154·182号竖穴建物跡出土土器



第80・120・141号竖穴建物跡，第550号土坑出土土製品



SI 89-2

SI 115-5

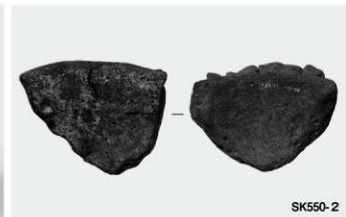
SI 139-4

SK622-3

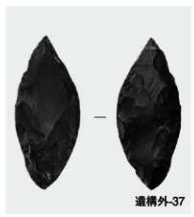
SI 143-5



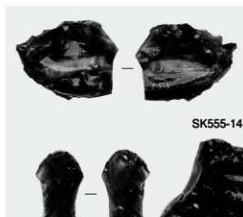
SI 197-6



SK550-2



遺構外-37



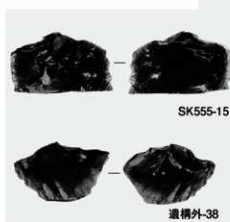
SK555-14

SK555-16



SK555-17

遺構外-39



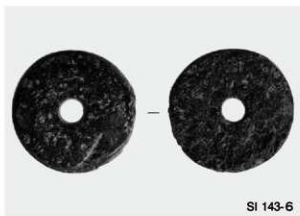
SK555-15



遺構外-38



SI 185-1



SI 143-6



SK260-2



SI 184-7



遺構外-42



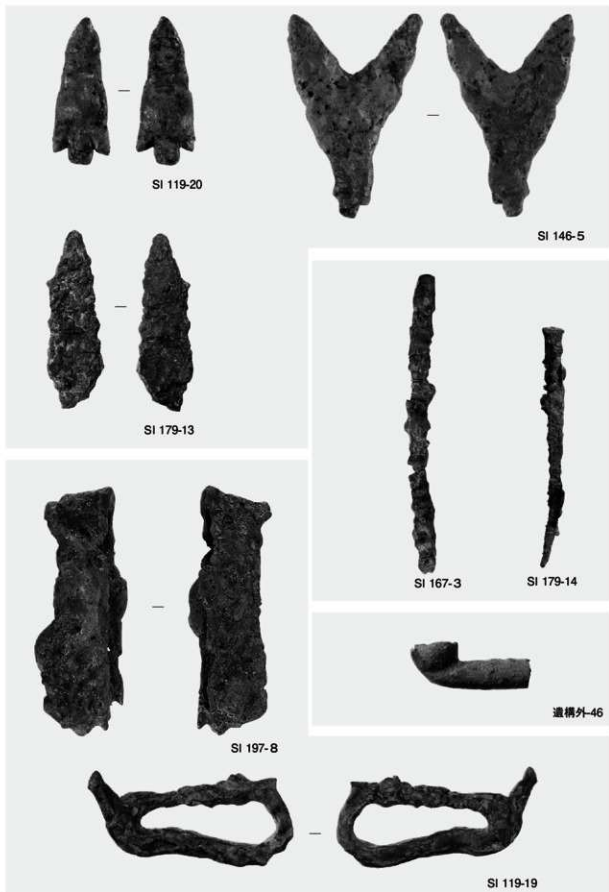
遺構外-43



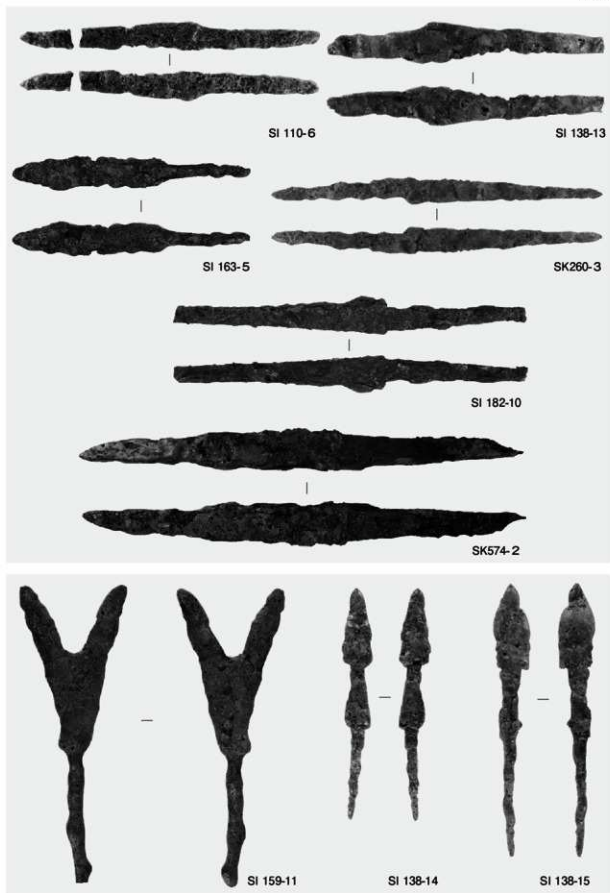
SI 115-6



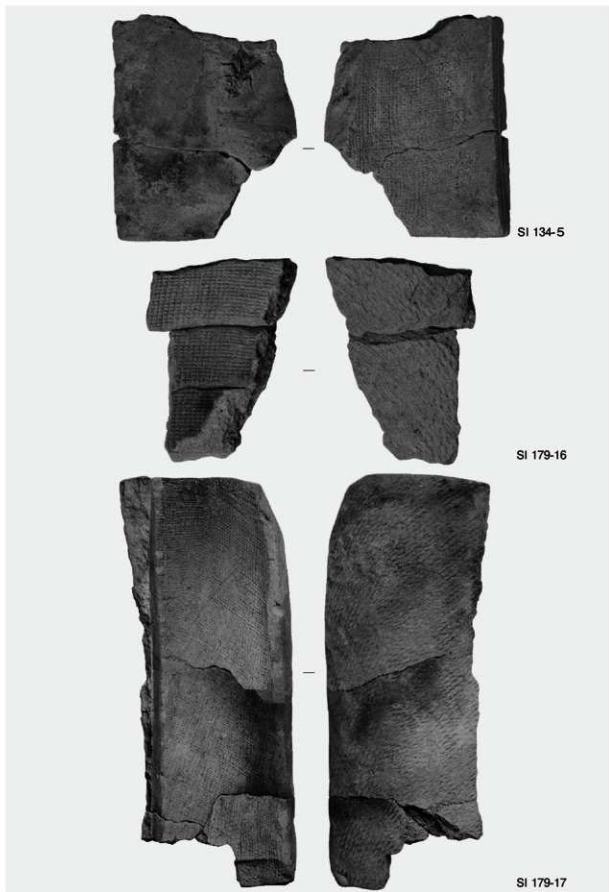
SD56-1



第119・146・167・179・197号竖穴建物跡，遺構外出土金属製品



第110・138・159・163・182号竖穴建物跡，第260・574号土坑出土金属製品



抄 録

ふりがな	おおほりひがしいせきに								
書名	大堀東遺跡2								
副書名	小貝川改修事業地内埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第442集								
著者名	天野早苗 大武宣隆 江原美奈子								
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2020(令和2)年3月16日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
大堀東遺跡	茨城県下妻市 樋橋字大堀東415 -1番地ほか	08210 - 060	36度 9分 55秒	140度 0分 22秒	18 ~ 19m	20120101 20130131 20140101 20140331 20141101 20153031 20161101 20170331	8,200㎡ 3,290㎡ 3,333㎡ 5,085㎡	小貝川改修事業に伴う事前調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
大堀東遺跡	その他	旧石器			石器(尖頭器・石核)				
	その他	縄文	陥し穴 土坑	1基 2基	縄文土器(深鉢・浅鉢), 土器片円盤, 耳栓, 剥片				
	集落跡	平安	竪穴建物跡 井戸跡 火葬墓 墓坑 溝跡 土坑	116棟 21基 1基 1基 2条 23基	土師器(坏・輪・高台付坏・高台付輪・ 小皿・皿・高台付小皿・高台付皿・ 鉢・甕・瓶), 須恵器(坏・高台付坏・ 鉢・甕・瓶・短頸壺), 灰釉陶器(皿・ 輪・短頸壺・広口壺), 緑釉陶器(輪・ 皿), 土製品(鍔型・羽口・置き竈・ 紡錘車), 石器・石製品(砥石・支 脚), 金属製品(鍔金具・釦金具・ 刀子・鉄鏝・鉄鎌・鉄釘・鉄鉋), 瓦(斐斗瓦・丸瓦・平瓦)				
	墓域	中世	掘立柱建物跡 火葬施設 地下式坑 井戸跡 溝跡 土坑 ピット群	1棟 12基 2基 5基 7条 2基 1ヶ所	陶器(碗・片口鉢), 五輪塔(空風輪)				
	その他	近世				陶器(碗・灯明皿), 金属製品(燗管)			
	その他	時期不明	掘立柱建物跡 井戸跡 柱穴列 溝跡 土坑 ピット群	4棟 5基 9条 27条 373基 11ヶ所					
要約	当遺跡は縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。主に、平安時代に集落が営まれ、最盛期を迎える。緑釉陶器・灰釉陶器なども確認されており、当時の有力者の存在や交易の様子をうかがい知ることができる。中世では、火葬施設が確認されていることから主に墓域に関わる土地利用がなされていたものと考えられる。								

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CC
	図版作成	Adobe Illustrator CC
	写真調整	Adobe Photoshop CC
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
	図面類	EPSON ES-G11000
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷	印刷所へは、	Adobe InDesign CCでレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第442集

大堀東遺跡 2

小貝川改修事業地内
埋蔵文化財調査報告書

令和2（2020）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4241

